

YODONOUCHI 4

# 淀の内遺跡IV

- 村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書 -

2001.3

長野県山形村教育委員会

YODONOUCHI 4

# 淀の内 遺跡Ⅳ

- 村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書 -

2001.3

長野県山形村教育委員会



ひすい製垂飾

左:SK-034 右2点:SK-049



ひすい製垂飾出土状況 (左:SK-034 右:SK-049)



出土土器

## 序 文

---

淀の内遺跡は、山形村内に数ある遺跡の中でも代表的なものの一つに上げられます。

この淀の内遺跡の中を通る、村道2級1号線拡幅工事が平成9年から3年間にわたり実施されることになり、文化財の保護を図るために緊急発掘調査を実施しました。

淀の内遺跡はこれまでの発掘調査で、縄文時代と平安時代の遺構・遺物が多数発見され、特に縄文時代中期には大規模な集落が営まれていたことが判っています。今回の発掘調査では、この地方でも数少ないひすい製大珠(ペンダント)が出土し、特に出土状況が明確な例としては県内最大級であることが注目されました。果たしてどんな人が身につけていたのか、どんな社会が存在していたのか、当時を知る上で貴重な発見であり、大いに役立つ資料になると思います。

この度報告書としてまとめました。本書を通じて山形村の古を知り、文化財への关心と理解が更に深まればと願うものであります。

終わりにこの調査にあたり、ご参加いただいた方々、ご協力を賜りました皆様方に心よりお礼を申し上げます。

平成13年3月

山形村教育委員会

教育長 上條 勝

## 例 言

- 本書は、平成10年度及び11年度に実施された長野県東筑摩郡山形村上大池区に存在する淀の内遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 本調査は、平成9年度から3ヶ年にわたって実施された村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査であり、山形村教育委員会が平成10年度及び11年度に調査を実施、本書の作成は平成12年度に行なったものである。
- 遺跡及び遺物の概要については、郷土誌や各種教養講座等で紹介しているが、本報告を優先させ最終報告とする。
- 本調査及び遺物整理作業にあたっては、以下の方々の御協力を得た。記して感謝申し上げます。

逢澤 育子 青木 重一 安藤 満 飯島 由次 井口くみ子 池上 英夫  
池上 由子 今井 太成 大池 佳子 上條 利昭 上條と志江 上條 忠昭  
上條 賢憲 小林弥寿枝 高井 正宏 帳山 昌一 中村 安雄 中村 文夫  
古田 守一 村田 寿子 百瀬 隆喜 百瀬 時雄 百瀬 義友 山口 栄子  
横水 良夫  
(50音順)

- 本調査で用いた遺構の略称は次のとおりである。  
SB → 穴式住居址 SK → 土壙 SP → ピット SX → 不明遺構
- 図中で用いた方位記号は磁北である。ただし調査を3回に分け実施したため、1区分は4度02分、2区分は2度41分、3・4区分は1度37分、それぞれ真北より西へ振れている。
- 本調査で用いた土色は、農林水産省農林技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』である。
- 遺物実測図作成にあたっては、株式会社写真測図研究所に作業の一部を委託した。また同社には遺構平面図の作成も一部委託している。
- 石器の材質鑑定は森義直氏にお願いした。またいわゆるひすいと思われる遺物に関しては、糸魚川市立フォッサマグナミュージアムの宮島宏氏に依頼し化学分析を行った。報文中これに関する記述を行っているが、両氏より御教授いただいたことをまとめたものであり、事実関係を含めて文責は和田にある。
- 本調査及び本書作成にあたり、以下の方々より有益な御教示・御指導を賜った。記して感謝申し上げます。

大沢 哲 小口 達志 桐原 健 小池 岳史 小林 康男 小松 学  
佐々木 明 島田 哲男 竹原 学 直井 雅尚 植口 昇一 平林 彰  
会田 進 百瀬 長秀 小坂 英文 山下 泰永 綿田 弘美 守矢 昌文  
植口 誠司 柳沢 亮

- 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類(図面・写真等)は、山形村教育委員会が保管し、出土遺物は山形村ふるさと伝承館(〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村3866 TEL 0263-98-3938)に、調査の記録類は山形村農業者トレーニングセンター(〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL 0263-98-3155)に収蔵されている。

# 目 次

---

巻頭図版 序 文 例 言 目 次 摘図目次 摘表目次

I 調査の経緯 .....	1
1 調査に至る経緯 .....	1
2 調査の経過 .....	1
3 作業の経過 .....	2
II 遺跡の立地と歴史的環境 .....	3
III 調査の結果 .....	7
1 調査の方法 .....	7
2 検出遺構 .....	7
(1) 積穴式住居址 .....	7
① SB-01 .....	7
② SB-02 .....	12
③ SB-03 .....	12
④ SB-04 .....	13
⑤ SB-05 .....	14
⑥ SB-06 .....	14
⑦ SB-07 .....	15
⑧ SB-08 .....	16
⑨ SB-09 .....	17
⑩ SB-10 .....	17
⑪ SB-11 .....	17
⑫ SB-12 .....	18
⑬ SB-13 .....	18
⑭ SB-14 .....	19
⑮ SB-15 .....	19
(2) 土壙・ピット .....	19
3 出土遺物 .....	32
(1) 楽文時代の遺物 .....	32
① 土器 .....	32
② 石器 .....	58
③ 土製品 .....	58
④ 石製品 .....	59
⑤ ひすい原石・剝片 .....	59
(2) 平安時代の遺物 .....	63
IV まとめ .....	64

写真図版

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡	4	第25図 繩文土器実測図(2)	35
第2図 発掘調査範囲	6	第26図 繩文土器実測図(3)	36
第3図 遺構配置図(1)	8	第27図 繩文土器実測図(4)	37
第4図 遺構配置図(2)	9	第28図 繩文土器実測図(5)	38
第5図 遺構配置図(3)	10	第29図 繩文土器実測図(6)	39
第6図 遺構配置図(4)	11	第30図 繩文土器実測図(7)・土製品	40
第7図 SB-01	12	第31図 繩文土器拓影(1)	41
第8図 SB-02	12	第32図 繩文土器拓影(2)	42
第9図 SB-03	13	第33図 繩文土器拓影(3)	43
第10図 SB-04	13	第34図 繩文土器拓影(4)	44
第11図 SB-05	14	第35図 繩文土器拓影(5)	45
第12図 SB-06	15	第36図 繩文土器拓影(6)	46
第13図 SB-07	16	第37図 繩文土器拓影(7)	47
第14図 SB-08	16	第38図 繩文土器拓影(8)	48
第15図 SB-09	17	第39図 繩文土器拓影(9)	49
第16図 SB-10	17	第40図 繩文土器拓影(10)	50
第17図 SB-11	18	第41図 石器(1)	51
第18図 SB-12	18	第42図 石器(2)	52
第19図 SB-13・14	19	第43図 石器(3)	53
第20図 SB-15	19	第44図 石器(4)・石製品	54
第21図 土壌(1)	20	第45図 EPMA分析チャート(1)	61
第22図 土壌(2)	21	第46図 EPMA分析チャート(2)	62
第23図 土壌(3)	22	第47図 平安時代の土器	63
第24図 繩文土器実測図(1)	34		

## 挿表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	5	第5表 石製遺物観察表	56
第2表 土壌一覧表	25	第6表 県内ひすい出土土壌一覧表	60
第3表 ピット一覧表	27	第7表 分析遺物一覧表	62
第4表 実測土器観察表	55		

# I 調査の経緯

## 1. 調査に至る経緯

淀の内遺跡は、山形村上大池区の集落域から東へやや下った畠作地帯内に存在する。一帯は縄文時代中期を主とした遺物が昔から数多く採取されており、地域の住民なら多くが知る遺跡として認知されてきた。山形村では10数年来、松本市のベットタウンとして人口が急増しているが、遺跡を含んだこの周辺は、その需要にこたえる住宅が次々と建設されており、遺跡内での建設も相次いでいる。その発端となつたのが、平成4年に長野県住宅供給公社が実施した淀の内団地造成事業であり、この際3,650m<sup>2</sup>が緊急発掘調査（第1次調査）され、縄文時代中期の環状集落跡が発見された。これにより、淀の内遺跡の存在は明確となった訳である。その後も住宅建設は続いているが、平成8年に策定された山形村土地利用計画では、遺跡を含むこの場所は「住居系」になっていることもあり、遺跡の保護を考慮した場合、厳しい状況が続くと言わざるを得ない。

人口の増加、松本臨空工業団地の拡充、大規模ショッピングセンターの村内進出等に伴い、村をとりまく交通事情は、車両の増加という当然の結果が生じてきている。円滑かつ安全な交通を維持するには道路改良も実施せねばならない状況となってきたため、村当局では数年来これを精力的に取り組んでいる。この一つが今回実施された村道2級1号線拡幅工事である。この道路に南接する淀の内団地造成の際に発掘調査を実施していたため、当然工事による遺跡の破壊が生じると懸念された。そこで事業に先立ち、平成9年度に建設水道課と教育委員会において埋蔵文化財の保護協議を実施した。現道を北側へ4m拡幅する内容で、工事は3ヵ年にわたり、村道に接続する県道新田松本線側から西へ向かって順次工事実施の計画であった。事業実施に伴う埋蔵文化財の破壊は避けられないとの結論に至り、事前に記録作成のための発掘調査を実施することになった。

## 2. 調査の経過

工事が3ヵ年計画であること、年度毎の予算規模、用地取得などの事情から、発掘調査は分割して実施せざるを得ない状況であった。

平成9年度には県道新田松本線から西へ140m区間の工事が予定された。第1次調査の状況から、この着手区間に遺構・遺物は存在しない可能性が大であったので、工事の際職員が立会うこととした。結果、遺構・遺物の存在しないことを確認した。

平成10年度当初には、県道から西へ140m～270mの区間(253番地3、242番地2)が対象にされた。この区間は遺跡の東端部と推測されたため、調査範囲を絞り込むべく試掘調査を実施した。作物作付の都合上、253番地3は7月13・14日に、242番地2は9月16・17日に試掘調査を実施したが、遺構・遺物は存在しなかった。よってこれより西に遺構・遺物が存在することがほぼ確定された。その後年度当初の計画が変更され、県道から西へ280m～320m区間(240番地4)が工事着手されることになった。この区間は第1次調査区と道を挟んで北側に位置し、遺構・遺物の存在が確実であったため、急速発掘調査を実施す

ことになった。調査は11月10日～27日まで145m<sup>2</sup>が調査されたが、この区間を「2区」としている。

平成11年度には残りの区間が工事されることになったが、用地取得の都合から2回に分けての調査になった。まず5月6日～6月23日まで2区の西側232m<sup>2</sup>(216番地5、239番地2、240番地5)が調査されたが、この区間の東側を「3区」、西側を「4区」とした。そして11月15日～30日まで残りの区間173m<sup>2</sup>(241番地5、241番地4)の「1区」が調査された。しかしながら家屋移転や庭木移植等の都合上、また冬季間になってしまったことも加わり調整が整わず、1区と2区の間40m<sup>2</sup>は調査未実施となってしまった。

出土遺物の整理作業は平成11年度冬季に開始し、年度中に遺物洗浄、接合、注記の作業を終了させた。また出土石器の実測は、先行して株式会社写真測図研究所へ委託の上実施した。平成12年度には、土器の実測を開始し、以後各面のトレース・組版、遺物写真撮影、原稿執筆等の諸作業を経て、平成13年3月に報告書刊行となった。

### 3. 作業の経過

#### 【平成10年度】

11月10日 2区調査開始。

11月13日 冷え込み厳しく遺構面に霜柱が立つ。調文中期末から後期初頭の土器片がつまた土塊が2基検出される。

11月18日 初雪で寒い。これ以上季節が進むと調査実施が困難である。住居址は5軒あるが、幅4メートルの細長い調査区のため、全体を掘れるものはない。SB-05は床面まで70cm程度で、時期も縄文前期中葉と淀の内遺跡でこの期の発見は初めてである。

11月19日 市民タイムス記者取材に訪れる。遺構掘削は9割方終了。

11月24日 業者に委託しての遺構平面図作成作業。

11月26日 この冬一番の冷え込み。全体写真撮影し残務の片付。

11月27日 機材を撤収。2区全作業終了。

#### 【平成11年度】

5月6日 3・4区調査開始。遺構面直上まで重機によって表土除去する予定だったが、重機のバケットに引っかかる遺物が余りに多いため、一部手振りに切り替えた。

5月10日 遺構検出。遺物の出土量がとても多く、遺構の切り合いも激しい。齊藤村長と上條教育長が現場来訪。

5月17日 遺構の掘り下げ開始。

5月20日 SB-07は平安時代の住居址と判明。灰釉陶器等が出土。

5月21日 現場の乾燥が激しく土块が舞う。遺構面図の作図ができるものが調査担当者のみなので間に合わない。

5月28日 この週は雨の日が多く作業できないことが続いた。

6月4日 SK-049を半裁したところ、ひすい製垂飾が1つ出土。作業員一同驚きと喜びに沸いた1日であった。

6月8日 入梅。遺構が多く、遺物の出土も多いため作業が遅れ気味。これからは天気が気になる毎日である。

6月9日 ひすい製垂飾が出土したSK-049の土層断面図作成後、全掘したところもう一つひすい製垂飾が出土。同一土塊から複数個発見されるのは大変珍しい。またまたひすいの発見に大喜び。

6月15日 SK-034を掘削したところ、なんと3つ目のひすい製垂飾が出土。大きさもこれまでよりかなり大きく、大珠と呼ぶにふさわしい。8.8cm、100gでずしりと思い。みたび現場従事者全員が驚きと喜びに沸く。それにしても見事なものである。

6月22日 現場もいよいよ終盤。樋口昇一氏現場来訪、ひすい製垂飾について御教示いただく。

6月23日 3・4区全作業終了。齊藤村長来訪。

6月28日 記者発表。翌日の新聞に記事が掲載される。

11月15日 1区調査開始。

11月17日 表土除去終了。1区は遺構の存在が確かで住居址はない。

11月23日 毎日のように時雨の冷たい雨が降り作業はかどらず。冬真近。

11月30日 1区全作業終了。1区はあまり遺物の出土がなかつた。

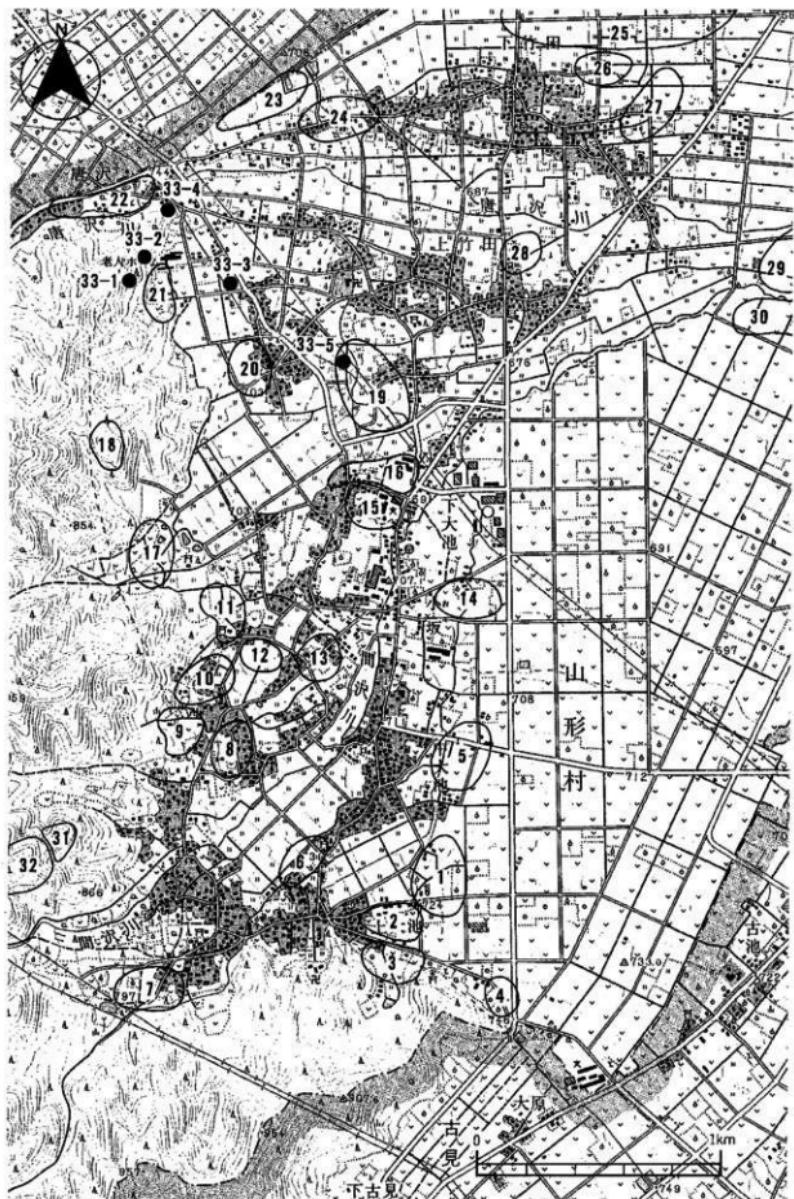
## II 遺跡の立地と歴史的環境

淀の内遺跡の存在する山形村は、長野県の中央部、松本盆地の南西約12km、鉢盛山（標高2,446m）を背景に山麓沿いに立地し、なだらかに北東へ傾斜した広大な平地を持つ。鉢盛山から東北方面に延びる尾根は、界沢山（1,994m）、ハト峰（1,970m）を経て唐沢山（1,745m）に達し、そこから2つに分かれ、1つは荒倉山（1,495m）から白山（1,387m）へ、もう1つは山形村の平地部に面した鳴神、御岳山（859m）の尾根へと達する。山形村を潤す河川は、この2つの尾根間に流れる唐沢川と、平地部に面した尾根の前面に振り注いだ雨を集める三間沢川、鳴音川、大池川等の流れの乏しい河川のみである。昔から水の苦勞が絶えない地域であった。とはいえ繩文時代等の各集落は、こうした河川沿いや湧水が得られる場所を選び営まれた状況がうかがえる。

淀の内遺跡を水の便という観点から見ると、南南西へ500m程行った洞地籍に湧水がある。遺跡の西には南から北へ向かって延びる浅い谷状の地形が見られ、この湧水が今もここを流れている。当遺跡に居を構えた人々も、この湧水を目当てにしたと思われる。なおこの湧水が流れる小川沿いには、上流側に洞遺跡（第1図3）、下耕地遺跡(2)があり、下流側には野際遺跡(5)がある。いずれも繩文時代中期中葉～後葉の遺物が見られるが、各集落が同時並存したのか、又は移動したのかなど、各集落間をめぐる考察は今後の課題である。遺構面は、現地表面から浅い箇所で20cm、深くても40cm程にて達し、ローム層中に各遺構が掘り込まれている。

山形村の遺跡分布状況は、耕作中に出土した土器や石器等の存在をもとに推測されてきた。それに加え村内各地で実施された発掘調査により、遺跡によってはその内容や範囲がかなり明確になってきている面もある。しかしながら発掘調査等により範囲が確かめられた遺跡はあまり多くなく、従ってここに示した遺跡分布図は必ずしも正確とは言えない。今後分布調査や確認調査などによって精度を高めていく必要がある。

山形村最古の人が暮らした痕跡は旧石器時代末までさかのぼる。三夜塚遺跡(2)でたった2点ではあるが局部磨製石斧が発見されている。続く繩文時代は、草創期と早期の遺物は発見例が明確でなく、当遺跡の第1次調査で、前期初頭中越式期の堅穴式住居址3基の検出が古いところである。他に前期の遺跡としては諸磯式期の堅穴式住居址が4基検出された唐沢遺跡(2)や、前期末の堅穴式住居址や土壙が検出された中町立道西遺跡(5)がある。この他にも中島遺跡(4)や神明遺跡(2)等で前期の土器が採取されている。中期の遺跡は急増し村内各地に見られる。とはいものの中期初頭は少なく、当遺跡の第2次調査で栗久保式期の土壙が検出され、おおよそ器形のわかる土器が数個体出土したものや、中町立道西遺跡で土壙内から前期末とも中期初頭とも解釈できる土器片が数点出土したとどまる。以後の中期中葉以降については、発見されている遺物の量も増え、遺跡分布図に記載の遺跡はほとんどこの時期のものである。発掘調査された遺跡としては殿村遺跡(2)、洞遺跡(3)があり、実際に多くの遺物が得られている。それ以外にも、十分な発掘調査はされていないがこの期の有名な遺跡として、宮村遺跡(1)、野際遺跡(5)、名籠遺跡(1)、三夜塚遺跡(2)等が存在する。後期になると遺跡数が激減し、当遺跡や三夜塚遺跡(2)から数点の土器が発掘調査により発見されているのに加え、石原田遺跡(1)、宮村遺跡(1)で遺物が採取されている程度である。以後晩期の遺物は1点も見出されていない。



第1図 造跡の位置と周辺造跡

稻作が普及した弥生時代以降になると、水の便が良い箇所を選び集落を構える傾向にあるので、村内に遺跡は少ない。平成11年度に松本市との境で実施された境窪遺跡の調査があるが、この場所は鎮川の氾濫原にあたり、地形的には松本市の延長といった場所である。それ以外には中期後半の土器が出土した唐沢遺跡(2)、洞遺跡(3)、ヨシバタ遺跡(4)があり、後期の遺物はヨシバタ遺跡(6)、中町立道西遺跡(8)、洞遺跡(3)、そして当遺跡があるが、いずれも数点から10数点と数えるほどしかない。また殿村遺跡(19)からは方形周溝墓が1基検出されている。

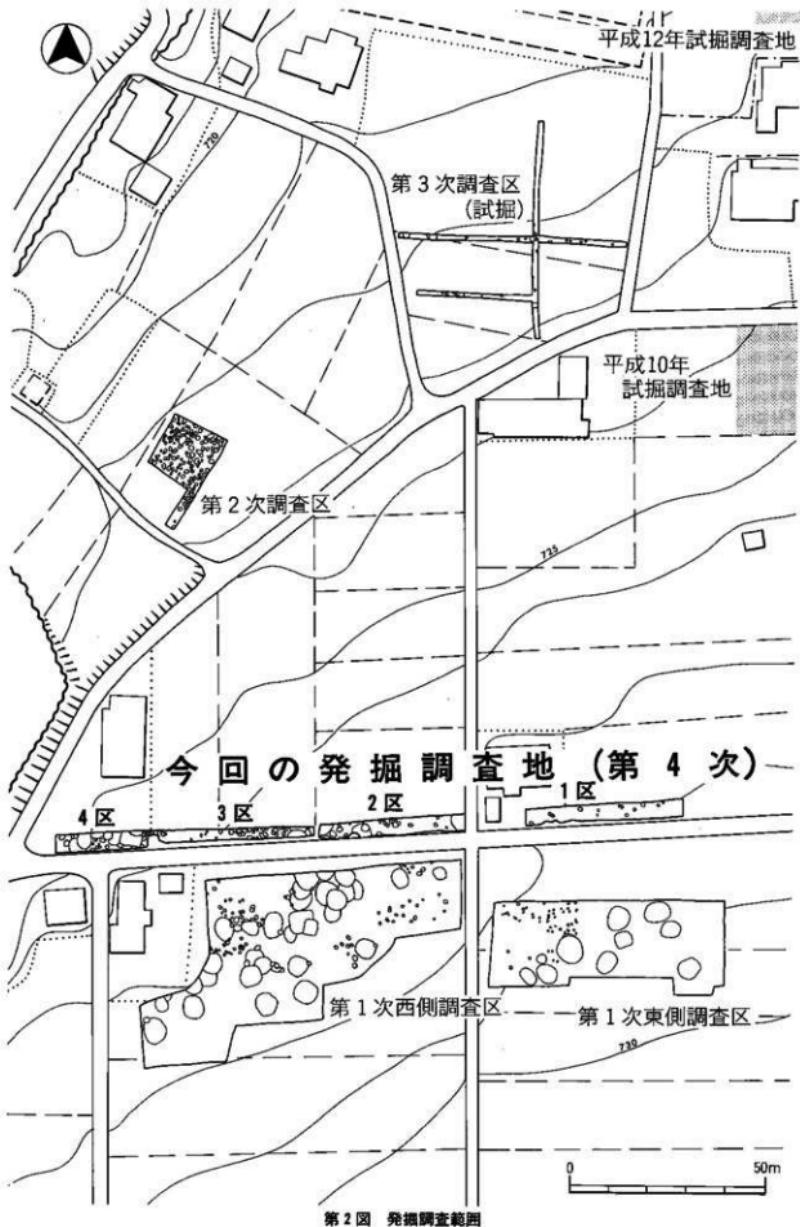
古墳時代・奈良時代の集落跡はいまだ発見されていないが、上竹田区四ツ谷地区には古墳時代後期の群集墳が存在する。現在は穴観音古墳(33-1)のみが現存するが、殿村古墳(33-5)からは「錦織部」とかかれた墨書き土器が発見されており、県内最古のものとされている。また書かれていた「錦織部」という文字は、渡来系氏族との関連が注目される資料で貴重なものである。

平安時代の遺構は绳文時代の集落跡発掘調査の折に竪穴式住居址があわせて発見される例があり、殿村遺跡(1)で13基、中町立道西遺跡(8)で1基、洞遺跡(3)で4基などが発見されている。出土遺物を見ると大方が灰釉陶器を伴う10世紀以降のものが多い様に見受けられる。なお山形村では、松本市等平地部で見られる様な大規模な集落跡は発見されていない。

これ以降中世の遺構・遺物としては、中町立道西遺跡(5)で土壤10数基や区画溝等が検出されている程度である。なお山間部には中世の山城として秋葉城址(9)、池の入城址(10)、小坂城址(11)等が存在するが、詳細な調査は実施されたことがない。

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	山石壁	縄文	弥生	古墳・伊良	平安	中世	備考
1	淀の内	○	○	○				H4年度(1次) H9年度(2次) H10年度(3次試掘)
2	下越地	○			○			H8(1次) H9(2次試掘)
3	洞	○	○		○			S45(1次) H7(2次試掘)
4	坂田・周	○				○		
5	野原	○						
6	道	○						
7	豆沢	○						
8	渕水	○						
9	守林	○				○		
10	室村	○						
11	宮村	○						
12	石原田	○						
13	中島	○						H8立会い
14	中原	○						H7試掘
15	中町立道西	○	○	○	○	○		H9(1次) H13試掘
16	ヨシバタ	○	○		○			H8試掘
17	名残	○						
18	秋葉城址							
19	殿村	○	○		○			S62-63(1次)
20	四ツ谷	○						
21	穴觀音	○						H7立会
22	森沢	○	○					S44(1次)
23	北店沢	○						S57(1次)
24	神明							S56(1次)
25	三井原	○	○	○	○			S58(1次) H12試掘
26	朝ノ内	○						S57(1次)
27	北竹原	○						
28	本郷	○			○			H11(1次)
29	三間沢用左岸				○			S63試掘
30	三間沢用右岸	○			○			
31	池の入城址					○		
32	小坂城址					○		
33-1	穴觀音古墳				○			
33-2	大久保(1号墳)				○			S6調査 滅滅
33-3	大久保(2号墳)				○			消滅
33-4	八幡大門原古墳				○			S6調査 滅滅
33-5	殿村古墳				○			



### III 調査の結果

#### 1. 調査の方法

淀の内遺跡の範囲については、第1次調査により南端が、第2次調査により北西端が、第3次調査により北端が、西端については地形的な特徴からおよそ確定できていたが、東端については不確定的な要素が多くかった。今回の村道拡幅工事は、遺跡を東西に横断する形であったため、東側のどこまで遺跡が及ぶのか確定させる必要があった。またこの場所は圃場整備の際、十分な埋蔵文化財保護策を行わずに工事を行ってしまったため、遺跡が削平され尽くしていることも懸念され、遺構の残存状況を確認する必要もあった。よって試掘確認調査を順次実施し、遺構があるかないかを確定させてから本調査を実施するという方法をとっている。なお今回の調査で遺跡の東端が確定できたので、遺跡の範囲は南北220m、東西170m程度と確認できた。調査対象域は村道拡幅分の4m幅であったが、現道と遺構面との高低差が2m近くに達する箇所もあり、現道の法面が崩れる虞があったことや、電柱や標識等が立っていたため、4m未満の幅になってしまった箇所もある。

調査はまず重機によって全体の表土を遺構が掘り込まれているローム層面直上まで除去したが、遺構が集中的に掘り込まれていた3区東半と4区については、手掘りによって表土除去を行った。以後の遺構検出及び遺構掘り下げに関しては、すべて人力にて行った。遺構の掘削は、竪穴式住居址は4分割し、その他に関しては半分掘削した後、土層観察を行い、分層できるものや特殊なものに関しては土層断面図の作成と土色・土質の記録を行い、その他は土色・土質の観察を行い完掘した。なおこの場所もであったが、ナガイモ耕作による擾乱が1区、2区では見られ、約10cm幅の掘り抜きが1m間隔で並んでいた。加えてスプリンクラー敷設による擾乱もあわせてうけている。山形村の遺跡発掘調査で、ナガイモ耕作による擾乱が見られない場所は無い、と言っても過言ではない状況である。

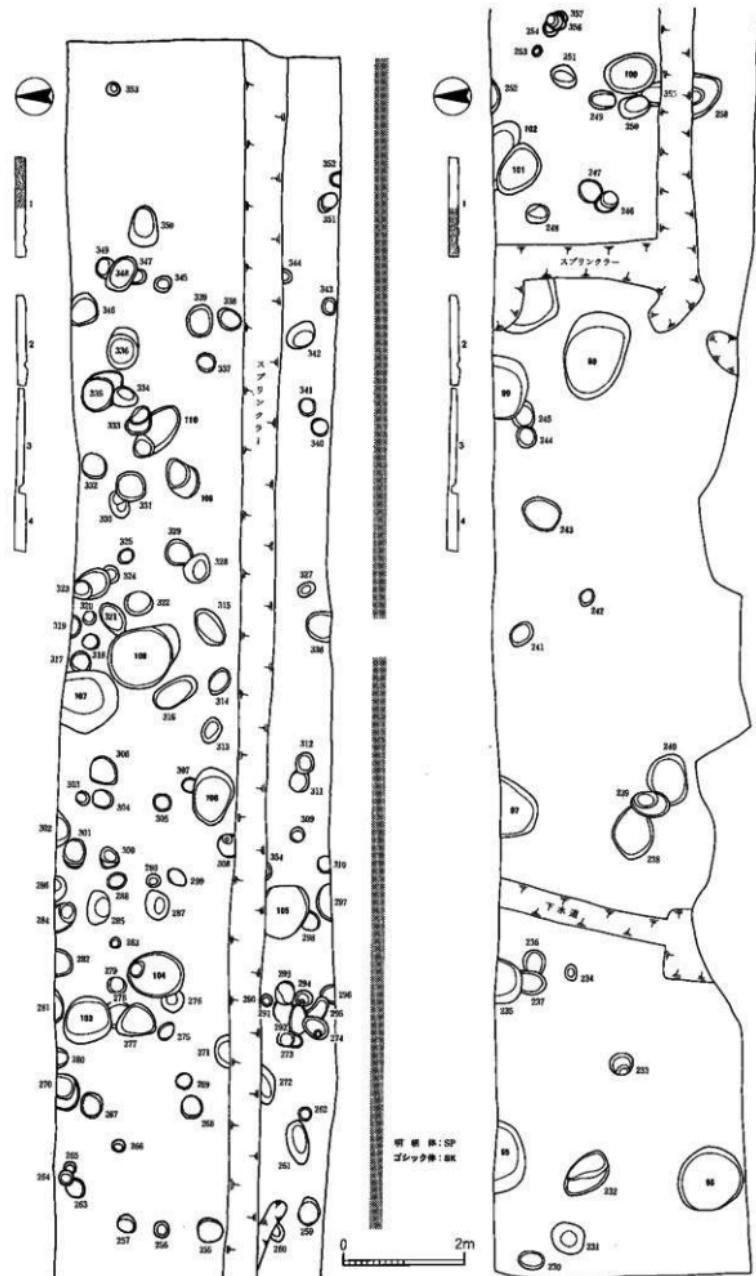
遺構番号は遺構の規模・状態等により、土壤：「SK」、ピット：「SP」、竪穴式住居址：「SB」、不明遺構：「SK」と冠したが、土壤とピットに関しては、その規模が大きいか小さいかで分けたため、その線引きが曖昧である。番号については、「001」からの通し番号をつけた。遺構等の測量記録は、すべて1/20で行った。2区の平面図作成に際しては、佛写真測図研究所に作業の一部を委託した。現場にて作図の際、測量するポイントの位置と標高をトータルステーションによって測量し、コンピューター処理がなされた後、ポイントのみを出力した遺構図をもとに、現場にて結線作業を行い、レベル値は測量成果簿を参照するという方法をとった。それ以外の測量はすべて手作業によった。写真はモノクロネガとリバーサルフィルムを使用し、すべて35mmカメラで撮影した。

#### 2. 検出遺構

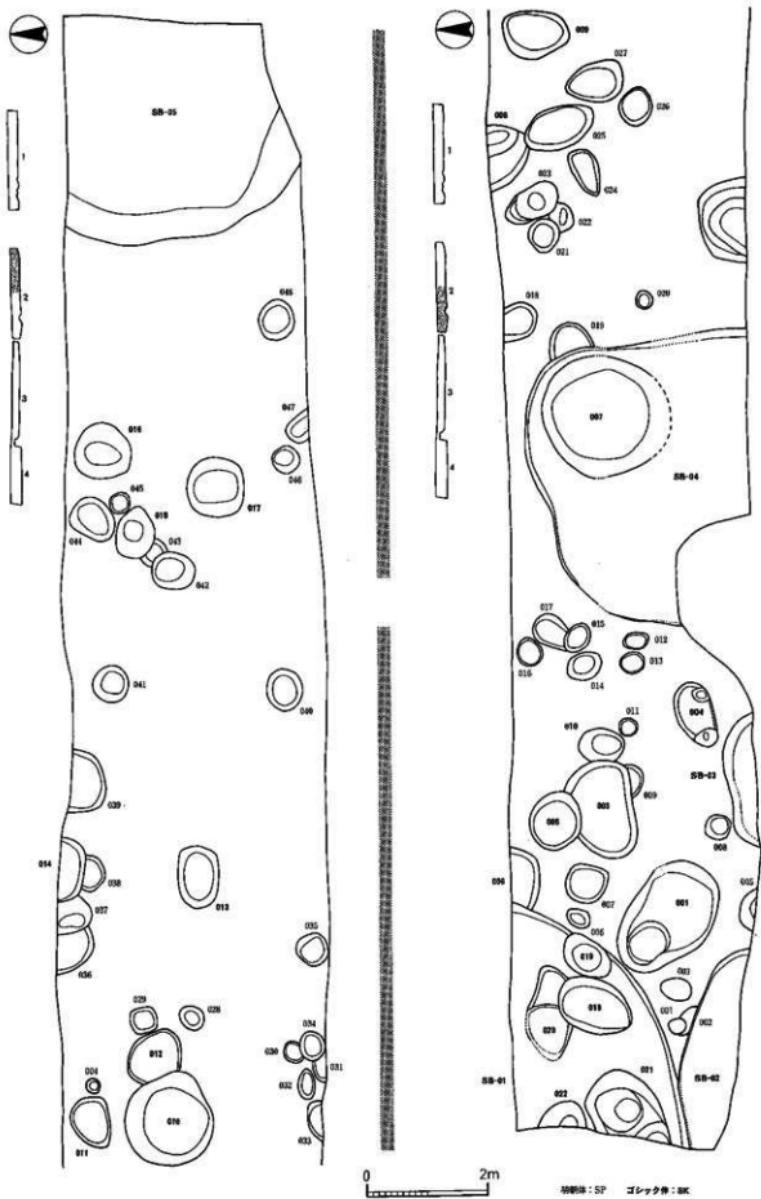
##### (1) 竪穴式住居址

###### ① SB-01 (第7図)

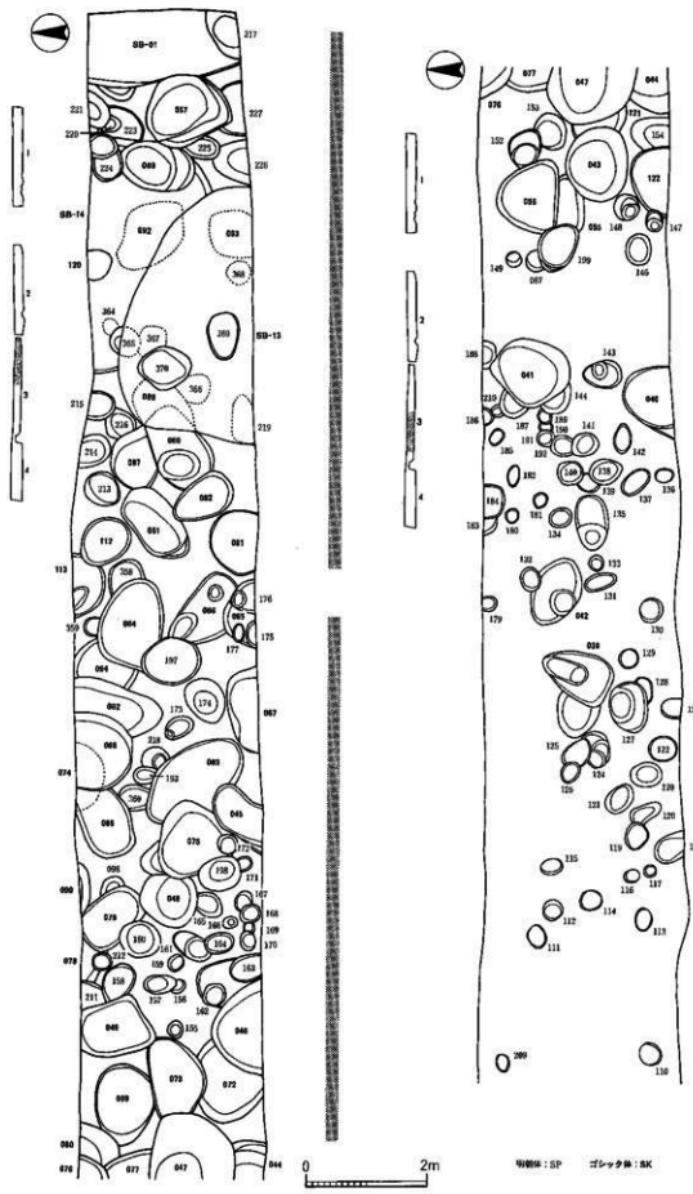
平成10年度に2区で住居址の1/4程を、平成11年度に西側の一部を検出したが、2度に分けての調査実



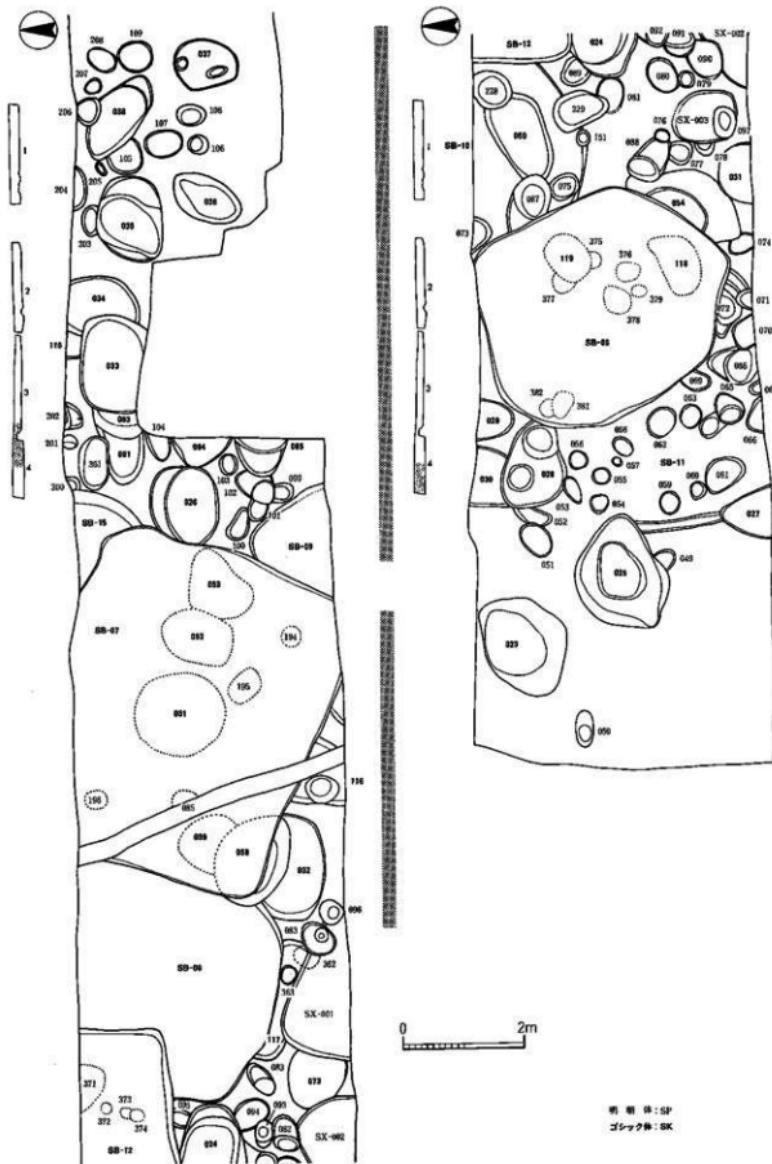
第3図 道構配置図(1)



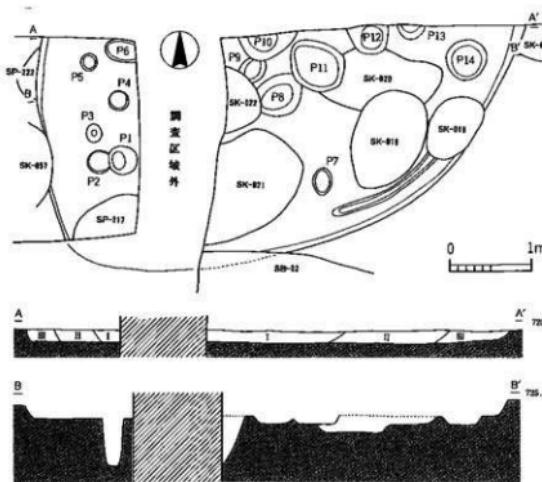
第4図 造構配置図(2)



第5図 遺構配置図(3)



第6図 造構配図(4)



第7図 SB-01

ロームブロックを多く含む暗褐色土(10YR3/3)、II層は5mm程のロームブロックを含む黒褐色土(10YR3/2)、III層は炭を含む黒褐色土(10YR2/2)であった。覆土中からは土器の出土があったが、住居址の覆土と住居址を切る各土壤の覆土との見分けがつかない状況で掘り下げてしまったため、時期がかなり混在してしまった。その中でも明確にこの住居址に伴うと判断できた第24図8等をもって本址の時期を決めている。ピットは14基にピット番号を冠したが、前述のとおり切り合ひ関係が激しい箇所であったので、遺物の出土がなかったピットに関しては本址に伴うかどうか怪しいと言わざるを得ない。炉及び埋甕は調査できた範囲内では検出されなかった。本址の時期は出土遺物から中期3段階に位置付けられる。

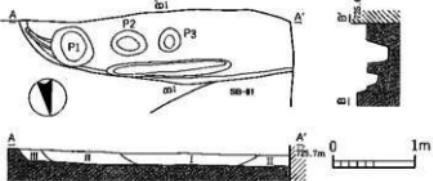
### ② SB-02 (第8図)

2区の西端、SB-01の南側を切る状態で検出されたが、大部分が調査区域外へ延びているため、掘ることができたのはごく一部である。覆土は3層に分層された。I層は炭とロームブロックを含む暗褐色土(10YR3/4)、II層は炭を僅かに含む黒褐色土(10YR3/2)、III層はローム粒を多く含む暗褐色土(10YR3/3)であった。床面までは15cm程あり、壁に沿って周溝が見られ、ピットも3基確認できた。炉や埋甕は、掘ることのできた範囲から検出されていない。覆土中からは、ビニール袋半分程度の遺物が出土したが、土器は破片ばかりであり、第31図6～8に図示したものは比較的大きな破片である。本址の時期は出土土器から中期11段階と思われる。

### ③ SB-03 (第9図)

2区の中央からやや西へ寄った箇所から検出されたが、これも調査することができ

施になってしまい、なおかつ平成10年度調査実施区间は、平成11年度調査実施時には既に道路になっており、碎石により3区側に法面がつけられていたため、住居址の真中に調査未実施の範囲が生じる事態に陥ってしまった。なおかつ住居址の北半分は調査区域外である。規模は東西6.0mで、床面まで20cm程であった。SB-02及びSK-018・019・021・022・057等の各土壤に切られている。覆土は3層に分層された。I層は5mm～1cmの



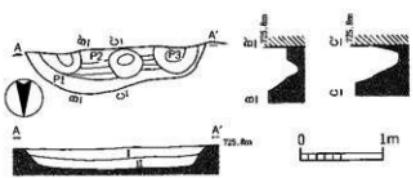
第8図 SB-02

たのはごく一部で、大部分が調査区外の南側へ及ぶ。遺構検出をした時点では、やや大きな土壌と見ていたが、掘り下げていくと、25cm程で床面らしき箇所へあたり、壁に沿つて周溝がめぐっている状況も確認できたので、住居址の一部であると確認するに至った。当然として炉と埋甕は検出できていない。ビット

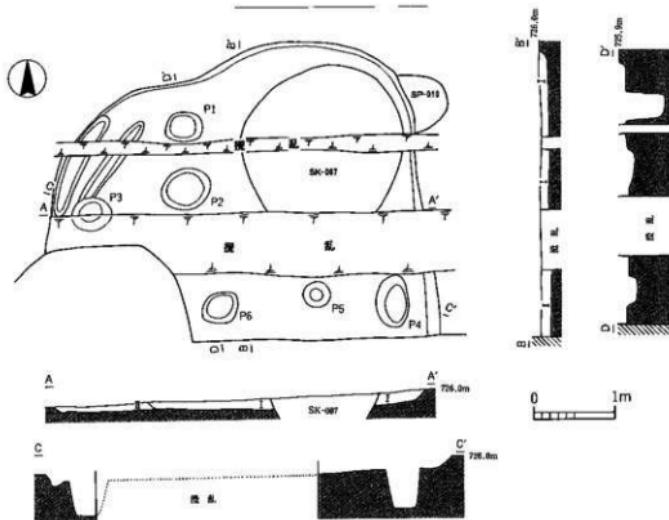
は3基検出したが、P1が25cm、P2が29cm、P3が43cmといずれも深さがある。覆土は2層に分層され、I層はローム粒と炭を僅か含む暗褐色土(10YR3/3)、II層は5mm程度のロームブロックを多く含む黒褐色土(10YR3/2)であった。遺物の出土は少なく、第24図7に図示した他に土器片10数点と黒曜石の剝片数点であったが、おおむね中期11段階に位置付けられると思われる。

#### ④ SB-04 (第10図)

2区の真ん中で検出され、住居址全体の2/3程の輪郭を確認できたが、スプリンクラー配管による擾乱とナガイモ耕作による擾乱が東西に走り、住居址北東部分はSK-007に切られている。床面までは深いところでも10cm強と上面をかなり削平されていると推測されるが、覆土は2層に分層された。I層は炭とローム粒を含む黒褐色土(10YR2/2)、II層はロームブロックを多く含む暗褐色土(10YR3/3)であった。ビットは6基検出したが、壁寄りに据られていたP1、P3、P4は深さがあり、住居の上屋構造を支える柱穴と考えられる。炉と埋甕は検出できなかったが、炉については住居址中央部が擾乱されていることから、破壊されてしまったと考えられる。覆土中からは第25図15や第31図10～16の土器等、コンテナ



第9図 SB-03



第10図 SB-04

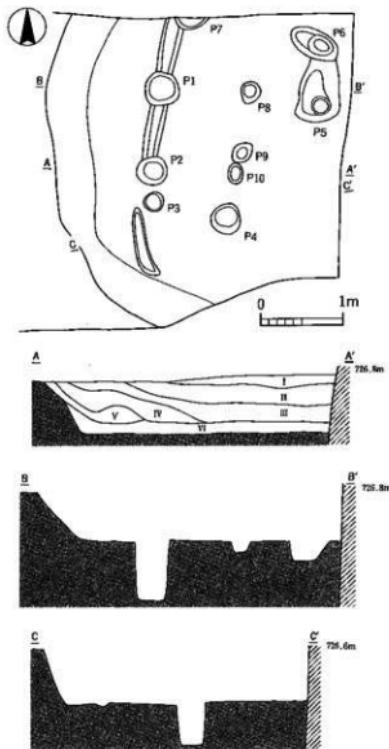
1/5箱程の遺物が出土したが、中期10段階～11段階に位置付けられる。

#### ⑤ SB-05 (第11図)

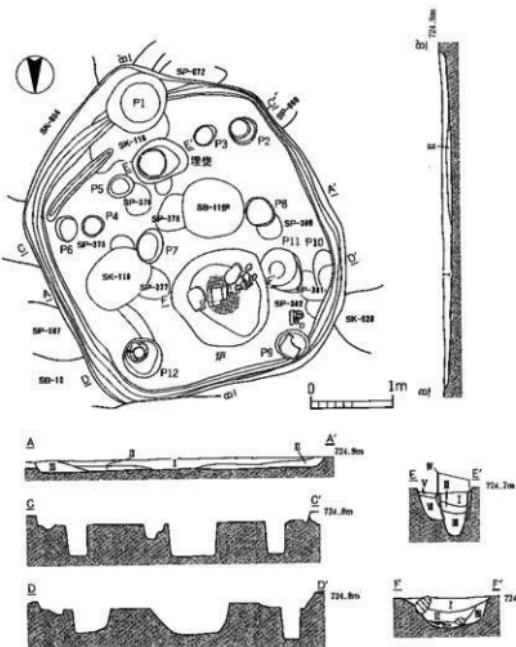
2区の東端で検出されたが、住居址西側の輪郭を追えただけで、北・南・東側は調査区域外まで及ぶ。床面までは70cm弱とかなり深く、当遺跡で今まで発見された住居址中でも一番深い掘り方を有する。覆土は6層に分層されたが、自然に埋没していた状況を呈していると考えられる。I層はローム粒を少し含む黒色土(7.5YR2/1)、II層はローム粒を多く含む黒褐色土(10YR1.7/1)、III層はローム粒を多く含む黒褐色土(10YR2/2)で、前期の土器はこの層から大半が出土、IV層は黒褐色土(10YR3/2)、V層は1cm程のロームブロックを多く含む暗褐色土(10YR3/3)、VI層は1cm程のロームブロックを多く含み、締まり方が他の層よりある暗褐色土(10YR3/4)であった。住居址の壁は斜め(45度～60度)に掘り込まれており、壁からやや離れた箇所に周溝がめぐっている。ピットは10基発見されたが、壁寄りにあるP1が73cm、P2は49cm、P3は40cm、P4は52cmと他のピットに比べて深めで、上屋構造を支える柱穴と判断される。炉は検出できなかった。覆土中からはIII層を主として、多段ループ文が施文されている前期関山式の土器片(第31図17～27)が出土しており、本址はこの期に位置付けられる。なお覆土最上層には、中期段階の土器片が混入していた。

#### ⑥ SB-06 (第12図)

4区の西寄にて検出された。北端の一部が調査区域外に及ぶが、今回の発掘調査では唯一、ほぼ全域を調査することができた住居址である。形状は隅丸方形状に近く、南側がやや外へ張り出す。南北4.2m、東西3.5mを測り、埋甕と炉を結ぶ住居址の主軸は、南北方向からやや東へ振れている。壁高は15cm弱を測り、周溝が壁に沿って全周する。覆土は3層に分層されたが、I層は5mm程のロームブロックと炭を含む黒褐色土(10YR3/2)、II層は5mm程のロームブロックと炭・焼土を含む黒褐色土(10YR3/2)、III層は炭・焼土を含む黒褐色土(10YR2/2)であった。床面は中央部で硬化した箇所が認められ、貼床が認められた。ピットはP12まで番号を冠したが、P2・P6・P10・P12が主柱穴と判断される。なお貼床下から検出されたピットは、この住居址には伴わないと判断し、「SP」等の遺構番号を冠した。その一部はこの住居址の西側に存在し、重なった状況で検出されたSB-11に伴うピットと考えられる。炉は住居址中央部からやや北に奥まった部分から検出された。径120cm程の平面が不整円形状で、深さ35cmと大き



第11図 SB-05



第12図 SB-06

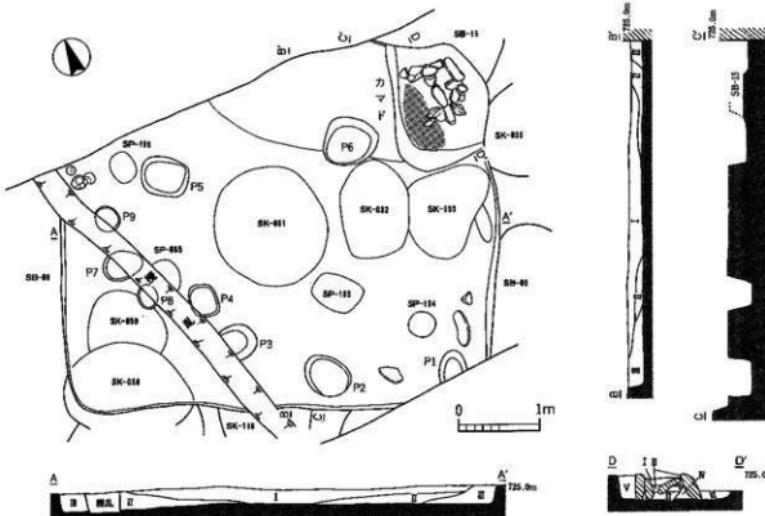
YR2/2)、III層は黒褐色土(10YR3/2)、IV層は1cm程のロームブロックを多く含む暗褐色土(10YR3/3)、V層はローム土をそのまま埋め戻した様な褐色土(10YR4/4)、VI層は炭を含む黒褐色土(10YR2/2)であった。ただし埋壺を入れる掘り方の断面形状から見ると、V・VI層は他の遺構の覆土とも考えられるが、現場で確認できなかった。遺物は埋壺の他、第24図5が炉内から、その他図示の土器・石器は覆土中から出土している。本址の時期は中期11段階に位置付けられる。

#### ⑦ SB-07 (第13図)

4区の東側にて検出された。今調査で唯一平安時代の竪穴式住居址である。北と南の隅は調査区域外まで延びているが、隅丸長方形を呈し、5.4×4.5mを測る。住居址の西側に南部集落所へと引き込まれている水道管敷設の際に掘られた擾乱が走っている。壁は直に近い形状で掘り込まれ、床面まで20cmを測るが、ほぼ全城に貼床が認められた。覆土は3層に分層でき、I層はローム粒と炭を含む黒褐色土(10YR3/2)、II層はローム粒と炭を含む黒褐色土(10YR2/2)、III層はローム粒と炭を多く含む黒褐色土(10YR2/2)であった。カマドは北東コーナーに設けられており、石組カマドである。天井部の石は失われていたが、袖の部分の石は元位置をとどめているもの多かった。覆土は6層に分けることができ、I層は5mm程のロームブロックを含む黒褐色土(10YR2/2)、II層は5mm程のロームブロックを含む黒褐色土(10YR3/1)、III層は焼土粒を含む黒褐色土(10YR3/2)、IV層はローム粒を少し含む黒褐色土(10YR3/2)、V層は5mm程のロームブロックを含む黒褐色土(10YR2/2)、VI層は焼土粒を多量かつ炭を含む黒

な掘り方を有し、底面は赤く焼き締まっていた。炉の覆土中には大型の石が数個見られ、炉を構成していた石の一部と考えられるが、元位置はとどめていないと思われる。炉の覆土は3層に分層でき、I層は1cm程のロームブロックを少し含む黒褐色土(10YR2/2)、II層は5mm程のロームブロックと炭を多く含む黒褐色土(10YR3/2)、III層は炭と焼土を多く含む黒褐色土(10YR3/2)であった。埋壺(第24図1)は中央部から北へ寄った箇所より見つかり、土器の口縁部と体部下半以下を欠いた状況で正位に埋められていた。覆土は6層に分層でき、I層はローム土をそのまま埋め戻した様な褐色土(10YR4/4)、II層はローム粒を多く含む黒褐色土(10

YR2/2)、III層は黒褐色土(10YR3/2)、IV層は1cm程のロームブロックを多く含む暗褐色土(10YR3/3)、V層はローム土をそのまま埋め戻した様な褐色土(10YR4/4)、VI層は炭を含む黒褐色土(10YR2/2)であった。ただし埋壺を入れる掘り方の断面形状から見ると、V・VI層は他の遺構の覆土とも考えられるが、現場で確認できなかった。遺物は埋壺の他、第24図5が炉内から、その他図示の土器・石器は覆土中から出土している。本址の時期は中期11段階に位置付けられる。

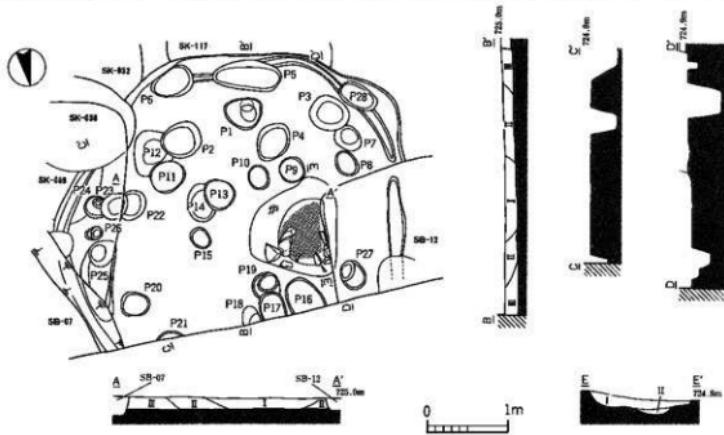


第13図 SB-07

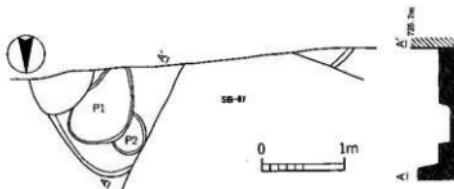
褐色土(7.5YR3/2)であった。ピットは9基番号を冠したが、どれが上層構造を支えたのか判断に苦しむ。遺物はI層を中心として破片が数多く出土した他、住居址北西隅の床面より5cm程浮いた箇所から第47図3・7・9がかたまって出土した。本址の時期は平安時代11世紀中頃に位置付けられる。なお貼床の下からは、繩文期の土壤やピット、SB-15の一部が見つかっている。

#### ① SB-08 (第14図)

4区の真ん中にあり、東側をSB-07に、西側をSB-12に切られ、北側は調査区域外にまで及ぶ。その他SK-058に切られる。周溝が巡っているのをSB-07及びSB-12の床面にて確認できたので、これをもとに



第14図 SB-08



第15図 SB-09

む暗褐色土(10YR3/3)、II層は5mm程のロームブロックと炭を少し含む黒褐色土(10YR3/2)、III層は黒褐色土(10YR3/2)であった。炉は中央よりやや西で検出され、南北120cm、東西110cmの不整円形状を呈し、25cm程の掘り方を有する。炉の底面は赤く焼き締まっており、底に接して大型の石が数個見られた。石は良く炉に使われているような細長く表面に凹凸がない自然石ではなく、打ち欠かれて角が立っているものが多い。炉が廃絶後、炉を構成する石が抜き取られたような痕跡は認められたが、ここに残っていた石は炉を構成していた石ではない様に見うけられる。ピットは28基番号を冠したが、主柱穴を判断するのは難しい。埋甕は検出されなかった。出土土器は完形に近いものではなく破片資料ばかりであったゆえ、時期を確定しがたいが、中期9～10段階と思われる。

#### ⑨ SB-09 (第15図)

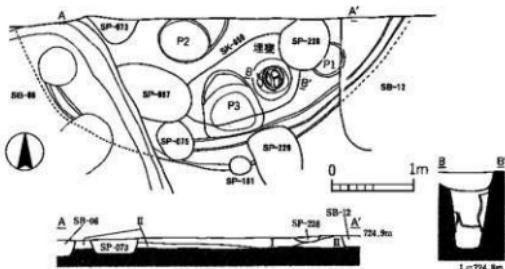
4区の東端、SB-07に切られ、大部分が調査区域外まで延びている。当初住居址と判断してよいのか迷ったが、底まで30cm弱あり、貼床のような硬化面は認められないが、平坦な面が続いているので住居址の一部と判断した。詳細については不明であるが、時期は出土土器から中期14段階としておきたい。

#### ⑩ SB-10 (第16図)

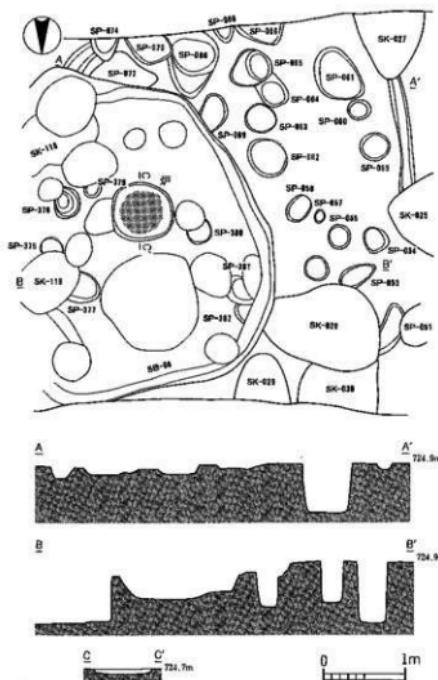
4区の真ん中から西寄り、西側をSB-06に、東側をSB-12に切られ、住居址の北2/3程は調査区域外にまで及ぶ。その他にもSK-050、SP-073・075・228・229等に切られていた。床面までは10～15cm程で、床に硬化した箇所は認められなかった。覆土は2層に分けることができ、I層は炭を非常に多く含む黒褐色土(10YR2/2)、II層はローム粒を多く含む黒褐色土(10YR3/2)であった。SK-050を完掘したところ、その底から埋甕(第25図10)が見つかった。逆位に埋められていたが、体部下半から底部は、SK-050に打ち欠かれてしまった状態であった。埋甕の覆土は単層で、ローム粒を多く含む暗褐色土(10YR3/3)であった。周溝が巡っている状況も確認できたが、ピットは切り合いで激しい箇所であったため、一応3基が本址に伴うと判断した。埋甕以外の遺物として覆土中から出土した破片資料(第32図45～48)を示したが、本址を切る遺構のすべてを最初から見極められていた訳ではないので、時期的に混ざった状況で取り上げてしまった。よって埋甕から判断し、本址の時期は中期10段階に位置付けられる。

#### ⑪ SB-11 (第17図)

すれば東西で4.4mを測り、東側がやや張り出す隅丸方形状に近い形状を呈すものと思われる。床面まで切り合いのなかった部分で15cm程を測り、床面に硬化した部分は認められなかった。覆土は3層に分層でき、I層は5mm程のロームブロックと炭を含



第16図 SB-10



第17図 SB-11

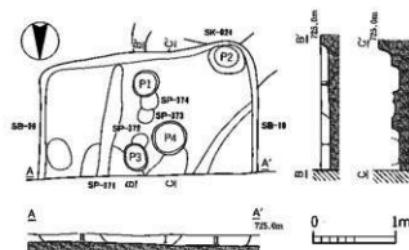
### ⑫ SB-12（第18図）

4区の真ん中、西側にあるSB-10、東側にあるSB-08を共に切るが、北半分は調査区域外まで及ぶ。形状は隅丸方形形状を呈すと思われ、東西で2.7mを測る。床面までは15cm弱を測り、覆土は2層に分けることができた。I層は黒褐色土(10YR3/2)、II層は炭と5mm程のロームブロックを含む黒褐色土(10YR3/2)であった。覆土中からは縄文土器小片が10数点出土したが、時期に幅があった。

### ⑬ SB-13（第19図）

3区の東寄り、北側でSB-14を切り、南側半分は調査区域外である。東西4.25mを測り、壁高は20cm程ある。本址は数多くの遺構が複雑に切りあっている場所から検出されたが、住居址の覆土とその他遺構の覆土にあまり違いがなく、遺構検出段階で見分けるのは難しかった。よって住居址の床面まで掘り下げ、床面から掘り込まれているピットとして掘削した後、出土遺物の時期的な違いから本址に伴

4区の西寄り、SB-06の西側に重なっている。覆土がすべて失われているので、当初住居址と判断していなかったが、周溝が途切れながらではあるが巡っている状況が確認できたのにくわえ、SB-06の床面を精査していたところ、貼床下に底面が赤く焼き締まった浅い皿状のピットが見つかったので、これを炉と判断し、一つの住居址として番号を冠した。周溝の巡り方から判断して、径5m弱で円形の形状を呈していたと推測される。炉は前述のとおりSB-06に上面を破壊され、底付近だけが7cm程残っている状況で、覆土は炭と焼土を多く含む黒褐色土(10YR3/2)であった。本址に伴うピットについては、周溝の内側から検出した「SP」番号を冠したものが該当すると思われるが、それが確実に伴うのか判断に苦しんだため取り上げてはいない。また周溝内出土の土器をもって本址の時期を決めたいところではあったが、細片が数点出土したのみであったので決め難い。



第18図 SB-12

わないと判断したものが数多くある。覆土は2層に分かれ、I層は炭を少し含む暗褐色土(10YR3/3)、II層は炭と5mm程のロームブロックを含む暗褐色土(10YR3/3)であった。埋甕は検出されなかったが、炉はかろうじてその一部を検出することができたが、南側の大半は調査区域外である。本址は中期13段階に位置付けられる。

#### (⑩) SB-14 (第19図)

3区の東寄り、南側をSB-13に切られ、北側半分は調査区域外である。その他にもSK-089、SP-224・365等にも切られる。

SB-13同様各遺構の切り合いが激しい。覆土は炭を多く含む暗褐色土(7.5YR3/3)を確認したにとどまる。炉と埋甕は検出されなかった。本址は中期10段階に位置付けられる。

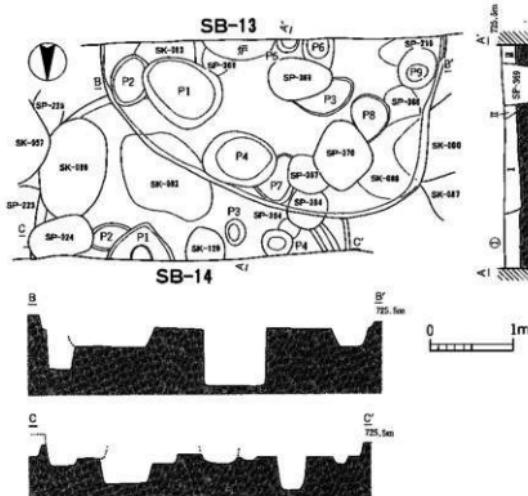
#### (⑪) SB-15 (第20図)

4区の東端、住居址の北半分は調査区域外で、調査範囲内でも西側2/3程はSB-07に切られている。それでもSB-07より掘り込みが深かったため、SB-07貼床下から10cm程は本址の覆土を認めることができた。東西3.8mで、壁高は30

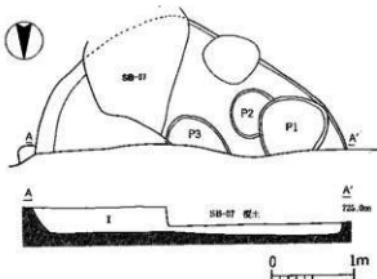
cmを測る。覆土は単層で、ローム粒を多く含む黒色土(10YR1.7/1)であった。覆土中から頗著な遺物は出土しなかったが、本址の時期は中期12段階と思われる。

#### (2) 土壌・ピット (第21~23図 第2・3表)

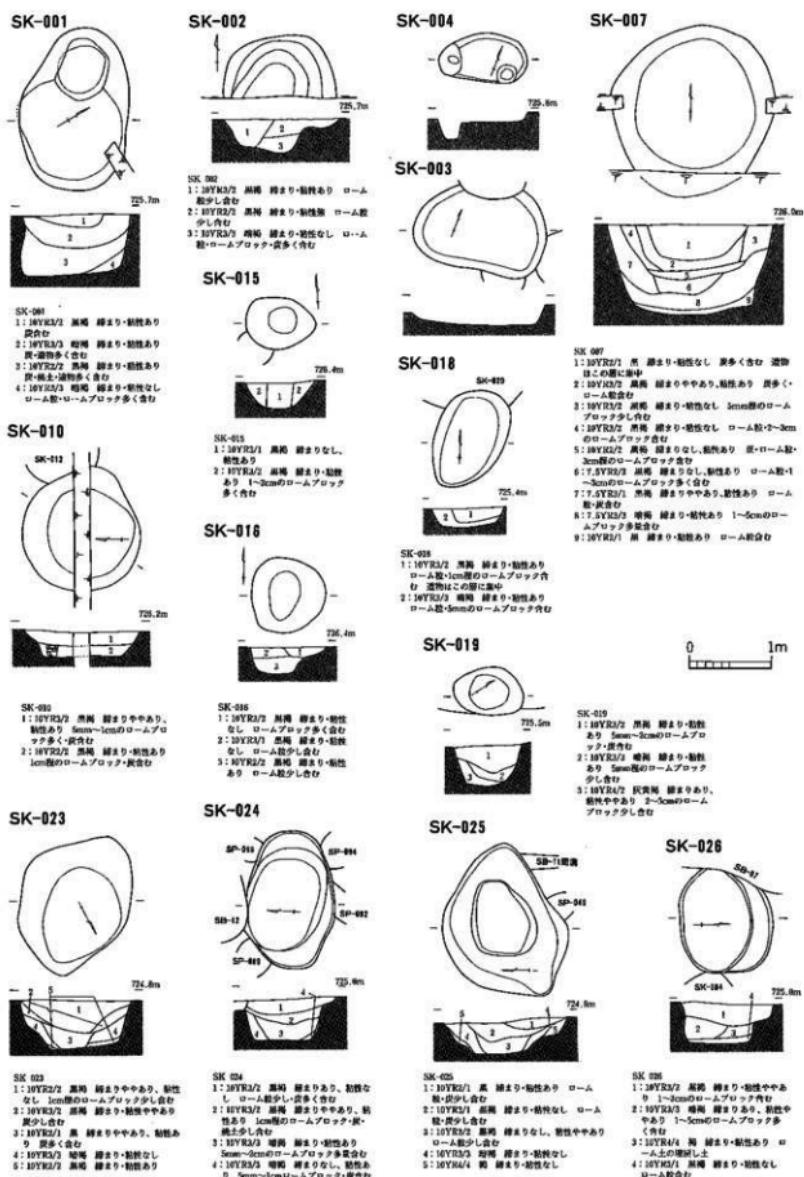
土壤122基、ピット382基と、550m<sup>2</sup>足らずの調査範囲としては実に多くの数で、集中的に検出された3区や4区では、地山のローム層である黄色の土より、黒い土の遺構部分が多いという位で、すべて掘り終わった後には足の置き場所にも困るという状態であった。土壤とピットの区別であるが、規模が大きいか小さいかで分けただけであり、その基準が曖昧となってしまった。よってここでは分けて扱わず、一括りとして記述することにしたい。また数があまりにも多いため、そのひとつひとつについて遺構平面図及び断面図を掲載しておらず、記述もしていない。一覧表に規模や帰属時期等を掲載したのでそちらを参照いただきたい。以下はその中でも特徴的であったものを取り上げ記述することにしたい。



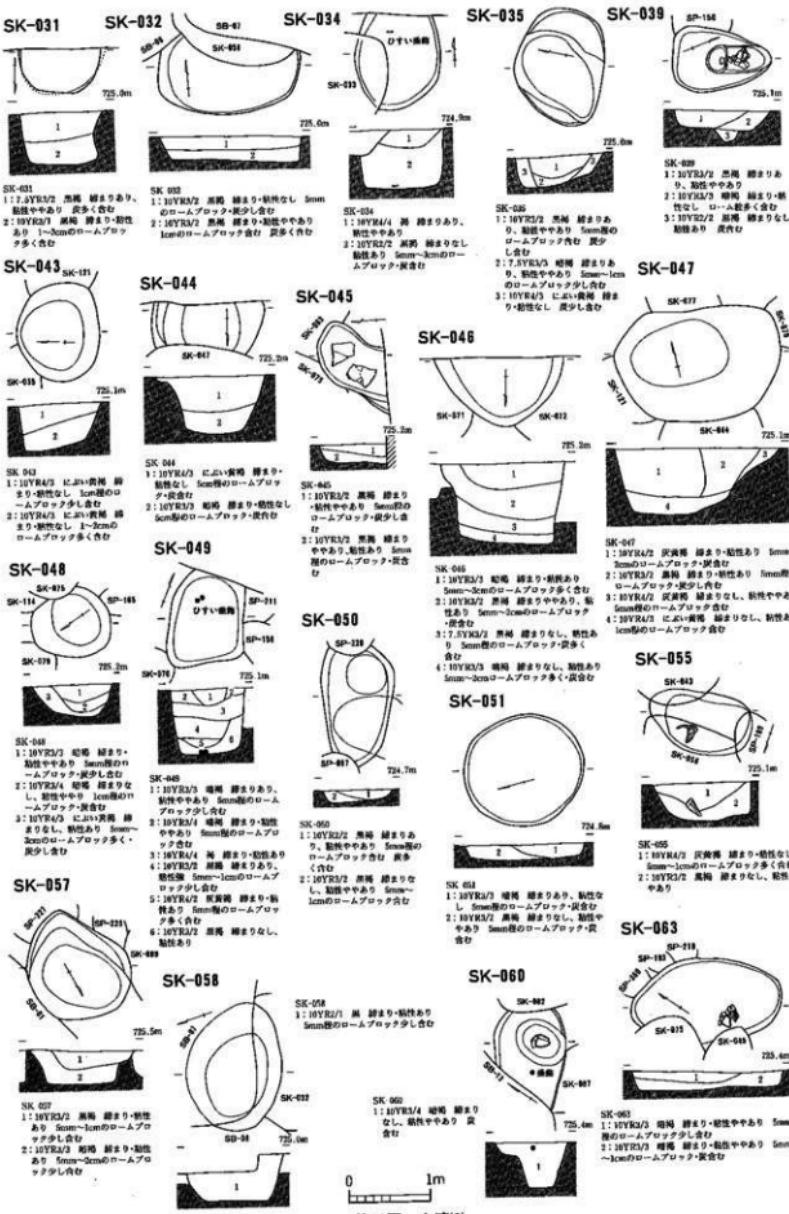
第19図 SB-13・14



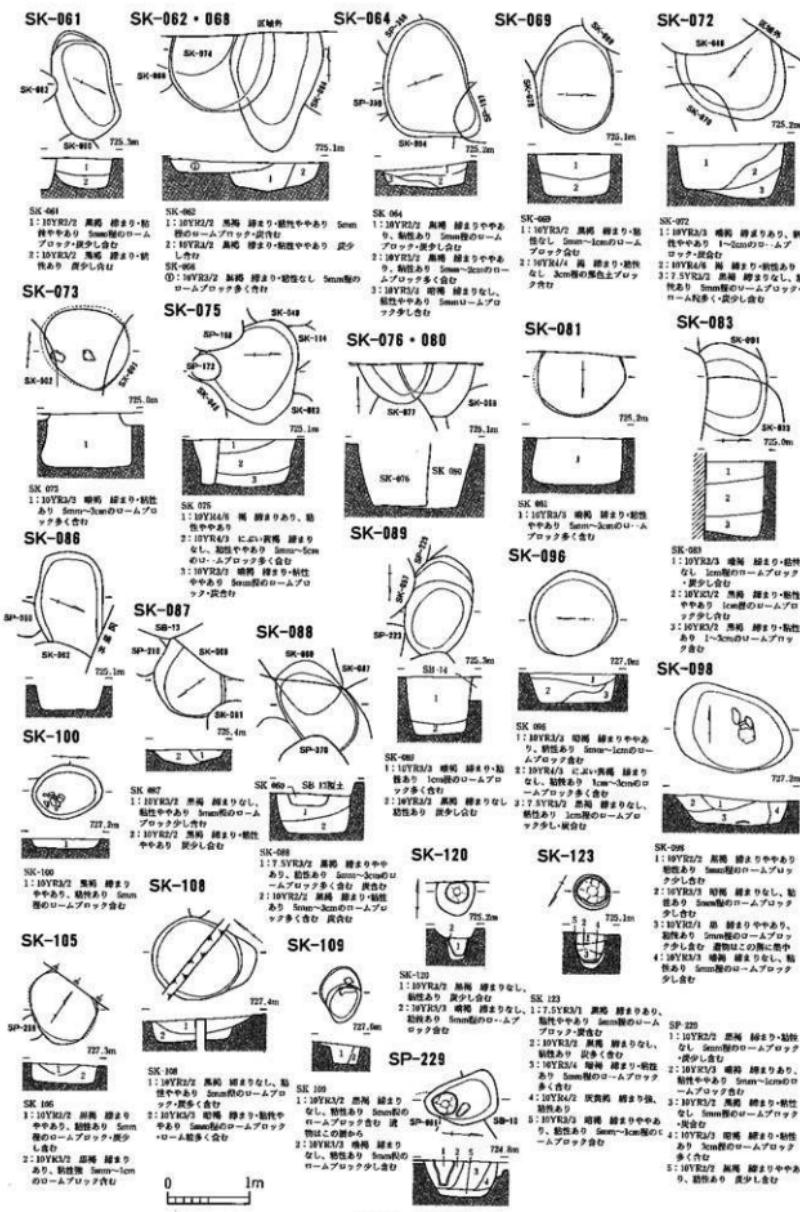
第20図 SB-15



第21図 土壠(1)



## 第22図 土壌(2)



### 第23図 土壌(3)

**SK-001** 2区の西端、SB-01とSB-02に挟まれる位置から検出された。201×132×81cmを測り、平面形は梢円形状で、2段に掘り込まれていた。覆土中（2・3層が主）から、縄文中期末～後期初頭に位置付けられる土器がコンテナ（590×386×154mm：本報告書記述中コンテナの法量はすべてこの大きさ）で1箱分強出土した。土器はすべて破片資料で、完形に復元できるものではなく、土壤中に投げ込まれた廃棄物的な性格を有すと思われる。土器の帰属時期も中期の範囲におさまる資料から、確実に後期の様相を示す資料まで時間の幅を認めることができる。なお覆土中（3層）に焼土塊も見られた。

**SK-007** 2区のSB-04を切る状態で検出された。211×200×111cmと本調査で見つかった土壤としてはかなり大型で、平面形は円形状、断面形は桶状を呈する。覆土上層（1層）から、中期末～後期初頭の土器片が密集した状況で見つかり、コンテナで2箱弱の量があった。土器は完形に復元できるものが多く、SK-001同様すべて破片資料であった。土壤中に投げ込まれた廃棄物的な性格を有すと思われる。なお覆土の中層～下層にはほぼ遺物が含まれず、大きなロームブロックが多量に含まれている堆積状況であった。出土土器は中期後半～後期初頭の範囲内と時間の幅を有すが、SK-001に比べ中期末に位置付けられる土器がまとまっている。

**SK-010** 2区の真ん中で検出され、SK-012を切る。144×141×35cmを測り、平面形は円形状、断面形はタライ状を呈する。土壤北寄の底面に接する状態で、中期3段階の完形土器（第27図38）が正位に置かれた状態で出土した。これ以外に遺物の出土は認められず、本調査でこのような状態を示す土壤は唯一であった。

**SK-024** 4区の真ん中付近にあり、SB-12に切られ、SP-089・092・094・095を切る。2段の掘り込みを有し平面梢円形状で、169cm×114cm×53cmを測る。覆土中からは中期13段階に位置付けられる土器片がややまとまって出土したが、土偶の脚部（第30図 土1・2）が出土している。今調査で土偶の出土はこの2例のみであった。

**SK-034** 3区の西端にあり、西側をSK-033に切られ、SK-115を切っている。土壤の北側は調査区域外になるが、推定で南北140cm、東西105cmになり、深さ80cmを測る。平面形は梢円形状で、断面形は方形形状を呈する。土壤の底面から4cm浮いた状態でひすい製垂飾が1点（第44図78）出土した。SK-034の集落内における位置関係であるが、過去の調査成果から、環状集落の住居址が円形状に巡る区域と、中央の広場に挟まれた位置に存在するといえる。この位置は一般的に墓域であると言われていることから、SK-034は墓穴であって、葬られた人物と共に埋められたひすい製垂飾が出土した状況といって間違いないから。覆土中からは第37図157・158の土器片が出土しており、中期11段階に位置付けられる。

**SK-045** 3区の中央からやや東寄りにあり、深さ23cmで細長い不整形形状を呈するが、南側は調査区域外にまで及ぶ。覆土中から、深鉢（第28図46）が縦に割られ伏せられた状況で出土した。深鉢は体部を1/3程と底部を失っていたが、後期堀之内I式に見られるもので、当遺跡において当期の遺物が見つかったのは初めてである。

**SK-049** 3区のほぼ真ん中にあり、SK-070とSP-158・211を切る。土壤の北端は調査区域外であるが、推定南北115cmで、東西90cm、深さ75cmを測る。平面形は隅がやや角張る不整形形状で、断面形は方形形状を呈する。ひすい製垂飾2点が5cm離れた状態で見つかり、第44図79が底面から1cm、80が1.5cm浮いた状況で出土した。SK-034同様、環状集落内の墓域と考えられる位置にあり、SK-049も墓穴と考えて間違いないから。図化するまでの土器は出土しなかつたが、中期12～13段階と思われる細片が数点出土

している。なお圓化していないが、覆土中から半損以上の打製石斧1点が出土している。

**SK-055** 3区の中央からやや西側より検出され、SK-043・056、SP-199に切られる。長軸130cm、短軸75cm程と推測され、深さ45cmを測り、平面は橢円形状、断面は台形状を呈する。覆土中から深鉢を縦に半裁した土器（第28図49）が、口縁部が上で、土器の内面下向きで斜めの状態で出土した。SK-055の集落内における位置は、ひすい製垂飾が出土した土壤同様に基域と考えられる場所であり、この土器は遺体の顔面を覆うようにして埋葬された甕被葬墓と考えられる。本遺跡では第2次調査につき2例目の発見となる。

**SK-080** 3区SB-13の西にあり、SB-13とSK-082に切られ、SK-087・088を切る。覆土内から蛇紋岩製の垂飾（第44図81）が出土した。ただしひすい製垂飾が出土した前述の土壤とは違い、覆土のかなり上層から見つかっているゆえ、この土壤が墓穴で、ここに葬られた人物と共に埋められたかどうかは疑わしい。

**SK-083** 3区の真ん中にあり、SK-045・075に切られ、SP-193・218・360を切る。平面形は橢円形状で、長軸185cmを測り、短軸110cmと推測され、深さは22cmと浅く、断面形はクライ状を呈する。底に接する状態で横に倒れた深鉢（第28図47）だけが出土し、他に遺物はない。出土土器は中期9段階に位置付けられるものである。

**SK-073** 4区の真ん中にあり、東をSX-001、西をSX-002に切られる。103cm×96cm×67cmを測り、平面形状は円形、断面形状は袋状を呈する。土壤のほぼ底面に接する状態で径10cm程の礫が2つ出土した。いわゆる貯蔵穴様な土壤と判断される。出土遺物より中期14段階に位置付けられる。

**SK-120** 3区SB-14内から発見された。当初SB-14に伴う遺構と考えていたが、覆土中出土の土器と時期が合わなかったため土壤番号を冠した。体部より上を欠損した深鉢（第29図53）が正位で埋められており、埋甕の様相を呈する。SB-14の埋甕とすると位置が住居址中央部にきてしまう上、覆土中出土の遺物と時期が整合しない。調査区域外の北側に他の住居址が存在し、これに伴う埋甕である可能性もあるが確かめることはできなかった。時期は中期12段階と思われる。

**SK-123** 4区SB-06南側にて検出され、SX-002内にあるが、切り合い関係は不明である。口縁部付近のみを欠く土器（第29図56）が正位に埋められており、掘り方は土器を入れるのに必要最低限しか掘られていない。土壤とはしたもの、明らかに埋甕の様相を呈している。この周辺は、遺構の上面がかなり削平されている状態だったので、住居址に伴っていたものなのか、単独で存在したものなのかを確認するだけの証拠が得られなかった。ちなみにこの土器から南西方向へ2.3m程離れた箇所からは、石匂い炉の様相を示すが、これまた住居址に伴うものなのか、単独で存在したのかを判断できなかったSX-003がある。SK-123とSX-003がセットになる住居址だったかもしれないし、そう考える方が自然であろうか。埋められていた土器の時期は中期10段階である。

**SP-228** 4区SB-10内にあり、これとSK-057を切る。遺構は径60cm程とそれほど大型ではないが、半完形の土器（第29図54、第30図57・58）が重なり合う状態で出土した。出土土器の時期は中期14段階と思われる。

**SP-229** 4区SB-10の南端を切る状態で検出され、深鉢（第30図59）が正位の状態で出土した。時期は中期12段階だろうか。

第2表 土壌一覧表

番号	地名	平面形	ID類型	生年	死年	深さ	時期	記載あり欄	南北	
SK-001	2区	楕円形	G	201	132	81	命名式	なし	中南米～後期前段土多く出土	
SK-002	2区		G	139		31	中期14後段	なし		
SK-003	2区	楕円形	A	164		25	中期14後段	>SK-005 <SP-009-010		
SK-004	2区	楕円形	H	109	65	35	中期11後段	なし		
SK-005	2区	円形			86	85	中期14後段	<SK-004		
SK-006	2区					8	不明	>SB-01		
SK-007	2区	円形	C	211	200	111	中期14後段	<SB-04	遺物小片のみ	
SK-008	2区		G		184	18	平明	>SP-025	中南米～後期の土多く出土	
SK-009	2区	楕円形	A	116	79	8	不明	なし	遺物出土なし	
SK-010	2区	円形	D	144	141	35	中期8後段	<SK-012	遺物出土なし	
SK-011	2区	楕円形	A	86	64	9	平明	なし	遺物出土なし	
SK-012	2区	円形	A	97		6	不明	>SK-019	遺物出土なし	
SK-013	2区	楕円長方形	A	102	67	10	不明	なし	遺物出土なし	
SK-014	2区		A		105	4	平明	<SP-007-038	遺物出土なし	
SK-015	2区	楕円形	C	85	63	34	不明	<SP-043	遺物出土なし	
SK-016	2区	円形	G	93	92	26	不明	なし	遺物出土なし	
SK-017	2区	楕丸丸形	B	97	94	20	平明	なし	遺物出土なし	
SK-018	2区	楕円形	H	126	87	33	中期14後段	<SB-01-SK-020		
SK-019	2区	楕円形	C	88	39	48	中期14後段	<SB-01		
SK-020	2区	不整形	G			10	平明	<>SB-01		
SK-021	2区	不整形	H		114	37	中期5～6後段	<SB-01	西半調査区域外	
SK-022	2区		C			47	中期14後段	<SB-01	西半調査区域外	
SK-023	4区	不整形	H	178	134	63	中期8後段	なし		
SK-024	4区	楕円形	G	169	114	53	中期13後段	>SB-12 <SP-009・092-094-095		
SK-025	4区	不整形	G	183	156	45	命名式	<SB-13-SK-049		
SK-026	4区	円形	G		132	53	中期13後段	>SB-07 <SK-084		
SK-027	4区	不整形	A		98	4	平明	<SB-13	南半調査区域外	
SK-028	4区	不整形	H		162	30	中期12後段	>SB-05・SP-053 <SK-038		
SK-029	4区	楕円形	H		68	15	不明	なし	遺物出土なし	
SK-030	4区		A		97	9	中期12後段	>SK-028	北半調査区域外	
SK-031	4区		K		99	59	中期13後段	<SK-064	南半調査区域外	
SK-032	4区		B	172		36	中期7後段	>SB-07-08-SK-056		
SK-033	3区	楕丸丸長方形	D	158		35	中期12後段	<SK-054-063-115	南半調査区域外	
SK-034	3区	楕円形	C		165	80	中期11後段	>SK-033 <SK-115	ひすい製陶場出土 北端調査区域外	
SK-035	3区	楕円形	G	144	110	51	命名式	<SP-203		
SK-036	3区	楕円形	D	122	71	42	不明	なし	遺物出土なし	
SK-037	3区	楕円形	F	113	55	21	不明	なし	遺物出土なし	
SK-038	3区	楕円形	G	157	76	69	不明	<SP-195 >SP-206	遺物小片のみ	
SK-039	3区	不整形	F	117	89	60	中期14後段	<SP-196		
SK-040	3区		G			33	不明	なし	遺物小片のみ 南半調査区域外	
SK-041	3区	不整形	D	120	110	30	不明	<SP-144-157-158	遺物出土なし	
SK-042	3区	楕円形	F	116	80	20	中期5後段	>SP-132		
SK-043	3区	楕円形	D	120	100	61	中期14後段	<SK-055-121	南半調査区域外	
SK-044	3区	楕円形	D	138		73	中期11後段	>SK-047		
SK-045	4区	不整形	H		62	23	輪之内1式	<SK-063-075	南半調査区域外	
SK-046	3区		D		160	89	中期11後段	<SK-071-072	西半調査区域外	
SK-047	3区	楕円形	H	202	148	115	中期14後段	<SK-044-070-077-122		
SK-048	3区	円形	D	95	87	43	不明	>SK-075 <SK-079-114-SP-165		
SK-049	3区	楕丸丸長方形	C		90	75	中期12-13後段	<SK-070-SP-158-211	ひすい製陶場出土 北端調査区域外	
SK-050	4区	長方形	B		89	19	中期11後段	<SK-19 >SP-067-226		
SK-051	3区	楕円形	B		148	136	22	中期11後段	>SB-047	
SK-052	4区	楕円形	A	120	85	9	不明	>SK-97 <SK-053	遺物出土なし	
SK-053	4区	不整形	B		105	22	中期11後段	>SK-07-SK-055		
SK-054	4区	長方形	C		202	73	中期11後段	>SK-08-SK-031-SP-068 <SP-074		
SK-055	3区	楕円形	D			45	中期14後段	>SK-043-056-SP-199	極地跡	
SK-056	3区	不整形	B	118	103	21	不明	>SP-199 <SK-055-SP-152		
SK-057	3区	不整形	G	139	114	44	中期11後段	<SK-01-SK-049-SP-225-227		
SK-058	4区	楕円形	D	159	116	72	命名式	>SK-07 <SK-06-SK-032-059		
SK-059	4区	楕円形	B		96	5	中期8後段	>SB-07-SK-058		
SK-060	3区	楕丸丸長方形	F		88	57	中期14後段	>SB-13-SK-066 <SK-087-088	蛇紋岩製陶場出土	
SK-061	3区	長方形	G	137	72	13	中期8後段	<SK-067 >SK-082		
SK-062	3区	楕円形	B			43	中期11後段	>SK-068 <SK-084	北半調査区域外	
SK-063	3区	長方形	B		185	22	中期9後段	>SK-045-075 <SP-218-219-366		
SK-064	3区	不整形	D	144	104	43	中期13後段	>SP-197 <SK-094-SP-358-359	遺物出土なし	
SK-065	3区	円形	B		107	13	小明	<>SP-176-177 <SK-065	遺物出土なし	

番号	様式番号	平面形	断面形	名前	持続	深さ	時期	切りあい関係	備考
SK-068	3 区	楕円形	F		81	38	不明	>SK-065・SP-197	遺物小片のみ
SK-067	3 区		D		36	中期10～11段階	なし		北半調査区域外
SK-068	3 区	円形	A		124	29	中期12段階	<SK-062-074+086	北半調査区域外
SK-069	3 区	楕円形	D	132		56	中期7段階	>SK-070-083	
SK-070	3 区	楕円形	H		92	21	中期12段階	<SK-069-072 >SK-047-049	
SK-071	3 区		B			29	不明	>SK-045-SP-163 <>SP-162	
SK-072	3 区	楕円形	D	126	74	中期12段階	>SK-046-070	南北調査区域外	
SK-073	4 区	円形	E	103	96	67	中期4段階	<>SK-001-002	
SK-074	3 区		C				中期5段階	>SK-068-086	北半調査区域外 計測ミス
SK-075	3 区	不整形	D	125		57	中期12段階	>SK-045-SP-172 <SK-048-063-114-SP-198	
SK-076	3 区		C		77	77	命名式	<SK-077-089	北半調査区域外
SK-077	3 区	楕円形	C		72	32	不明	<SK-080 >SK-047-076	遺物出土なし
SK-078	3 区					38	不明	>SK-079-SP-211-212	北半調査区域外
SK-079	3 区	楕丸長方形	B	114	77	24	不明	>SK-048-090-SP-160 <SK-078-SP-098	
SK-080	3 区		C			77	中期7段階	>SK-076-077 <SK-069	北半調査区域外
SK-081	3 区	円形	E	105		58	不明	なし	
SK-082	3 区	楕円形	B	106	66	25	中期10段階	<SK-060-061	遺物小片のみ
SK-083	4 区	楕円形	C	114		36	中期12段階	>SK-033 <SK-081	南半調査区域外
SK-084	4 区					64	不明	>S-K-026	遺物小片のみ 東半調査区域外
SK-085	4 区					35	不明	< S-F-102	遺物小片のみ 南半調査区域外
SK-086	3 区	楕円形	B		85	29	中期13段階	<SK-074-SP-397 >SK-068	
SK-087	3 区	不整形	B		86	17	中期5段階	>SK-060-088-SP-13 <SP-216	
SK-088	3 区	楕丸長方形	D	122	93	47	中期10段階	>SB-13-SK-069-SP-279 <SK-087-SP-365	
SK-089	3 区	楕円形	C	125	81	69	中期10段階	<SK-14-SP-225 >SK-067-SP-224	
SK-090	3 区					41	不明	<SK-079	遺物小片のみ
SK-091	4 区	楕円形	D			39	不明	>SK-083-SP-361	遺物出土なし
SK-092	3 区	不整形	D	137	94	45	不明	<>SB-13-14	遺物出土なし
SK-093	3 区	円形	B		79	21	中期5～6段階	>SB-13	
SK-094	3 区	円形	D		103	45	不明	>SK-062-064	遺物出土なし
SK-095	1 区		H	118		13	不明	なし	遺物小片のみ 北半調査区域外
SK-096	1 区	円形	D	168	99	36	不明	なし	遺物出土なし
SK-097	1 区	楕円形	B	169		15	不明	なし	遺物小片のみ 北半調査区域外
SK-098	1 区	楕円形	B	147	97	35	中期2段階	なし	
SK-099	1 区		D	164		38	不明	<SP-245	北半調査区域外
SK-100	1 区	楕円形	A	88	65	11	不明	<SP-355	遺物破損
SK-101	1 区	楕円形	D	86	62	33	不明	<SK-102	遺物小片のみ
SK-102	1 区					32	不明	>SK-101	遺物出土なし
SK-103	1 区	円形	B	84	75	25	中期7～8段階	<SP-278	
SK-104	1 区	楕円形	F	93	75	33	不明	<SP-276	遺物小片のみ
SK-105	1 区	楕円形	E	89	89	24	中期5～6段階	<SP-298	北半部
SK-106	1 区	楕円形	A	93	67	14	不明	<SP-307	遺物出土なし
SK-107	1 区	楕円形	A		106	16	不明	<SP-317	遺物小片のみ
SK-108	1 区	楕円形	G	127	102	34	中期3段階	<SP-321	
SK-109	1 区	不整形	C	98	51	25	中期4段階	なし	
SK-110	1 区	異形円形	F	102	54	19	不明	>SP-323	遺物出土なし
SK-111	1 区					17	不明	なし	遺物小片のみ
SK-112	3 区	楕円形	B	99	73	20	不明	<SK-113	遺物出土なし
SK-113	3 区	円形	F		104	38	不明	>SK-112	遺物出土なし
SK-114	2 区					29	不明	>SK-975-048	遺物出土なし
SK-115	3 区					5	不明	>SK-033-034	遺物出土なし
SK-116	4 区	不整形	F		111	63	不明	>SB-07	遺物出土なし
SK-117	4 区	異形円形	B	201	13	不明	<SP-352 >SB-08-SX-001-SP-363	遺物出土なし	
SK-118	4 区	不整形	D	163		42	不明	>SB-06	遺物小片のみ
SK-119	4 区	楕円形	C		64	66	不明	>SB-06-SP-375-377	
SK-120	3 区	円形	C		68	37	中期12段階	<SB-14	埋蔵
SK-121	3 区					53	不明	>SK-043-047	遺物出土なし
SK-122	3 区	楕円形	B		113	17	不明	>SP-147 <SP-154	遺物出土なし 南半調査区域外

\* 土壙の構成数値の単位は「cm」である。

\* 切りあい関係欄は、「> : 切られる」、「< : 切る」である。

\* 断面形欄は、「A：柱状」、「B：クライ状」、「C：橋状」、「D：台形状」、「E：袋状」、「F：小ビットが伴うもの」、「G：2段以上に掘り込まれているもの」、「H：不整形」である。

\* 数値の欄空白の箇所は、切りあい関係や遺構が区域外まで及ぶため計測不可を意味する。

第3表 ピット一覧表

地名番号	出土箇所	長軸	短軸	深さ	時期	卓りあい関係	備考
SP-001	2区	25	25	11	不明	<SP-002	遺物出土なし
SP-002	2区			16	不明	>SB-02・SP-001	遺物出土なし
SP-003	2区	53	37	9	不明		遺物出土なし
SP-004	2区	23	23	10	不明	なし	遺物小片のみ
SP-005	2区	69		38	後周初頭	なし	遺物出土なし
SP-006	2区	41	29	22	不明	なし	遺物出土なし
SP-007	2区	67	63	8	中期5世紀	なし	
SP-008	2区	41	41	50	中期1世紀前	なし	
SP-009	2区	53		57	中期5世紀	>SP-008	
SP-010	2区	75		19	不明	>SP-003	遺物出土なし
SP-011	2区	31	29	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-012	2区	42	39	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-013	2区	42	36	6	不明	なし	遺物出土なし
SP-014	2区	58	36	21	不明	なし	遺物出土なし
SP-015	2区	50	39	4	不明	<SP-017	遺物出土なし
SP-016	2区	46	41	3	不明	なし	遺物出土なし
SP-017	2区	51	9	9	不明	>SP-016	遺物出土なし
SP-018	2区		58	11	不明	なし	遺物出土なし
SP-019	2区		72	12	不明	>SP-04	遺物出土なし
SP-020	2区	30	30	14	不明	なし	遺物出土なし
SP-021	2区	53	52	8	不明	<SP-022	遺物出土なし
SP-022	2区			37	不明	>SP-021・023	遺物出土なし
SP-023	2区	95	66	44	不明	<SP-022	遺物小片のみ
SP-024	2区	82	43	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-025	2区	120	79	7	不明	<SP-008	遺物出土なし
SP-026	2区	54	53	4	不明	なし	遺物出土なし
SP-027	2区	93	67	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-028	2区	43	37	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-029	2区	43	43	4	不明	なし	遺物出土なし
SP-030	2区	37		4	不明	>SF-034	遺物出土なし
SP-031	2区			8	不明	>SF-034	遺物出土なし
SP-032	2区	49	27	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-033	2区	67		5	不明	なし	遺物出土なし
SP-034	2区	47	41	16	不明	<SP-030・031	遺物出土なし
SP-035	2区	51	51	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-036	2区			6	不明	>SP-037	遺物出土なし
SP-037	2区			15	不明	<SK-014 <SP-036	遺物出土なし
SP-038	2区	58		6	不明	>SK-014	遺物出土なし
SP-039	2区	102		6	不明	なし	遺物出土なし
SP-040	2区	69	59	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-041	2区	62	60	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-042	2区	69	61	11	不明	<SP-043	遺物出土なし
SP-043	2区	65		13	不明	>SP-042・SP-016	遺物出土なし
SP-044	2区	76	63	18	不明	なし	遺物出土なし
SP-045	2区	25	23	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-046	2区	43	43	12	不明	なし	遺物出土なし
SP-047	2区	41		12	不明	なし	遺物出土なし
SP-048	2区	57	59	16	不明	なし	遺物出土なし
SP-049	4区		23		不明	なし	遺物出土なし
SP-050	4区	57	36	14	不明	なし	遺物小片のみ
SP-051	4区	57	45	48	中期後半?	<SP-052	遺物出土なし
SP-052	4区				不明	>SK-028・SP-051	遺物小片のみ
SP-053	4区	47	25	71	不明	<SK-028	遺物出土なし
SP-054	4区	31	29	10	不明	なし	遺物小片のみ
SP-055	4区	28	28	38	不明	なし	遺物出土なし
SP-056	4区	36	28	51	中期11～12世紀	なし	遺物小片のみ
SP-057	4区	15	13	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-058	4区	35	27	39	不明	なし	遺物小片のみ
SP-059	4区	37	33	4	不明	なし	遺物出土なし
SP-060	4区	28	25	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-061	4区	70	52	60	中期5世紀	なし	遺物出土なし
SP-062	4区	52	43	51	中期9世紀	なし	
SP-063	4区	38	34	5	中期5世紀	なし	
SP-064	4区	1	23	6	不明	>SP-065	遺物小片のみ
SP-065	4区	51	43	29	不明	<SP-064	遺物小片のみ
SP-066	4区			58	中期後半?	なし	
SP-067	3区			28	不明	>SP-119	遺物出土なし
SP-068	4区			9	不明	なし	遺物出土なし
SP-069	4区			32	中期5世紀?	>SD-06	
SP-070	4区			43	12	不明	<SP-066
SP-071	4区			33	13	中期未定?	<SP-072
SP-072	4区			9	不明	>SP-06・SP-071	遺物出土なし
SP-073	4区			7	不明	<SH-10	遺物小片のみ
SP-074	4区			33	8	不明	>SK-054
SP-075	4区	49	39	11	不明	<SD-10	遺物出土なし
SP-076	4区	24	21	8	不明	<SP-068	遺物出土なし
SP-077	4区			38	19	不明	>SP-068

番号	出土場所	層位	遺物	特徴	想定する性質	備考
SP-678	4 区	30	不明	>SX-063	遺物出土なし	
SP-679	4 区	27	13 中期10~11段階	<SP-065	遺物小片のみ	
SP-680	4 区	61	47 19 不明	>SP-079	遺物出土なし	
SP-681	4 区	44	9 不明	>SP-229	遺物出土なし	
SP-682	4 区	51	43 22 中期11段階	<SP-093-SX-082	遺物小片のみ	
SP-683	4 区	63	47 12 不明	<SK-901-SP-382-SK-117	遺物小片のみ	
SP-684	4 区	64	34 22 不明	なし	遺物小片のみ	
SP-685	4 区	45	22 不明	>SB-07		
SP-686	4 区	68	中期10段階	>SP-419		
SP-687	4 区	62	61 中期11段階	>SB-06 <SK-050	遺物小片のみ	
SP-688	4 区	55	49 不明	>SP-076 <SP-054-SP-077	遺物出土なし	
SP-689	4 区	44	11 不明	>SK-024	遺物出土なし	
SI-999	4 区	57	22 不明	>SI-691 <SK-002	遺物小片のみ	
SP-991	4 区	48	27 不明	>SP-092 <SP-090	遺物出土なし	
SP-992	4 区	40	13 不明	>SK-124 <SP-091	遺物出土なし	
SP-993	4 区	43	16 不明	>SP-082 <SP-084	遺物出土なし	
SP-994	4 区	43	13 中期6段階	>SK-024-SP-063	遺物小片のみ	
SP-995	4 区	31	14 小明	>SK-12-SP-024	遺物出土なし	
SP-996	4 区	42	39 不明	<SK-001	遺物出土なし	
SP-997	4 区	50	38 中期9段階	>SK-063	遺物小片のみ	
SP-998	3 区	20	不明	>SK-079		
SP-699	4 区	33	20 不明	>SP-102	遺物出土なし	
SP-100	4 区	31	35 不明	>SP-101	遺物出土なし	
SP-101	4 区	33	25 不明	>SP-102 <SP-100	遺物小片のみ	
SP-102	4 区	68	36 不明	<SP-099-101 >SK-085	遺物出土なし	
SP-103	4 区	35	33 中期14段階	なし		
SP-104	4 区	36	7 不明	なし		
SP-105	3 区	58	12 不明	>SK-038	遺物出土なし	
SP-106	3 区	34	22 27 不明	なし	遺物出土なし	
SP-107	3 区	61	45 6 不明	なし	遺物出土なし	
SP-108	3 区	47	25 21 不明	なし	遺物出土なし	
SP-109	3 区	57	51 66 不明	なし	遺物出土なし	
SP-110	3 区	26	54 8 小明	なし	遺物出土なし	
SP-111	3 区	36	29 不明	なし	遺物出土なし	
SP-112	3 区	32	32 27 小明	なし	遺物出土なし	
SI-113	3 区	49	27 13 不明	なし	遺物出土なし	
SP-114	3 区	35	33 22 小明	なし	遺物出土なし	
SP-115	3 区	35	26 17 不明	なし	遺物出土なし	
SP-116	3 区	25	21 23 不明	なし	遺物出土なし	
SP-117	3 区	22	26 16 不明	なし	遺物出土なし	
SP-118	3 区	43	23 不明	なし	遺物出土なし	
SP-119	3 区	42	38 11 不明	<SP-120	遺物出土なし	
SP-120	3 区	54	12 不明	>SP-119	遺物出土なし	
SP-121	3 区	53	36 14 不明	なし	遺物出土なし	
SP-122	3 区	52	39 31 不明	なし	遺物出土なし	
SP-123	3 区	46	42 42 不明	なし	遺物出土なし	
SP-124	3 区	58	44 中期14段階	>SP-125		
SP-125	3 区	40	37 27 不明	>SP-126 <SP-124	遺物出土なし	
SP-126	3 区	36	29 22 不明	<SP-125	遺物出土なし	
SP-127	3 区	84	62 37 中期14段階	<SP-126	遺物出土なし	
SP-128	3 区	56	8 小明	>SP-127		
SP-129	3 区	22	32 21 不明	なし	遺物出土なし	
SP-130	3 区	37	47 中期11~12段階	なし	遺物出土なし	
SI-131	3 区	62	26 15 不明	なし	遺物出土なし	
SP-132	3 区	38	33 16 不明	<SK-042	遺物出土なし	
SI-133	3 区	26	25 16 不明	なし	遺物出土なし	
SP-134	3 区	39	31 10 不明	なし	遺物出土なし	
SP-135	3 区	89	54 38 中期9段階	なし		
SP-136	3 区	31	22 20 不明	なし	遺物出土なし	
SP-137	3 区	51	32 31 不明	なし	遺物出土なし	
SP-138	3 区	54	41 28 中期9段階	<SP-139		
SP-139	3 区	36	20 不明	>SP-138-146	遺物小片のみ	
SP-140	3 区	43	39 23 不明	<SP-138	遺物出土なし	
SP-141	3 区	45	39 29 小明	>SP-192	遺物出土なし	
SP-142	3 区	49	28 9 不明	なし	遺物出土なし	
SP-143	3 区	63	47 38 中期9段階	なし		
SP-144	3 区	26	20 不明	>SK-941 <SP-189	遺物出土なし	
SP-145	3 区	33	33 20 不明	なし	遺物出土なし	
SP-146	3 区	51	41 40 不明	なし	遺物出土なし	
SP-147	3 区	37	28 15 不明	<SK-122	遺物出土なし	
SP-148	3 区	43	43 24 小明	なし	遺物出土なし	
SP-149	3 区	26	24 19 不明	なし	遺物出土なし	
SP-150	3 区	76	55 小明	>SK-039	遺物出土なし	
SP-151	4 区	26	22 15 不明	<SP-149	遺物出土なし	
SP-152	3 区	53	44 19 不明	>SP-056 <SP-153	遺物出土なし	
SP-153	3 区	58	19 不明	>SP-152	遺物出土なし	
SP-154	3 区	36	26 11 不明	>SK-122	遺物出土なし	
SP-155	3 区	26	26 11 不明	>SP-156	遺物出土なし	
SP-156	3 区	21	19 不明	>SP-157	遺物出土なし	

遺構番号	発生場所	長径	短径	深さ	時期	残りあるいは記述	備考
SP-157	3区	52	31	34	不明	<SP-156	遺物出土なし
SP-158	3区		49	13	不明	>SK-949 <SP-211	遺物出土なし
SP-159	3区	28	24	19	不明	なし	遺物出土なし
SP-160	3区	67	59	44	不明	<SK-979	遺物出土なし
SP-161	2区	69	39	71	中期9段階	>SP-164	
SP-162	3区	39	36	40	不明	<>SK-971	遺物出土なし
SP-163	3区		63	44	中偏後半?	<SK-971	
SP-164	3区	45	34	10	不明	<SP-161	遺物出土なし
SP-165	3区		40	14	不明	>SK-948	遺物出土なし
SP-166	3区	25	20	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-167	3区		28	14	不明	>SP-168	遺物出土なし
SP-168	3区	34	28	16	不明	<SP-167-169	遺物出土なし
SP-169	3区	17	9	9	不明	>SP-168-170	遺物出土なし
SP-170	3区	30	24	11	不明	<SP-169	遺物出土なし
SP-171	3区		24	9	不明	>SP-198	遺物出土なし
SP-172	3区	35	33	58	不明	<SK-975	遺物出土なし
SP-173	3区	52	34	29	不明	なし	遺物出土なし
SP-174	3区	76	59	28	不明	なし	遺物出土なし
SP-175	3区		26	26	不明	<>SK-965	遺物出土なし
SP-176	2区		21	11	不明	<>SK-966	遺物出土なし
SP-177	3区	28	19	25	不明	<>SK-966	遺物出土なし
SP-178						欠番	
SP-179	3区		25	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-180	3区	23	21	4	不明	なし	遺物出土なし
SP-181	3区	34	23	18	不明	なし	遺物出土なし
SP-182	3区	34	20	10	不明	なし	遺物出土なし
SP-183	3区			7	不明	>SP-184	遺物出土なし
SP-184	3区		56	22	不明	<SP-183	遺物出土なし
SP-185	3区	28	20	22	不明	なし	遺物出土なし
SP-186	3区		30	22	不明	<SP-910	遺物出土なし
SP-187	3区		30	9	不明	<SP-210 >SK-941	遺物出土なし
SP-188	3区	45		9	不明	>SK-941	遺物出土なし
SP-189	3区	25		27	不明	>SP-144 <SP-190	遺物出土なし
SP-190	3区	23		20	不明	>SP-189-191	遺物出土なし
SP-191	3区	27		29	不明	>SP-192 <SP-190	遺物出土なし
SP-192	3区		34	26	不明	>SP-141 <SP-191	遺物出土なし
SP-193	3区		36	11	不明	>SK-963 <SP-218	遺物出土なし
SP-194	4区	32	22	19	中期12段階	>SH-07	
SP-195	4区	58	42	26	不明	>SB-97	遺物小品のみ
SP-196	4区	37	30		不明	>SI-97	遺物出土なし
SP-197	3区	94	80	4	不明	<SK-964-966	遺物出土なし
SP-198	3区	68	55	29	中期12段階	<SK-975-SP-171	
SP-199	3区	83	60	25	不明	<SK-965-956-SP-967	遺物出土なし
SP-200	4区			21	不明	>SB-15	遺物出土なし
SP-201	4区	25	23	12	不明	なし	遺物出土なし
SP-202	4区		44	31	中期8段?	なし	
SP-203	3区	50		15	不明	>SK-935	遺物出土なし
SP-204	3区			27	不明	なし	遺物出土なし
SP-205	3区	24	14	12	不明	なし	遺物出土なし
SP-206	3区	47		22	不明	<SK-938	遺物出土なし
SP-207	3区	28	23	20	不明	なし	遺物出土なし
SP-208	3区	50	35	29	中期10段階	なし	
SP-209	3区	29	23	16	不明	なし	遺物出土なし
SP-210	3区		21	5	不明	>SF-186-187	遺物出土なし
SP-211	3区			48	不明	>SK-949-SP-158 <SK-974	遺物出土なし
SP-212	3区	32	27	32	不明	<SK-978	遺物小品のみ
SP-213	3区	61	54	23	不明	なし	遺物出土なし
SP-214	3区		49	23	不明	なし	遺物出土なし
SP-215	3区	45		29	不明	<SP-216	遺物小品のみ
SP-216	3区		50	27	不明	>SP-215- SK-087	遺物小品のみ
SP-217	3区			37	中期9段階	<SH-01	遺物出土なし
SP-218	3区			30	中期14段階	<SK-963-SP-193	遺物出土なし
SP-219	3区	76		20	中期8～9段階	>SP-13	
SP-220	5区	39	29	14	中期12段階	<>SP-221-223	
SP-221	3区			62	不明	>SB-14-SP-224 <SP-222 <>SP-223	遺物出土なし
SP-222	3区			17	不明	>SD-91	遺物出土なし
SP-223	3区	75		14	不明	>SB-14-SP-221-224 <>SP-220	遺物出土なし
SP-224	3区	65	47	39	中期11～12段階	<SK-14-SP-221-223	遺物小品のみ
SP-225	3区		78	22	不明	>SK-957-969 <SP-226	遺物出土なし
SP-226	3区		75	49	不明	>SP-225	遺物出土なし
SP-227	3区	68		24	不明	>SK-957	遺物出土なし
SP-228	4区		62	72	中期14段階	<SB-10- SK-957	
SP-229	4区	90	58	43	中期14段階	<SB-10- SP-981	
SP-230	1区	42	30	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-231	1区	57	49	23	不明	なし	遺物出土なし
SP-232	1区	83	54	21	不明	なし	遺物出土なし
SP-233	1区	39	35	43	不明	なし	遺物出土なし
SP-234	1区	26	19	6	不明	なし	遺物出土なし
SP-235	1区		73	29	不明	<SP-237	遺物出土なし

発掘番号	探査測定	長幅	対側	深さ	特徴	切りあい關係	感考
SP-236	1区			36	10 不明	>SP-237	遺物小片のみ
SP-237	1区			39	7 不明	<SP-236 >SP-235	遺物小片のみ
SP-238	1区			67	13 中期後葉	>SP-239	
SP-239	1区	63		43	22 不明	<SP-238-240	遺物出土なし
SP-240	1区			65	11 中期後葉後半	>SP-238	
SP-241	1区	43		33	20 不明	なし	遺物出土なし
SP-242	1区	26		23	14 不明	なし	遺物出土なし
SP-243	1区	63		32	20 不明	なし	遺物出土なし
SP-244	1区	36		34	12 不明	<SP-245	遺物出土なし
SP-245	1区			39	55 晩期圓山式	>SP 244-5K 099	
SP-246	1区	38		33	30 不明	<SP-247	遺物小片のみ
SP-247	1区			37	11 不明	>SP-246	遺物小片のみ
SP-248	1区	37		30	10 不明	なし	遺物出土なし
SP-249	1区	43		32	20 不明	なし	遺物出土なし
SP-250	1区	54		33	27 不明	<SP-355	遺物出土なし
SP-251	1区	42		35	15 不明	なし	遺物出土なし
SP-252	1区			16	不明	なし	遺物出土なし
SP-253	1区	18		15	7 不明	なし	遺物出土なし
SP-254	1区			25	6 不明	>SP-356	遺物出土なし
SP-255	1区	42		40	40 不明	なし	遺物小片のみ
SP-256	1区	26		24	18 不明	なし	遺物出土なし
SP-257	1区	30		28	5 不明	なし	遺物出土なし
SP-258	1区			74	23 不明	なし	遺物出土なし
SP-259	1区	44		34	18 不明	なし	遺物出土なし
SP-260	1区			25	9 小明	なし	遺物出土なし
SP-261	1区	79		36	17 不明	なし	遺物出土なし
SP-262	1区	22		22	11 不明	なし	遺物出土なし
SP-263	1区			36	10 不明	>SP-264	遺物出土なし
SP-264	1区	25		24	15 不明	<SP-263-265	遺物出土なし
SP-265	1区			26	15 不明	>SP-264	遺物出土なし
SP-266	1区			26	14 不明	なし	遺物出土なし
SP-267	1区	41		33	9 不明	<SP-292-295	遺物出土なし
SP-275	1区	33		23	9 不明	なし	遺物出土なし
SP-276	1区			37	20 不明	>SK-104	遺物出土なし
SP-277	1区	65		53	29 中期5段階	<SP-278	遺物出土なし
SP-278	1区	46		13 不明	>SP-277-5K-103	遺物小片のみ	
SP-279	1区	30		27	16 不明	なし	遺物出土なし
SP-280	1区			32	16 不明	なし	遺物出土なし
SP-281	1区			12 不明	なし	遺物小片のみ	
SP-282	1区			39	13 不明	なし	遺物小片のみ
SP-283	1区	18		17	9 不明	なし	遺物出土なし
SP-284	1区			44	26 不明	なし	遺物小片のみ
SP-285	1区	56		27	28 不明	なし	遺物出土なし
SP-286	1区	41		24	24 不明	なし	遺物出土なし
SP-287	1区	46		38	27 不明	なし	遺物小片のみ
SP-288	1区	32		26	8 不明	なし	遺物出土なし
SP-289	1区	24		22	6 不明	なし	遺物出土なし
SP-290	1区	20		18	11 不明	なし	遺物小片のみ
SP-291	1区			34	4 不明	>SP-292-293	遺物出土なし
SP-292	1区			6	不明	<SP-291 >SP-273-274-294	遺物出土なし
SP-293	1区	38		36	13 小明	<SP-291	遺物出土なし
SP-294	1区	36		27	28 不明	<SP-292	遺物出土なし
SP-295	1区			27	14 不明	<SP-296 >SP-274-292	遺物出土なし
SP-296	1区			32	12 不明	>SP-295	遺物出土なし
SP-297	1区			22 不明	なし	遺物出土なし	
SP-298	1区			31	20 不明	>SK-105	遺物出土なし
SP-299	1区	34		24	8 不明	なし	遺物出土なし
SP-300	1区	35		34	25 不明	なし	遺物出土なし
SP-301	1区	45		36	15 不明	なし	遺物出土なし
SP-302	1区			15 不明	なし	遺物出土なし	
SP-303	1区			22 不明	なし	遺物出土なし	
SP-304	1区	23		11 不明	なし	遺物出土なし	
SP-305	1区	36		31	16 不明	なし	遺物出土なし
SP-306	1区	30		28	22 不明	なし	遺物出土なし
SP-307	1区	45		43	19 不明	なし	遺物出土なし
SP-308	1区			22 不明	>SK-106	遺物出土なし	
SP-309	1区	28		30	9 不明	なし	遺物出土なし
SP-310	1区	23		23	10 不明	なし	遺物出土なし
SP-310	1区	28		18 不明	なし	遺物出土なし	
SP-311	1区			32	11 不明	>SF-312	遺物出土なし
SP-312	1区	34		29	22 不明	<SP-311	遺物出土なし
SP-313	1区	42		33	11 不明	なし	遺物出土なし
SP-314	1区	47		32	13 不明	なし	遺物出土なし

当場番号	埋出箇所	長径	短径	深さ	時期	切りあい關係	備考
SP-315	1区	66	45	16	不明	なし	遺物出土なし
SP-316	1区	74	46	29	不明	なし	遺物小片のみ
SP-317	1区	35		10	不明	>SK-187	遺物出土なし
SP-318	1区	28	24	5	不明	なし	遺物出土なし
SP-319	1区			9	不明	なし	遺物出土なし
SP-320	1区	22	21	8	不明	なし	遺物出土なし
SP-321	1区			35	21 不明	<SP-329	遺物小片のみ
SP-322	1区	45	39	20	不明	>SP-328	遺物出土なし
SP-323	1区			47	22 不明	>SP-331	遺物小片のみ
SP-324	1区	39			不明	<SP-330	遺物出土なし
SP-325	1区	28	23	8	不明	なし	遺物出土なし
SP-326	1区			47	18 不明	<SK-110	遺物出土なし
SP-327	1区	30	23	23	不明	<SP-335	遺物小片のみ
SP-328	1区	43	40	10	不明	>SP-334	遺物出土なし
SP-329	1区			42	10 不明	なし	遺物小片のみ
SP-330	1区	46		22	中項 4段階	なし	遺物出土なし
SP-331	1区	47	46	28	不明	なし	遺物出土なし
SP-332	1区	67	52	42	不明	なし	遺物小片のみ
SP-333	1区	31	36	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-334	1区	40	34	8	不明	なし	遺物小片のみ
SP-335	1区	52	42	13	不明	なし	遺物出土なし
SP-336	1区	28	26	19	不明	なし	遺物出土なし
SP-341	1区	27		19	不明	なし	遺物出土なし
SP-342	1区	51	39	21	不明	なし	遺物出土なし
SP-343	1区	26		12	不明	なし	遺物出土なし
SP-344	1区			23	不明	なし	遺物出土なし
SP-345	1区	30	26	13	不明	なし	遺物出土なし
SP-346	1区			49	16 不明	なし	遺物小片のみ
SP-347	1区			27	14 不明	>SP-348	遺物出土なし
SP-348	1区	60	49	21	不明	<SP-347,349	遺物小片のみ
SP-349	1区	34		26	不明	>SP-348	遺物小片のみ
SP-350	1区	67	48	18	不明	なし	遺物出土なし
SP-351	1区	37	25	15	不明	なし	遺物出土なし
SP-352	1区			23	14 不明	なし	遺物小片のみ
SP-353	1区	22	22	7	不明	なし	遺物出土なし
SP-354	1区			9	不明	なし	遺物出土なし
SP-355	1区			38	18 不明	>SK-100-SF-250	遺物出土なし
SP-356	1区	34	25	12	不明	<SP-254-357	遺物出土なし
SP-357	1区				11 不明	>SP-356	遺物出土なし
SP-358	3区			69	18 不明	>SK-064	遺物出土なし
SP-359	3区			32	16 不明	>SK-064	遺物出土なし
SP-360	3区			42	21 不明	>SK-063-065	遺物出土なし
SP-361	4区	58	50	25	不明	<SK-091	遺物出土なし
SP-362	4区			60	不明	>SK-117-SK-091-SF-083	遺物出土なし
SP-363	4区	32	27	6	不明	>SK-117	遺物出土なし
SP-364	3区			25	8 不明	>SK-14	遺物出土なし
SP-365	3区	52	47	40	不明	>SK-13 <SM-14	遺物出土なし
SP-366	3区	47		64	不明	>SK-13-SK-088	遺物小片のみ
SP-367	3区			46	47 不明	>SK-13-SK-365-370	遺物小片のみ
SP-368	3区			15	不明	>SK-13	遺物出土なし
SP-369	3区	77	53	63	不明	<SK-13	遺物出土なし
SP-370	3区	75	69	47	不明	<SK-13-SK-367-SK-088	遺物小片のみ
SP-371	4区			16	不明	>SD-13	遺物出土なし
SP-372	4区			19	9 不明	>SB-12	遺物出土なし
SP-373	4区			18	4 不明	>SD-12-SF-374	遺物出土なし
SP-374	4区			21	6 不明	>SD-12 <SP-373	遺物出土なし
SP-375	4区	28		28	不明	>SK-06-SK-119	遺物出土なし
SP-376	4区			31	17 不明	>SK-06	遺物小片のみ
SP-377	4区			38	57 中項 7～8段階	>SK-06-SK-119	遺物小片のみ
SP-378	4区				不明	>SK-06	遺物出土なし
SP-379	4区	43		29	不明	>SK-06	遺物出土なし
SP-380	4区	30		17	中項 7～8段階	>SK-06	遺物出土なし
SP-381	4区			33	4不明	>SK-06 <SP-382	遺物出土なし
SP-383	4区			48	不明	>SK-06-SK-381	遺物出土なし

・ ピットの規模数値の単位は「cm」である。

・ 切りあい関係には、「▷：切られる」、「<：切る」である。

・ 敷納の欄空白の箇所は、切りあい関係や遺構が区域外まで及ぶため計測不可を意味する。

### 3. 出土遺物

#### (1) 縄文時代の遺物

##### ① 土器 (第24~40図、第4表)

今回の調査では縄文前期中葉、中期全般、後期初頭～前葉の土器がコンテナ35箱程出土した。その中でも多いのは中期後葉の土器であり大半を占める。調査地はナガイモ耕作及びスプリンクラー埋設による擾乱と、昭和40年代初頭に実施された圃場整備事業の際削平を受けており、完形に復元できる土器は住居址の埋甃など一部に限られた。それでも比較的残存が良い資料や、特徴的な資料であった59個体の実測図、243片の拓影図を掲載した。以下時期ごとに概観していく。

##### A 前期の土器

この時期の遺構はSB-05、SK-111、SP-245だけで、SB-05でも10数片、その他は1、2片が出土したにとどまり、実測図を作成する程残存の良い資料には恵まれなかった。第31図24・26には多段ループ文が見られ、17~23・25・27のSB-05出土の他資料には羽状縄文が施されている。これらの土器は比較的厚めで、いずれの土器も胎土に纖維を含まない。また圓化しなかったが、尖底になる底部の破片資料1点、薄手の破片1点も出土している。SB-05出土の土器は関山II式に位置付けられる。SK-111出土の第39図198にも羽状縄文が見られるが、小片であり前期以上の時期は確定できない。なお前期に該当する他時期の資料は出土しなかった。

##### B 中期の土器

中期の中でも前半と後半では出土量に大差があり、中期後葉に位置付けられるものが大半を占める。この時期の遺物は他時期に比べ遺物の量が多かったため、報告書を記述する上で便宜的に時期区分を行った。時期区分にあたっては先学諸氏による土器編年の成果に基づいており、当遺跡出土の土器を検討し分けたものではない。初頭については三上徹也氏の梨久保式、中葉は井戸尻編年を基に松本市坪ノ内遺跡出土遺物を検討された寺内隆夫氏、野村一寿氏が設け、その後同市南中島遺跡、小池遺跡II・一つ家遺跡の報告時にも使われた時期区分に、後葉は唐木孝雄氏による唐草文土器編年に依拠した。また今回の調査により出土した土器には、中期末とも後期初頭とも線引きが難しい時期の資料が比較的多くあるので、唐草文土器編年の中期末とされるV段階の中でも新しい様相をもつ土器を区別し、中期最終末とも言うべき段階を設けた。但しこの区別は感覚的によるところが大きい。

中期1段階=梨久保I式 中期2段階=梨久保II式 中期3段階=猪沢式 中期4段階=新道式  
中期5段階=藤内I式 中期6段階=藤内II式 中期7段階=井戸尻I式 中期8段階=井戸尻III式  
中期9段階=唐草文系I段階 中期10段階=唐草文系II段階 中期11段階=唐草文系III段階  
中期12段階=唐草文系IV段階 中期13段階=唐草文系V段階(古) 中期14段階=唐草文系V段階(新)・中期最終末

以下時期を追って記述していきたいが、本調査で出土遺物のなかった段階は項目を設けないことにする。また調査担当者の不勉強さ、気の付くまま感覚的に記述してしまったきらいがあるので、段階設定や解釈を多々誤っているであろう点断っておきたい。

##### α 中期2段階

SK-098のみがこの段階で、第29図52を図示した。頸部には、半截竹管で半肉彫状に「匁」状区画され

た内部に、半裁竹管状工具による細線文が格子状に充填されており、この期の特徴を示す。なお脇部には指頭圧痕も明瞭に見られる。

#### β 中期 3 段階

SB-01、SK-010・108等が該当する。第27図38は小型の鉢で、隆帯により梢円形区画を2段配し、上段は角押文を縦に施文充填し、下段は隆帯に沿って角押文を施している。それ以下には「？」マークを逆にした文様を隆帯にて施している。第24図9は斜行沈線文系統の土器で、隆帯による梢円形区画の脇に耳状の貼付文がある。

#### γ 中期 4 段階

SK-109、SP-330のみが該当し、遺構外からも多少出土があった。SK-109出土第38図193、第39図195は重三角形状区画になるとと思われる隆帯脇に三角押引文が伴う。遺構外出土の第39図207は隆帯脇にキャタピラ文が伴う。第40図219は、三角形状と円環状隆帯脇にキャタピラ文や三角押文が伴い、間に繩文を充填している。

#### δ 中期 5 段階

SK-021・042・074・087、SP-009・061等がこの段階に該当し、遺構外からも多少出土があった。第29図50は、梢円形隆帯区画を横帶させ、区画内には隆帯脇に連続爪形文、その内側に繩文を充填した後波状沈線文を中央に施文している。第38図189にも隆帯脇に爪形文が見られ、区画内充填には集合沈線が施文されている。第36図123、第40図220は縱割区画の文様構成で、半隆起状平行沈線によるパネル文内を斜位の沈線文にて充填している。SP-061出土の第33図68は小片ではあるが、平出第三類A土器で、縦位の集合沈線が施されている。この期若しくは前段階に位置付けられると思われる。

#### ε 中期 6 段階

SP-087・094・277等が該当するが、いずれも小片であり図化提示するまでの遺物は見られなかった。

#### ζ 中期 7 段階

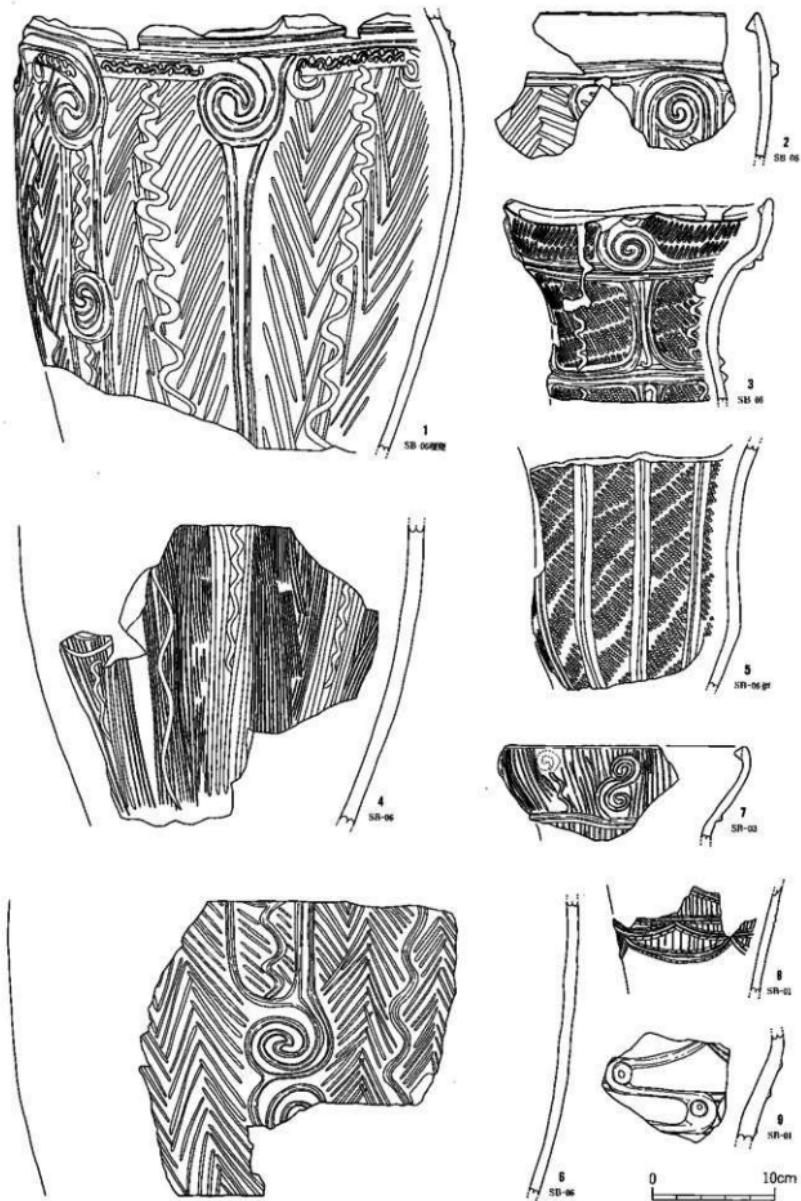
SK-032・054等がこの段階に該当するが、いずれも小片であり図化提示していない。焼町土器の第30図64・65が遺構外から出土しているが、口縁部の円形突起が上方に大きく表出されており、沈線も施文が深くなっているので、この期に併行すると思われる。

#### η 中期 8 段階

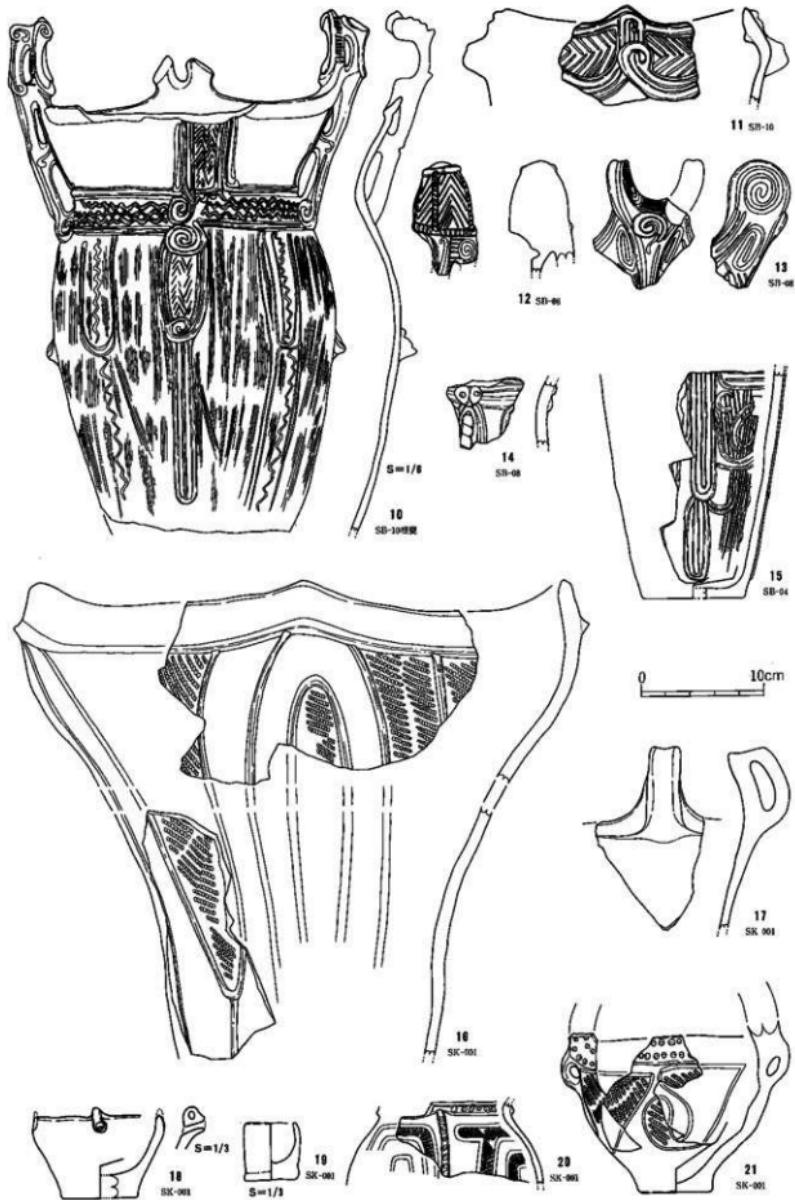
SK-023・059・061等が該当する。SK-023出土の第36図128の櫛形文が見られる破片資料のみの提示で、その他に顕著な遺物はなかった。

#### θ 中期 9 段階

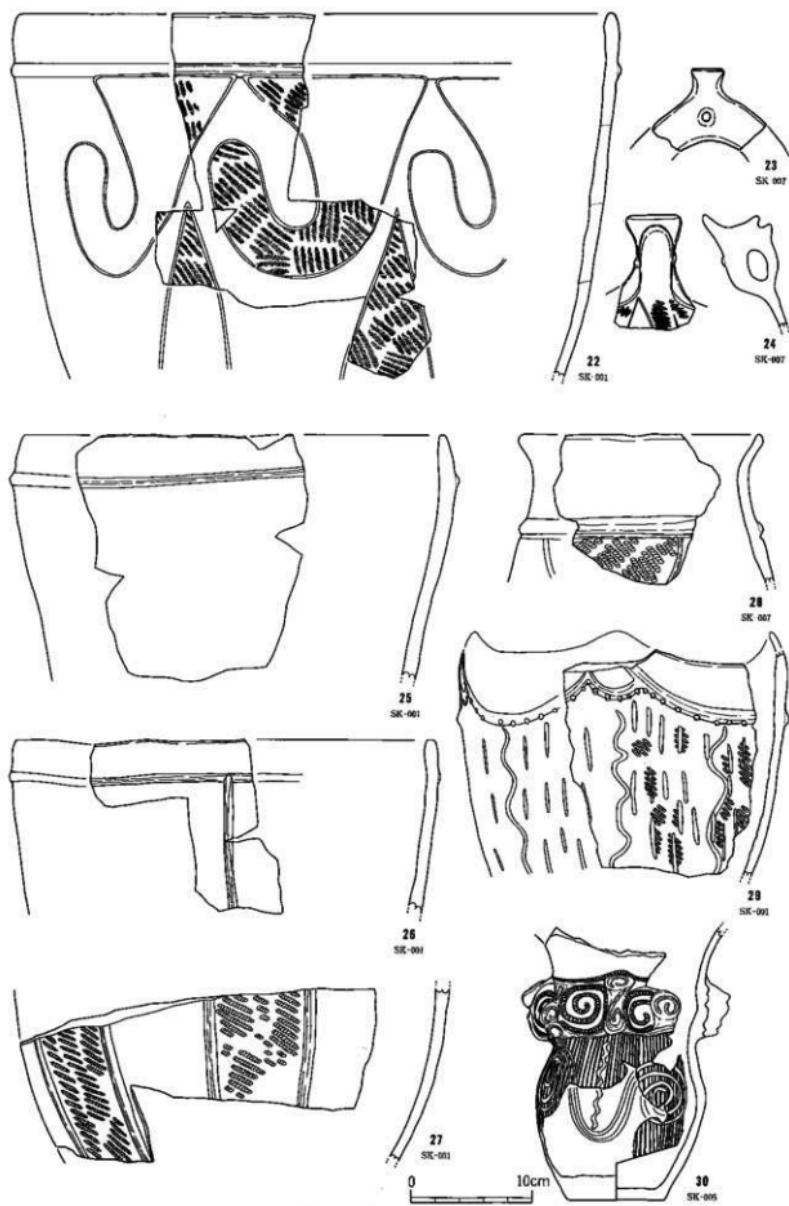
SK-063やSB-08等に加え遺構外からも出土があり、前段階までに比べ資料の量が若干増える。SK-063出土の第28図47は円筒形の器形で、口縁部は脇に角状の押し引き文を伴う隆帯により4区画され、区画内は無文である。区画同士の間は隆帯を折り返して縦位に貼付したものを正面にして、その他の3箇所は2本1単位の隆帯が縦位に垂下している。脇部には集合沈線が垂下し、粘土紐をひねったものとメガネ状の貼付文が正面に貼り付けられ、それ以外の3箇所には2本1組の隆帯を「」状に貼り付けている。第32図35や第40図222の口縁部に摺曲文が見られる資料、同226の半円弧状に区画される内部に縦位の沈線が充填される櫛形文土器の破片、縦位の集合沈線が見られる同221・223等も、この期の様相を示す土器と思われる。



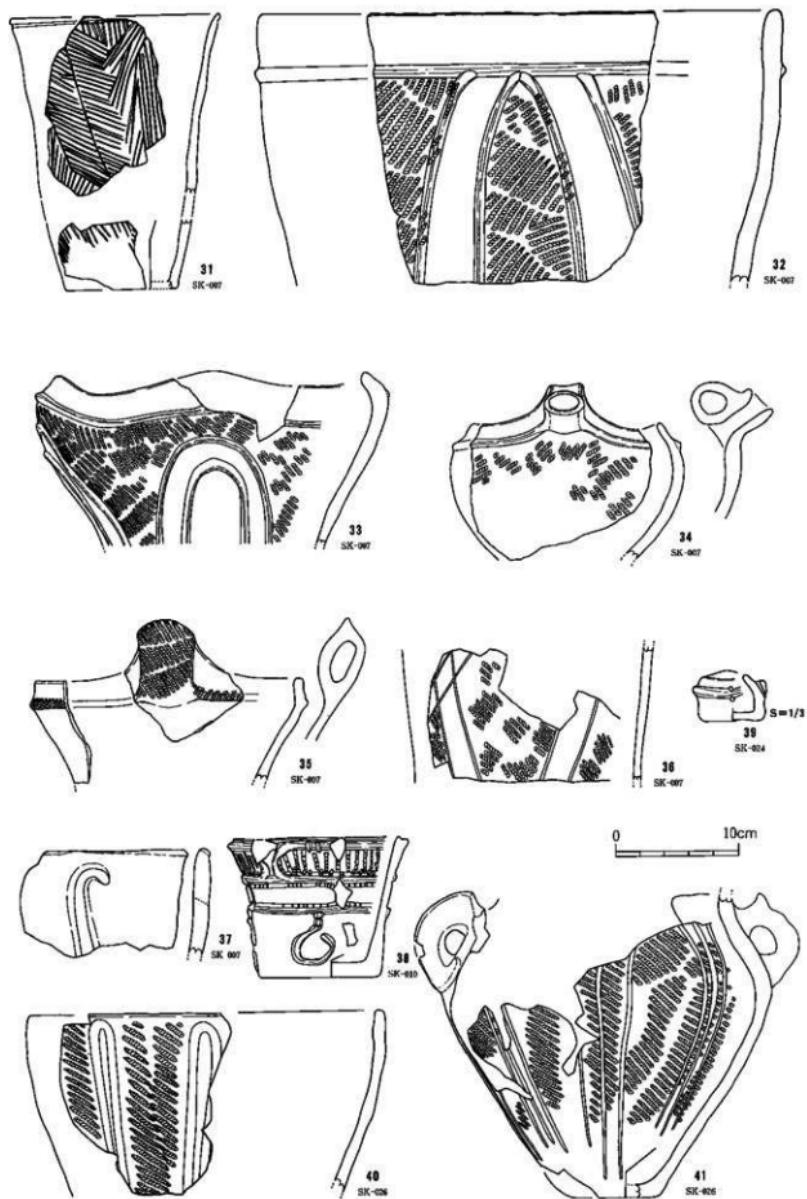
第24図 捺文土器実測図(1)



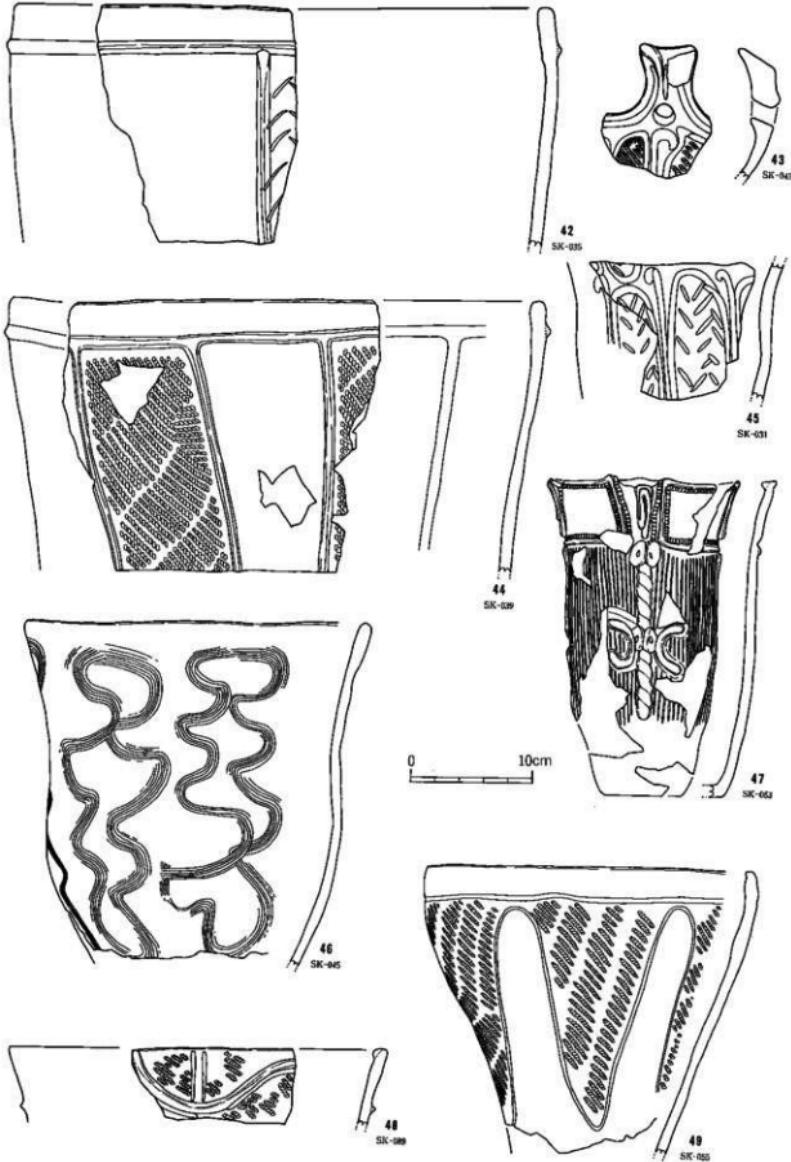
第25図 繩文土器実測図(2)



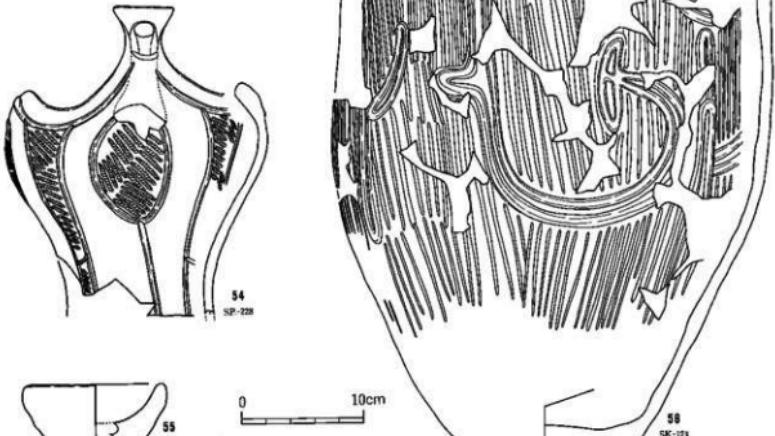
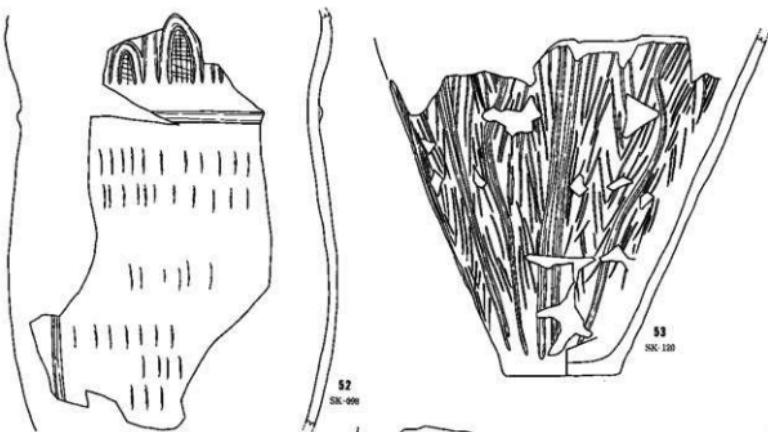
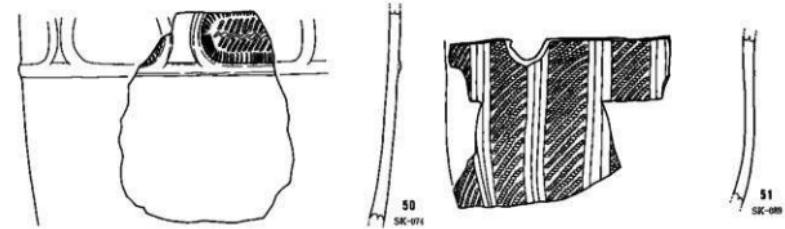
第26図 繩文土器実測図(3)



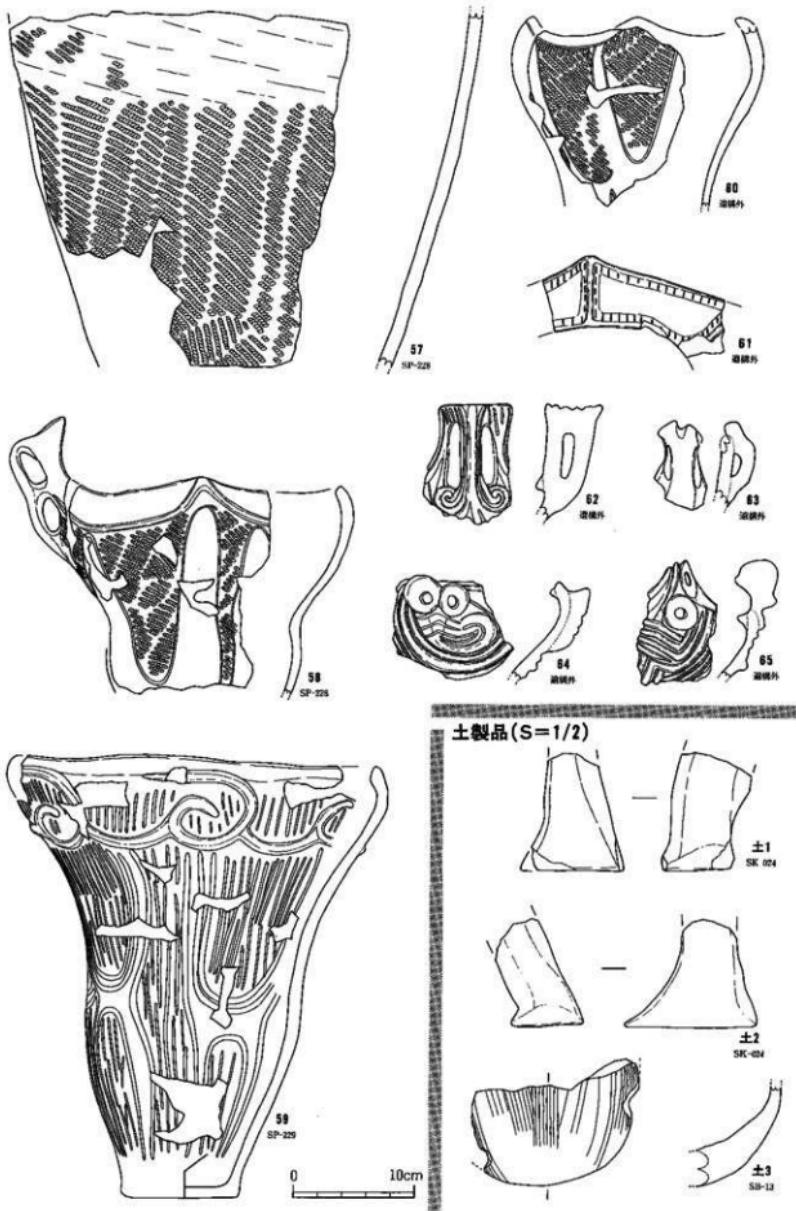
第27図 繩文土器実測図(4)



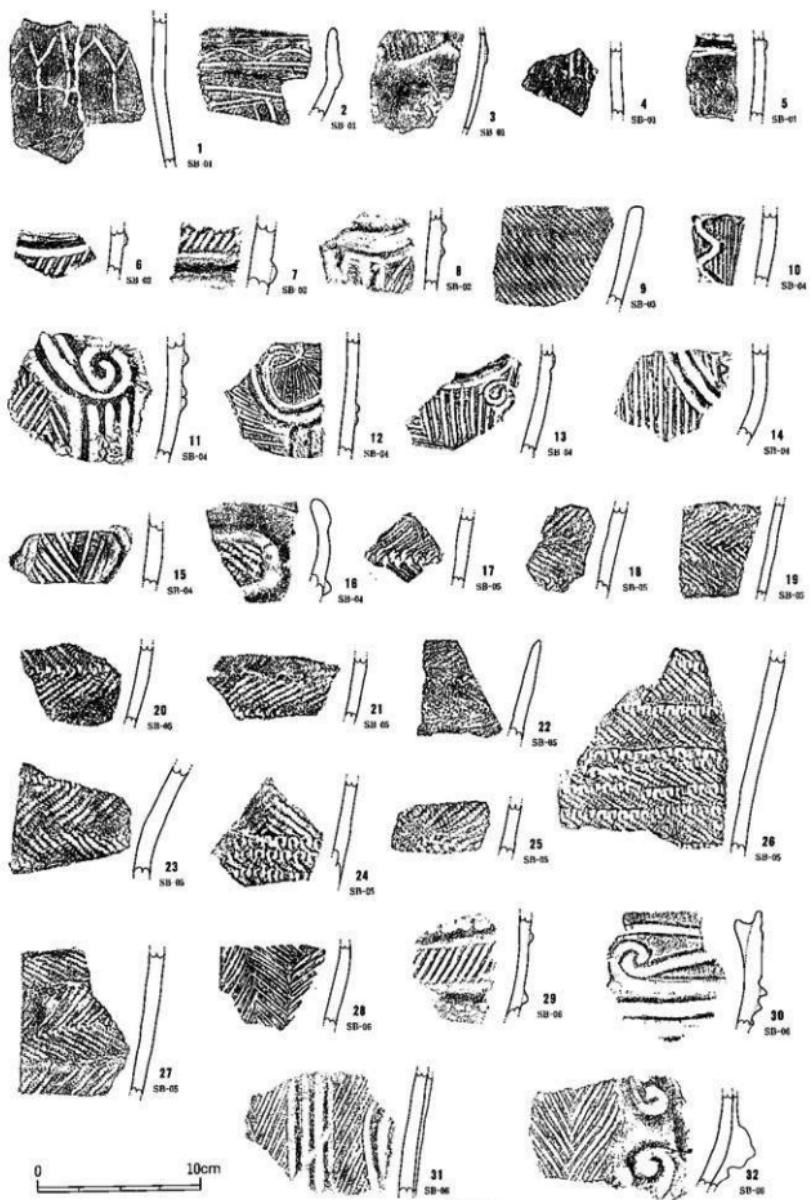
第28図 繩文土器実測図(5)



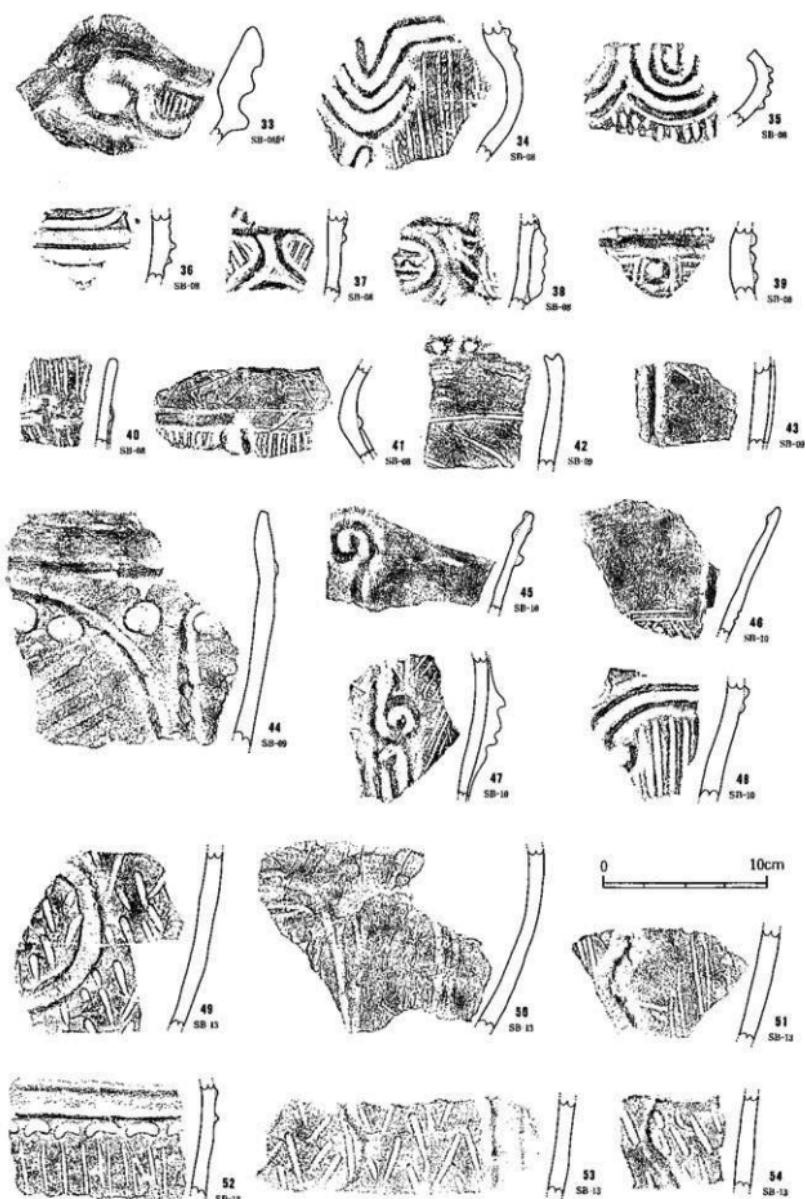
第28図 繩文土器実測図(6)



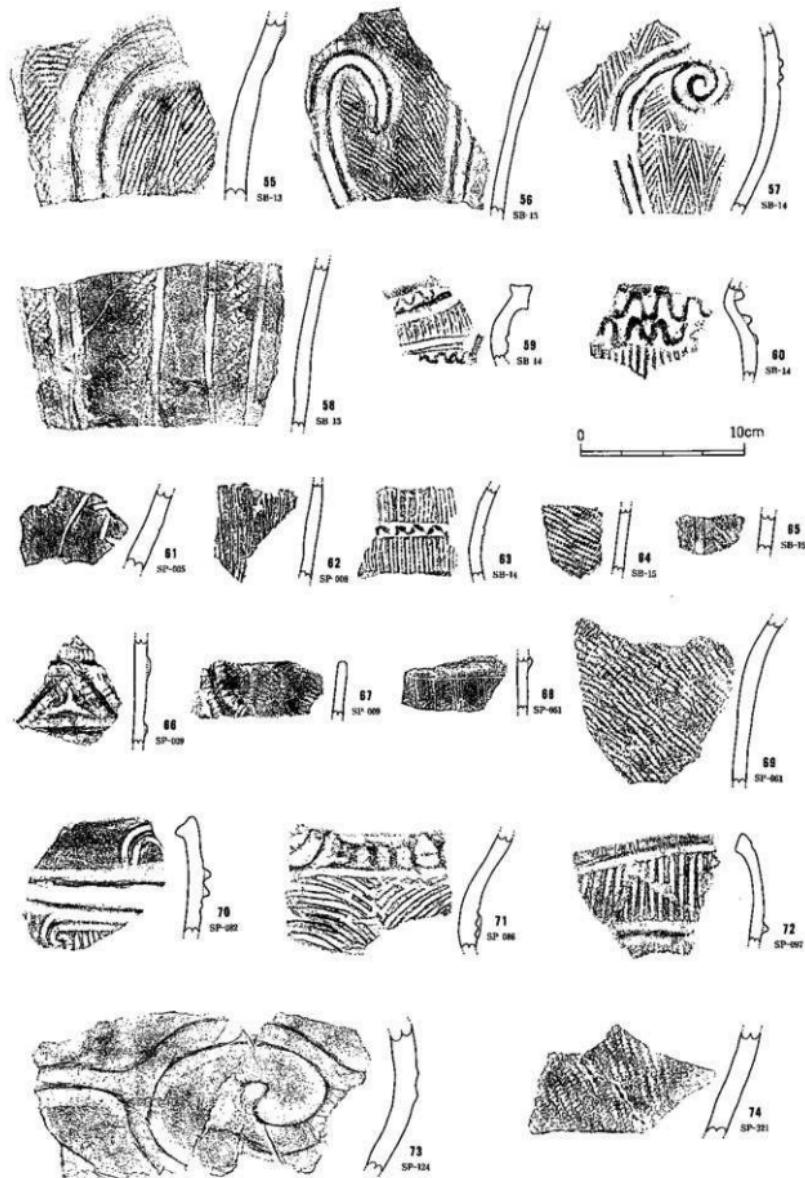
第30図 梅文土器実測図(7)・土製品



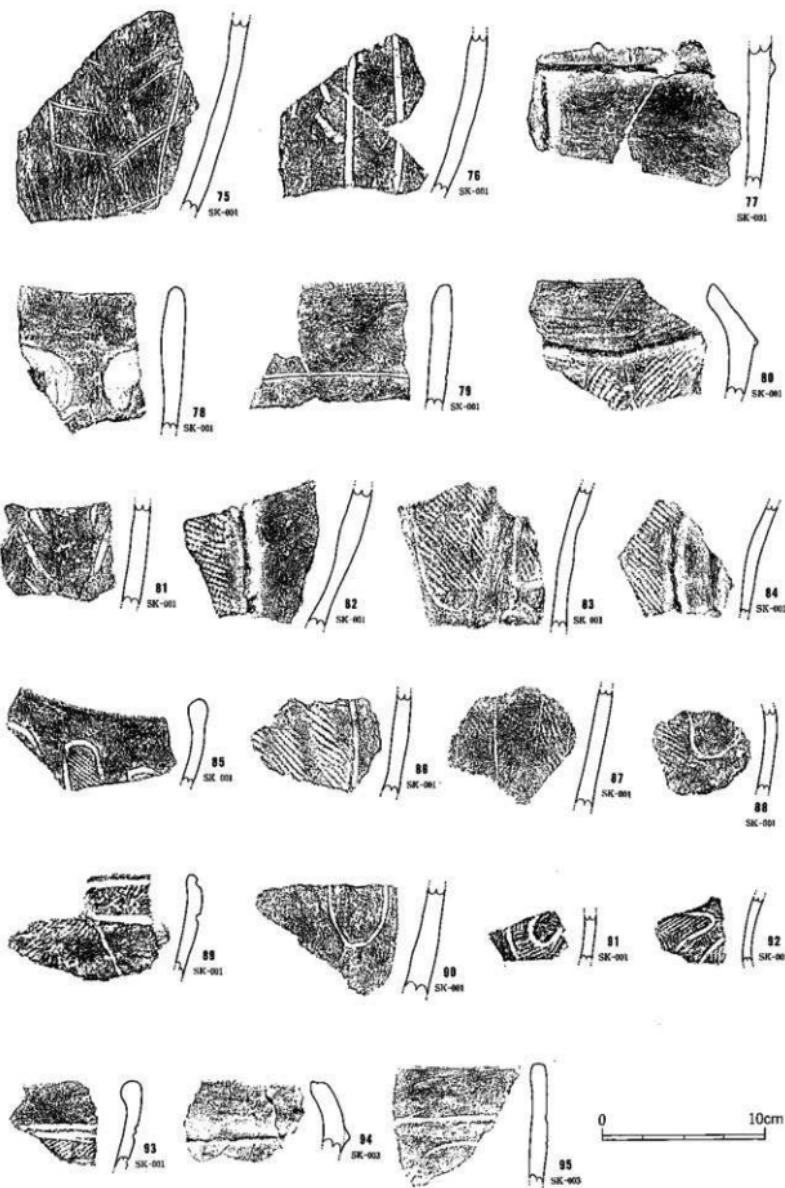
第31図 繪文土器拓影(1)



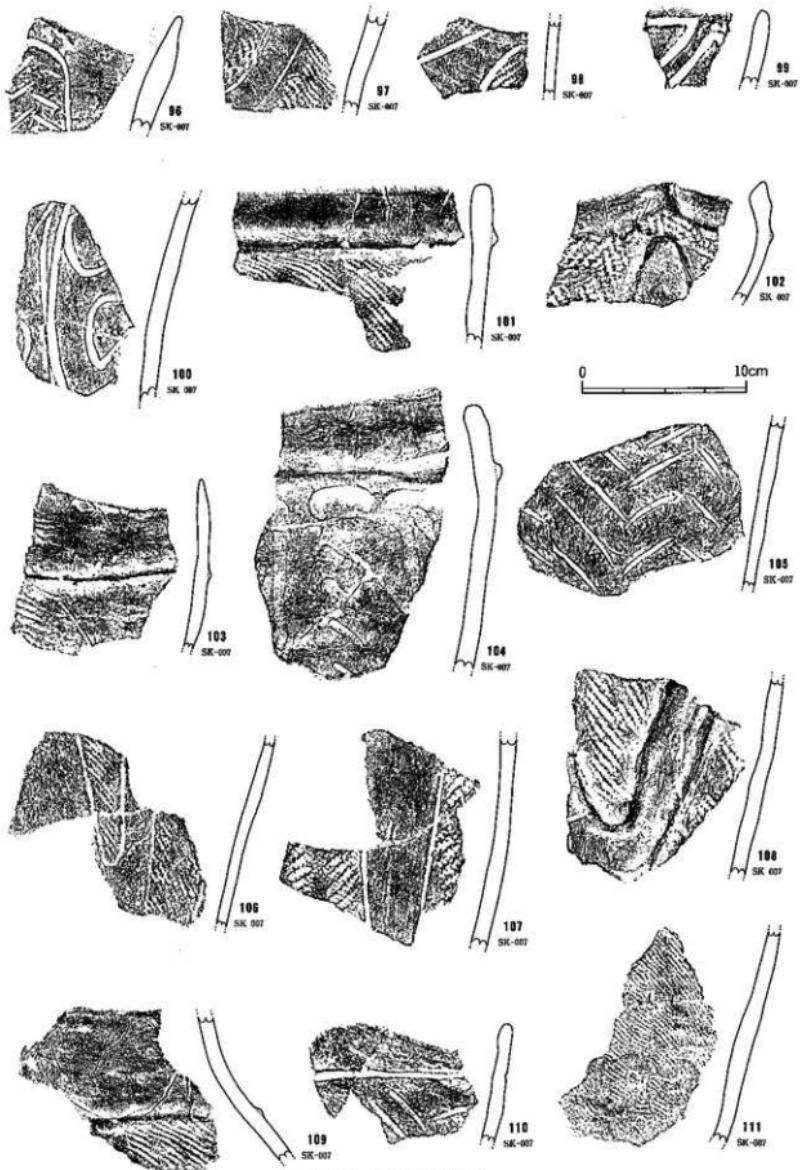
第32図 調文土器拓影(2)



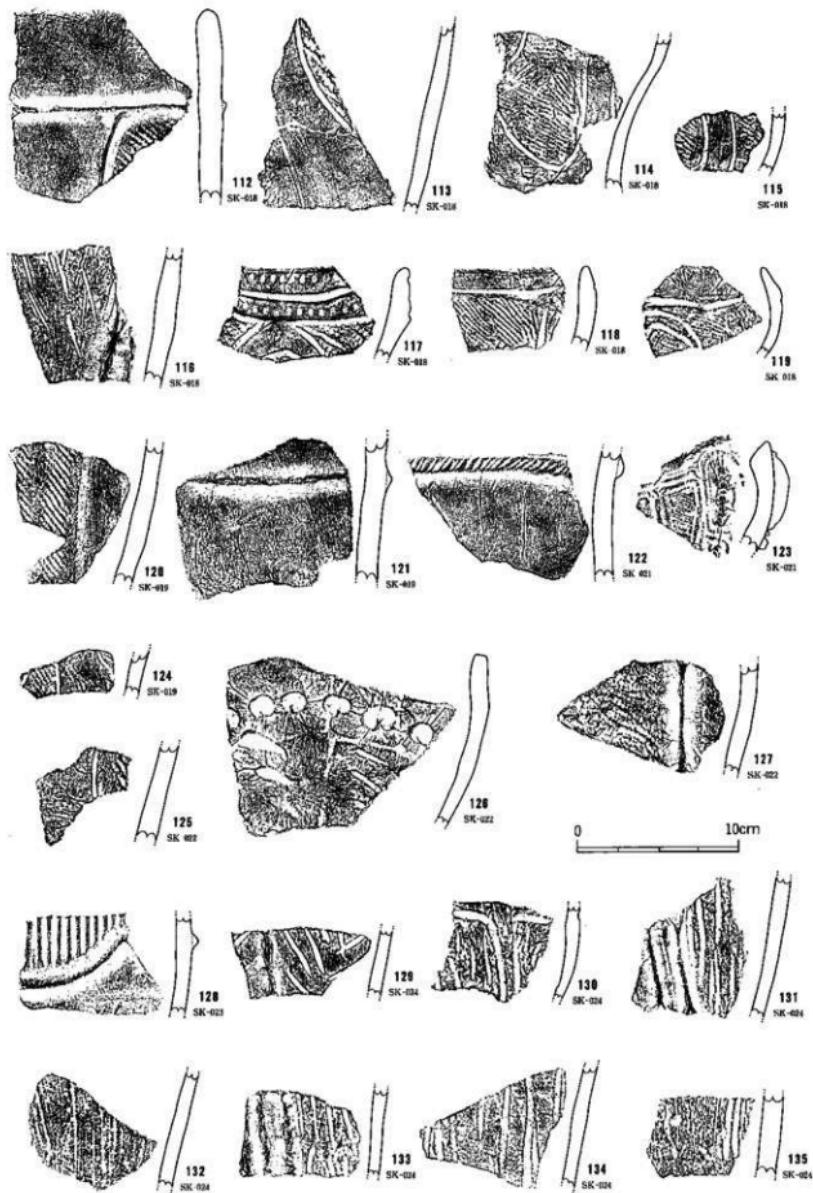
第33図 繩文土器拓影(3)



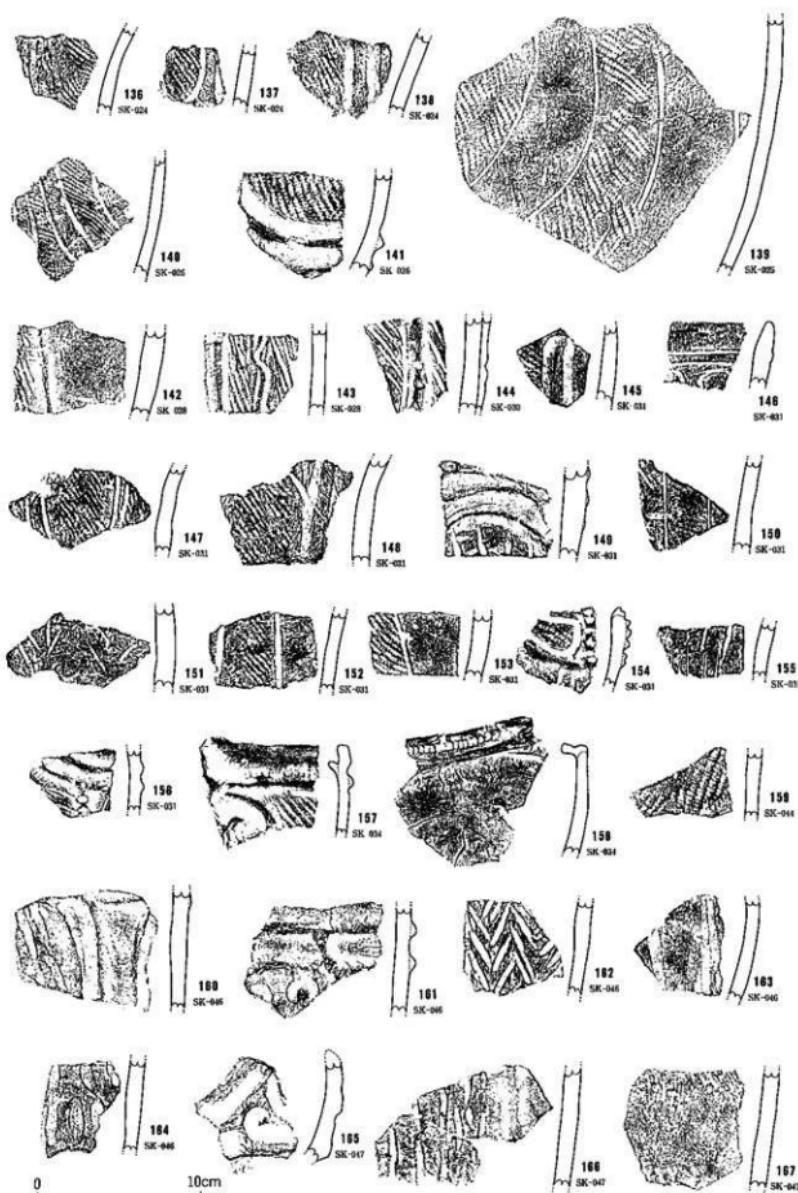
第34図 繩文土器拓影(4)



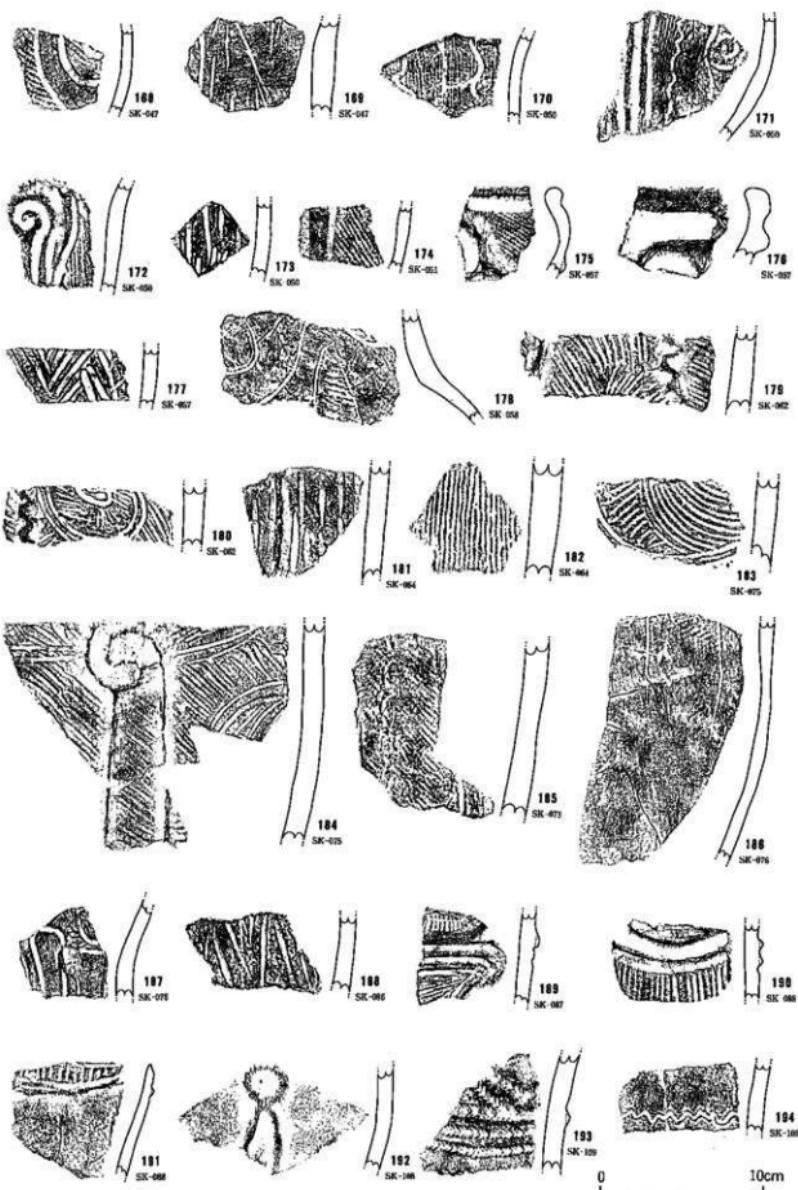
第35図 横文土器拓影(5)



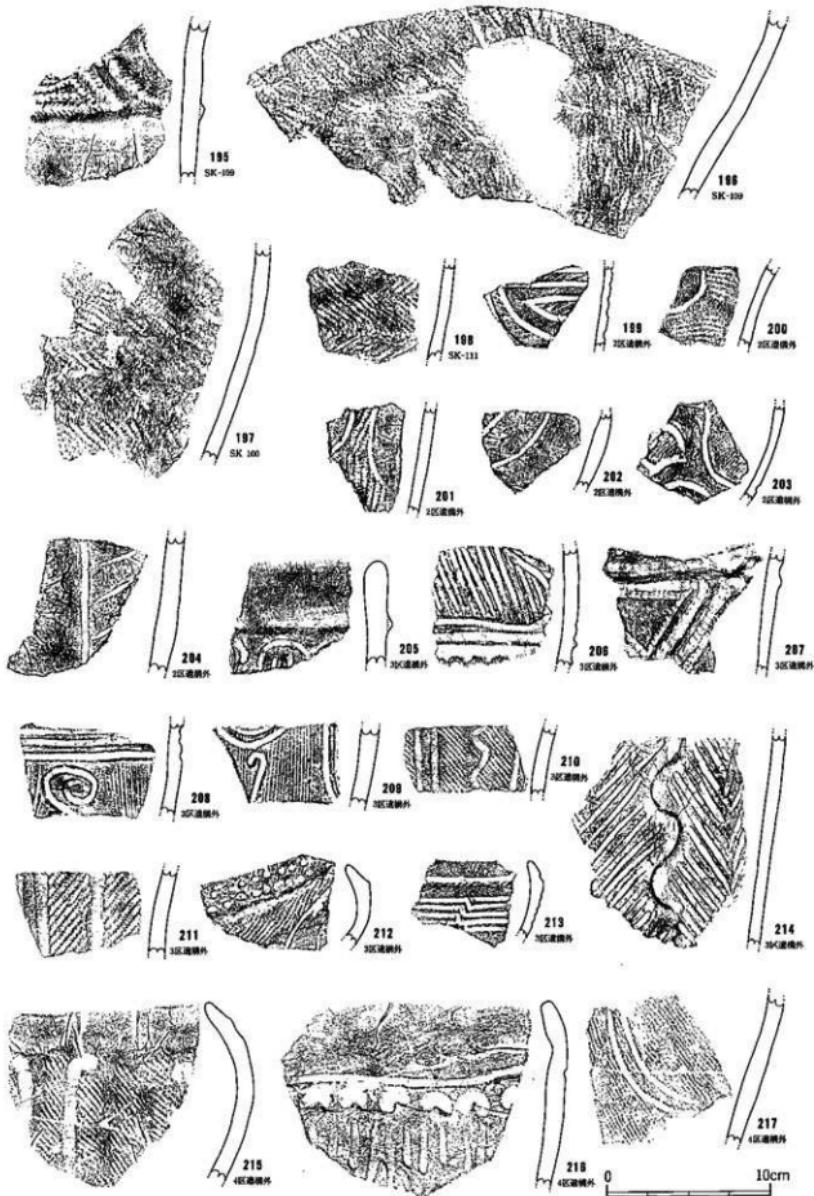
第36図 捷文土器拓影(6)



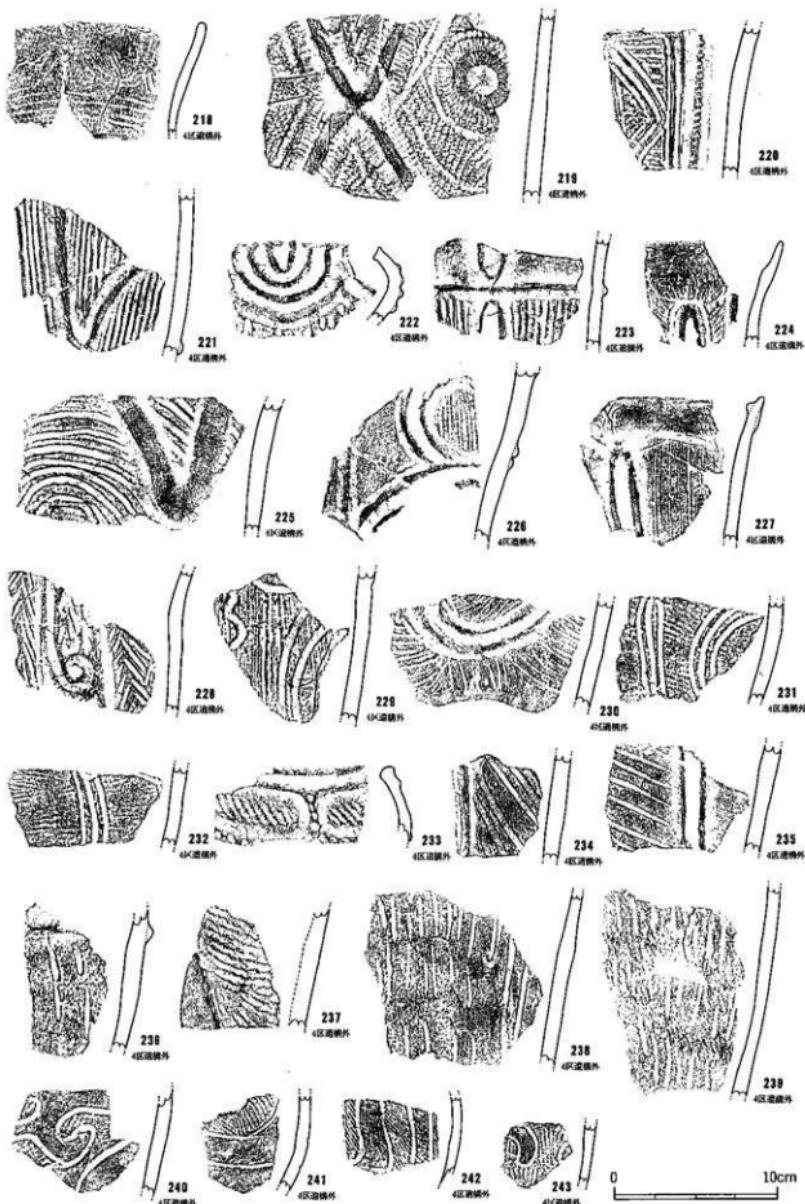
第37図 楽文土器拓影(7)



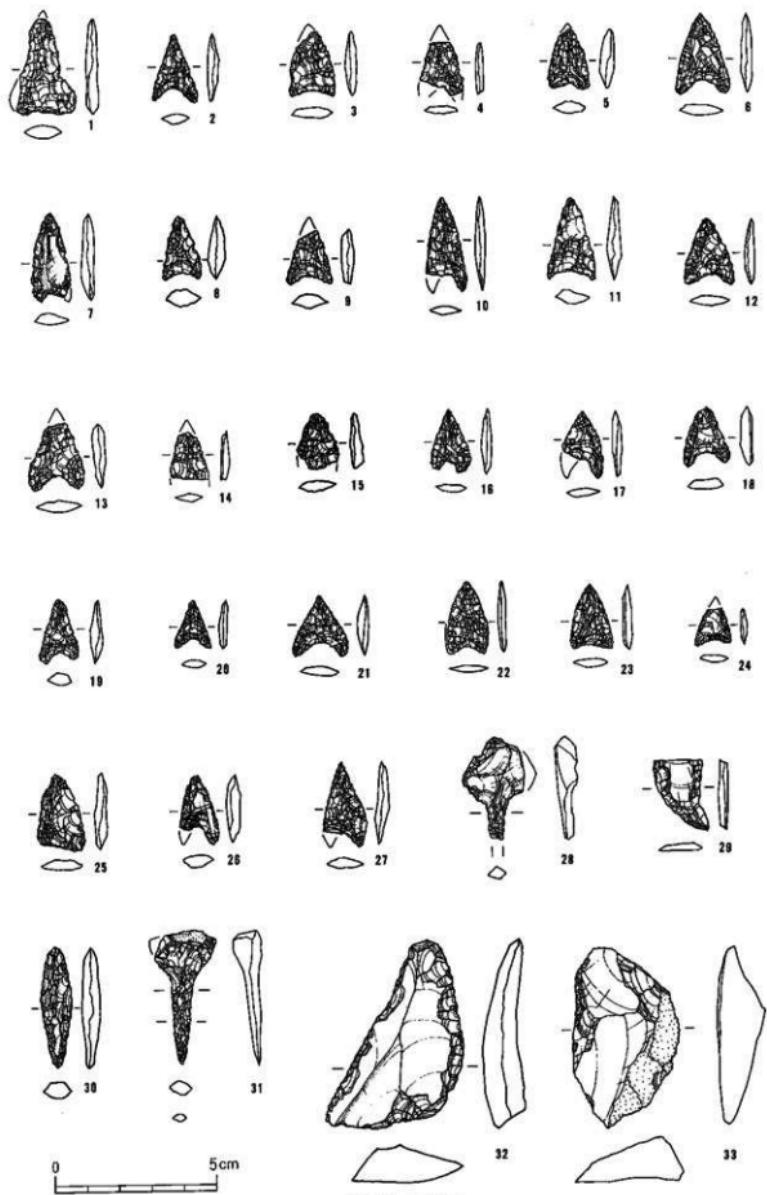
第38図 繩文土器拓影(6)



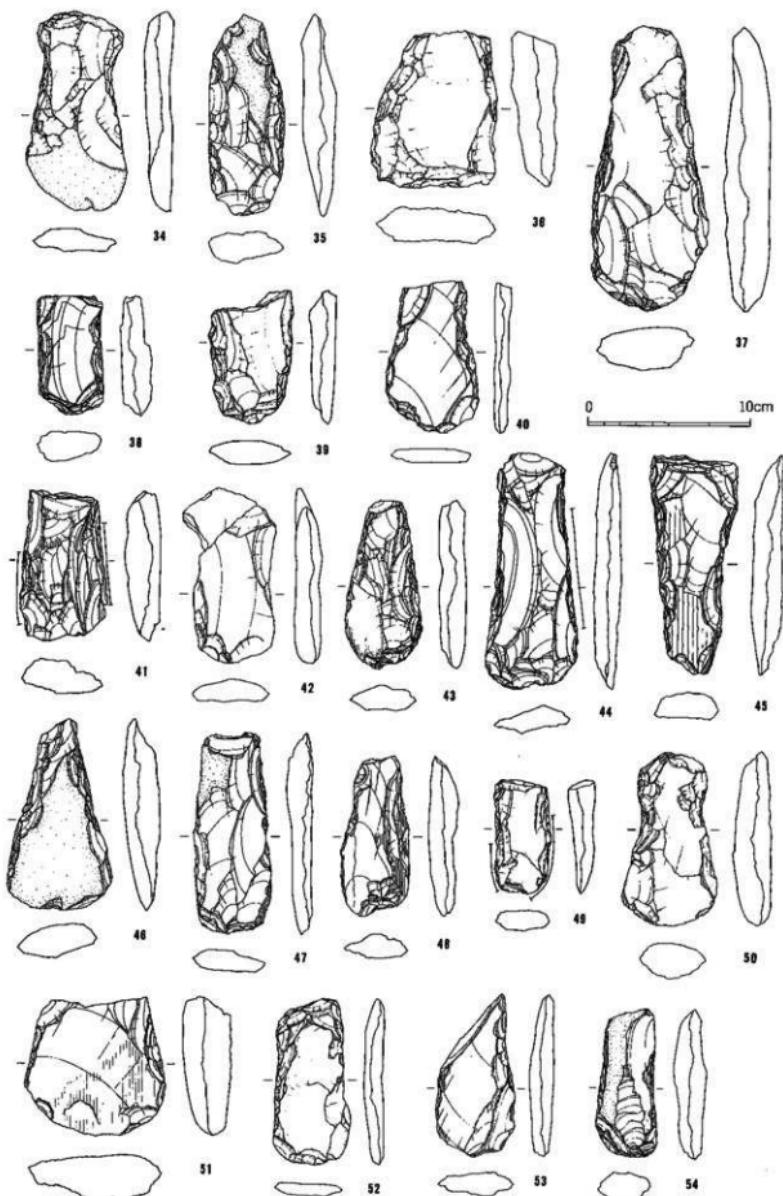
第39図 繩文土器拓影(9)



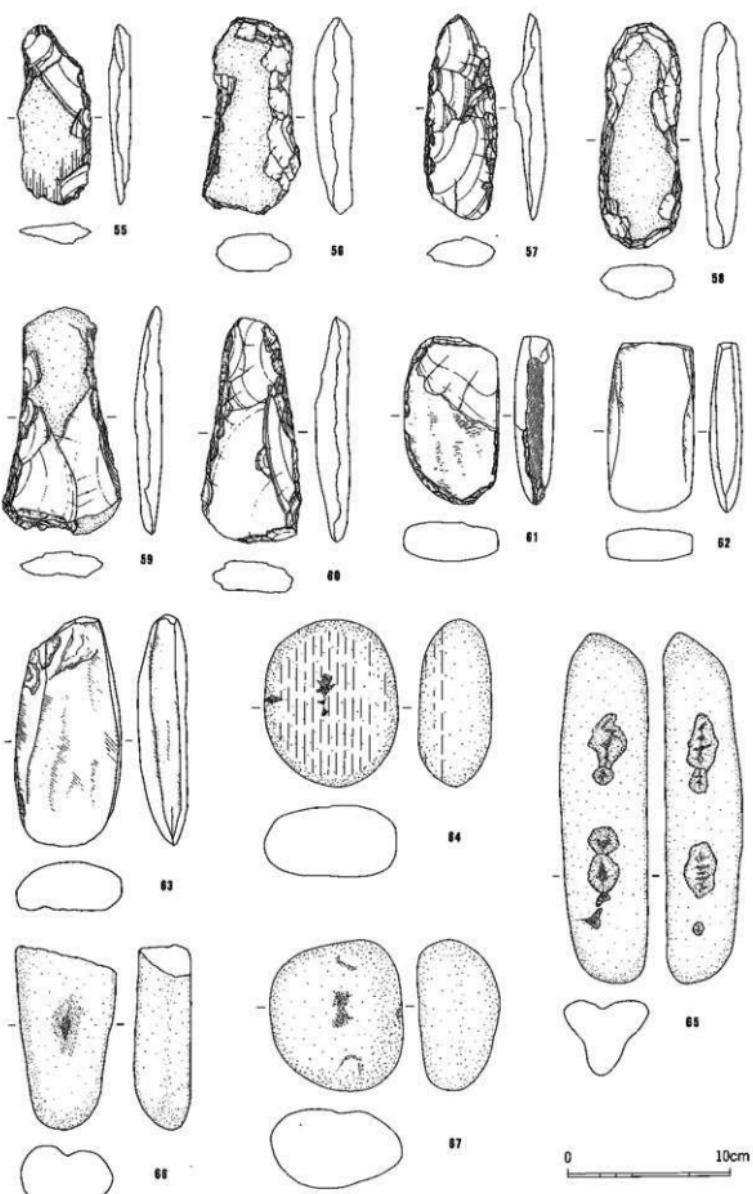
第40図 繩文土器拓影(10)



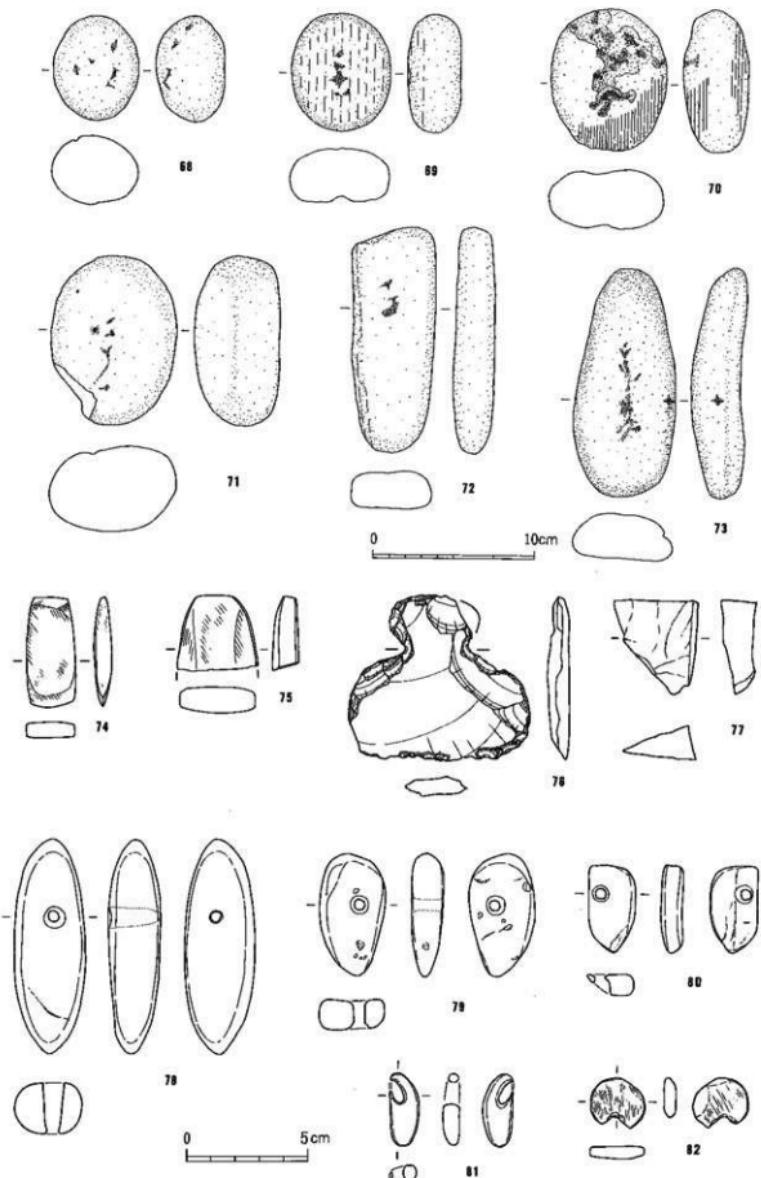
第41図 石器(1)



第42図 石器(2)



第43図 石器(3)



第44図 石器(4)・石製品

第4表 実測土器観察表

番号	出土地点	器種	色調	粘土	焼成	残存率	口径	底径	高さ	備考
1	4区 SH-06埋蔵	陶器	7.5YR4/2 深褐色	赤	良好	体部ののみ残存	—	(36.1)	—	
2	4区 SB-06	陶器	SYR4/2 黄褐色	赤	良好	口縁部～体部上半1/2残存	—	(12.4)	—	
3	4区 SB-06	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部残存	21.6	—	(16.4)	
4	4区 SB-06	陶器	10YR6/4 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部残存	—	(34.7)	—	
5	4区 SB-06	陶器	SYR4/4 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部残存	—	(30.1)	—	
6	4区 SB-06	陶器	10YR5/2 黄褐色	赤	良好	口縁部～体部残存	—	(24.3)	—	
7	2区 SB-03	陶器	10YR5/2 黄褐色	赤	良好	口縁部～体部残存	(19.6)	(7.8)	(9.8)	
8	2区 SB-03	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部残存	—	(8.9)	—	
9	2区 SB-03	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部残存	—	(8.9)	—	
10	4区 SB-16埋	陶器	10YR4/2 深褐色	赤	良好	底部～体部1/4～口縁部一部を欠損	25.3	—	(63.9)	
11	4区 SB-16	陶器	7.5YR4/2 深褐色	赤	良好	底部～体部1/4～口縁部一部を欠損	(19.5)	—	(6.1)	
12	4区 SB-06	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	手ののみ残存	—	(9.2)	—	
13	4区 SB-06	陶器	10YR5/2 深褐色	赤	良好	手ののみ残存	—	(10.6)	—	
14	4区 SB-06	陶器	10YR5/2 深褐色	赤	良好	手ののみ残存	—	(6.1)	—	
15	2区 SK-04	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	底部～体部1/2残存	(5.0)	(18.6)	—	
16	2区 SK-04	陶器	10YR5/2 深褐色	赤	良好	口縁部～体部1/4～1/2残存	(4.0)	<39.1>	断面が復元して実測	
17	2区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	手ののみ残存	—	(15.9)	—	
18	2区 SK-04	ミニチュア	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	手ののみ残存	(7.4)	(4.4)	5.5	
19	2区 SK-04	ミニチュア	SYR5/2 にれ茶	赤	良好	1/3残存	3.0	3.1	3.5	
20	2区 SK-04	ミニチュア	10YR5/2 深褐色	赤	良好	粗粒灰	—	(6.6)	—	
21	2区 SK-04	約手土器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	手の欠損、以下1/2残存	13.4	5.6	(13.3)	
22	2区 SK-04	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部1/6残存	(46.1)	—	(30.0)	体部の断面識別は単純L
23	2区 SK-04	約手土器	SYR5/2 にれ茶	赤	良好	手の上部～体部ののみ残存	—	(6.7)	—	
24	2区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	手の上部～体部ののみ残存	—	(9.3)	—	
25	2区 SK-04	陶器	7.5YR4/2 棕	赤	良好	手の上部～体部ののみ残存	(34.4)	—	(20.2)	
26	2区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部上1/2残存	(34.2)	—	(14.3)	体部外側には無文で調査無い
27	2区 SK-04	陶器	7.5YR4/2 色	赤	良好	手の下部～1/4欠損	—	(13.9)	—	
28	2区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部上半1/2残存	(19.2)	—	(12.3)	
29	2区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部1/2残存	(24.4)	—	(16.6)	内面に深いイタケ痕が残る
30	2区 SK-04	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	手の上部～体部ののみ残存	—	7.8	(22.4)	
31	2区 SK-04	陶器	7.5YR4/2 深褐色	赤	良好	口縁部～体部1/2残存	(15.8)	(3.8)	<22.4> 断面が復元して実測	
32	2区 SK-04	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	手の上部～体部1/2残存	(4.0)	—	(22.2)	同一削除と思われる破片案にあり
33	2区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部ののみ残存	25.1	—	(44.1)	
34	2区 SK-04	手口土器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部上1/2残存	(15.3)	—	(14.5)	
35	2区 SK-04	手口土器	2.5YR4/2 黄褐色	赤	良好	口縁部～体部上半1/2残存	(21.9)	—	(13.3)	LJ縦には波状線の可能性あり
36	2区 SK-04	手口土器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部ののみ残存	—	(10.9)	—	
37	2区 SK-04	手口土器	10YR6/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部上1/2残存	—	(6.7)	—	疊合する無字伏文様
38	2区 SK-04	手口土器	2.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	手の上部～体部ののみ残存	13.5	9.4	11.4	
39	4区 SK-04	ミニチュア	10YR7/2 にれ茶	赤	良好	手の上部～体部ののみ残存	(28.5)	—	(14.8)	有乳頭付土器
40	4区 SK-04	陶器	10YR5/2 深褐色	赤	良好	口縁部～体部1/6残存	(28.5)	—	(14.8)	
41	4区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	手の上部～体部ののみ残存	(7.4)	—	(24.9)	
42	3区 SK-03	陶器	2.5YR4/2 底厚	赤	良好	口縁部～体部上半1/2残存	(43.6)	—	(19.7)	
43	3区 SK-04	陶器	10YR6/2 にれ茶	赤	良好	手の上部～1/2欠損	—	(10.9)	—	
44	3区 SK-04	陶器	7.5YR4/2 底厚	赤	良好	口縁部～体部1/2残存	(43.0)	—	(22.3)	
45	4区 SK-04	陶器	2.5YR4/2 底厚	赤	良好	手の上部～1/2欠損	—	(11.2)	—	
46	5区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	口縁部～体部下半3/4残存	27.7	—	(28.2)	
47	5区 SK-04	陶器	10YR6/2 にれ茶	赤	良好	手の上部～体部の一部	15.3	6.5	26.2	
48	5区 SK-04	陶器	7.5YR4/2 底厚	赤	良好	口縁部～体部1/2残存	(30.8)	—	(16.2)	
49	5区 SK-05	陶器	7.5YR4/2 深褐色	赤	良好	口縁部～体部1/2残存	26.4	—	(23.5)	盤に平置された焼成跡に軽用
50	5区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	体部1/2 残存	—	(17.3)	—	
51	5区 SK-04	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	体部1/2 残存	—	(13.8)	—	
52	1区 SK-04	陶器	SYR4/2 黄褐色	赤	良好	手の上部～1/2残存	—	(34.1)	体部外側に明瞭な指壓痕に成	
53	2区 SK-10	陶器	7.5YR4/2 他	赤	良好	手の上部～把手の上部のみ残存	—	9.2	(27.5)	
54	4区 SP-23	陶器	10YR5/2 にれ茶	赤	良好	直面部～把手～一部口縁部～全体1/3欠損	17.4	—	(28.6)	
55	4区 SP-07	ミニチュア	2.5YR2/2 深褐色	赤	良好	口縁部～把手～一部	(8.0)	(4.9)	3.8	
56	4区 SK-12	陶器	SYR4/2 黄褐色	赤	良好	口縁部～底部～全体の一部欠損	—	14.6	(41.6)	
57	4区 SP-22	陶器	10YR5/2 深褐色	赤	良好	把手～1/4残存	—	(29.2)	—	体部と手口部文様接続(タグ)
58	4区 SP-22	陶器	10YR4/2 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	(21.5)	—	(22.6)	
59	4区 SP-22	陶器	10YR4/2 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	(39.6)	9.4	36.5	
60	4区 道端外	陶器	7.5YR4/2 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	—	(14.7)	—	
61	3区 道端外	約手土器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	約手土上部のみ残存	—	—	—	
62	4区 道端外	陶器	7.5YR4/2 底厚	赤	良好	把手～1/2 残存	—	—	—	
63	4区 道端外	陶器	7.5YR4/2 底厚	赤	良好	把手～1/2 残存	—	—	—	
64	4区 道端外	陶器	7.5YR4/2 底厚	赤	良好	口縁部～1/2 残存	—	—	—	
65	4区 道端外	陶器	7.5YR4/2 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	—	—	—	
半1	4区 SB-07	陶器	2.5YR4/2 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	(16.8)	(9.6)	6.3	灰地
半2	4区 SB-07	陶器	2.5YR4/2 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	(15.1)	(7.2)	5.9	灰地
半3	4区 SB-07	陶器	10YR5/2/1 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	14.3	7.0	6.5	灰地
半4	4区 SB-07	陶器	7.5YR4/2 底厚	赤	良好	把手～1/2 残存	(31.4)	(7.1)	2.5	灰地
半5	4区 SB-07	陶器	10YR5/2/1 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	(15.0)	—	(3.5)	灰地
半6	4区 SB-07	陶器	7.5YR4/2 底厚	赤	良好	把手～1/2 残存	(17.8)	—	(4.6)	灰地
半7	4区 SB-07	陶器	10YR5/2/1 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	13.4	5.8	4.4	土の表面
半8	4区 SB-07	陶器	2.5YR4/2 深褐色	赤	良好	把手～1/2 残存	(33.9)	6.0	4.1	上の場
半9	4区 SB-07	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	把手～1/2 残存	10.6	5.2	3.1	土の表面
半10	4区 SB-07	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	把手～1/2 残存	(9.5)	4.0	2.3	土の表面
半11	4区 SB-07	陶器	7.5YR4/2 にれ茶	赤	良好	把手～1/2 残存	(7.2)	(3.2)	1.6	灰色
半12	4区 SB-07	陶器	7.5YR4/2 底厚	赤	良好	把手～1/2 残存	5.4	(1.5)	1.5	灰色
半13	4区 SB-07	広口瓶	2.5YR4/2 底厚	赤	粗粒良	把手～1/2 残存	—	<22.0> 灰地	—	

()：復元品 &lt;&gt;：推定値 単位：cm

第5表 石製造物観察表

番号	出土沿岸	名目	長さ(+)	幅(+)	厚さ(+)	重さ(+)	材質	文様成因	備考
1	SB-06	石盤	(2.9)	(1.7)	0.4	1.6	黒曜石	一部欠損	
2	SB-05	石盤	2.1	1.3	0.3	0.5	黒曜石	完形	
3	SB-07	石盤	(2.0)	1.4	0.3	0.8	黒曜石	一部欠損	
4	SB-08	石盤	(1.6)	(1.3)	0.3	0.5	黒曜石	半圓以上	
5	SB-12	石盤	(1.8)	1.3	0.5	0.9	チャート	一部欠損	
6	SB-13	石盤	2.5	1.6	0.3	1.1	チャート	完形	
7	SK-15	石盤	2.1	(1.3)	0.4	0.9	チャート	一部欠損	
8	SK-038	石盤	2.9	1.8	0.5	0.9	チャート	完形	
9	SK-099	石盤	(1.6)	1.4	0.6	0.7	チャート	一部欠損	
10	SK-024	石盤	2.9	(1.2)	0.3	0.7	黒曜石	一部欠損	
11	SK-022	石盤	2.5	1.6	0.4	1.2	チャート	完形	
12	SK-045	石盤	2.0	1.5	0.3	0.6	黒曜石	光沢	
13	SK-050	石盤	(2.0)	1.7	0.4	1.1	黒曜石	一部欠損	
14	SK-068	石盤	(1.6)	1.2	0.3	0.4	黒曜石	半圓以上	
15	SK-096	石盤	(1.7)	(1.3)	0.4	0.7	黒曜石	半圓	
16	SP-061	石盤	1.9	1.2	0.3	0.6	チャート	完形	
17	SK遠隔外	石盤	2.0	(1.3)	0.3	0.5	黒曜石	一部欠損	
18	SK遠隔外	石盤	1.8	1.4	0.4	0.8	黒曜石	輪郭形	
19	SK遠隔外	石盤	1.9	1.2	0.4	0.5	黒曜石	光沢	
20	4K遠隔外	石盤	1.5	1.1	0.3	0.3	黒曜石	完形	
21	4K遠隔外	石盤	1.6	1.7	0.5	0.6	黒曜石	完形	
22	4K遠隔外	石盤	2.2	(1.3)	0.3	0.6	黒曜石	輪郭形	
23	4K遠隔外	石盤	2.0	1.3	0.3	0.7	チャート	完形	
24	4K遠隔外	石盤	(1.1)	1.1	0.2	0.3	チャート	一部欠損	
25	4K遠隔外	石盤	(2.0)	1.4	0.3	1.2	黒曜石	一部欠損	
26	4K遠隔外	石盤	2.1	(1.2)	0.4	0.7	黒曜石	一部欠損	
27	4K遠隔外	石盤	2.5	1.4	0.4	0.8	黒曜石	一部欠損	
28	4K遠隔外	石盤	4.1	1.9	0.9	3.4	チャート	輪郭形	
29	4K遠隔外	石盤	(2.1)	1.5	0.3	1.1	石英	半圓	
30	SK-011	石盤	3.6	1.0	0.6	1.8	チャート	完形	
31	SK-054	石盤	(3.1)	(1.3)	0.7	3.5	チャート	半圓	
32	SK-055	石盤	3.6	4.3	1.5	21.6	チャート	半圓	
33	SK-059	石盤	3.3	6.5	1.3	39.5	チャート	半圓	
34	SB-02	打製石斧	12.3	6.2	1.7	122.3	打製成形	完形	
35	SB-07	打製石斧	12.4	6.6	3.1	124.8	砂岩	輪郭形	
36	SB-07	打製石斧	(9.6)	7.7	2.6	246	砂岩	半圓	
37	SK-001	打製石斧	17.6	7.3	2.8	406	砂岩砂砾岩	完形	
38	SB-09	打製石斧	(7.3)	3.9	1.9	85.1	千枚岩	半圓	瀬川流域から?
39	2K遠隔外	打製石斧	(8.2)	5.2	1.7	77.6	砂岩砂砾岩	半圓	
40	SB-16	打製石斧	(9.4)	5.7	1.6	67.4	砂岩砂砾岩	半圓	
41	SK-001	打製石斧	(9.3)	5.4	2.2	122.4	砂岩砂砾岩	半圓以上	
42	SB-16	打製石斧	(10.6)	5.0	1.8	97.7	砂岩砂砾岩	一部欠損	瀬川流域から?
43	SK-007	打製石斧	9.9	4.7	1.7	89.7	千枚岩	完形	瀬川流域から?
44	SP-332	打製石斧	14.6	5.6	1.6	130.7	砂岩砂砾岩	完形	
45	SK-031	打製石斧	13.6	5.4	1.8	155.5	砂岩砂砾岩	一部欠損	
46	SK-007	打製石斧	11.9	6.4	2.2	156.6	砂岩砂砾岩	輪郭形	
47	SP-089	打製石斧	12.4	4.8	1.6	166.5	砂岩砂砾岩	輪郭形	
48	SP-089	打製石斧	9.9	4.3	1.8	80.2	千枚岩	輪郭形	
49	2K遠隔外	打製石斧	(7.0)	3.5	1.7	49.6	砂岩砂砾岩	半圓	
50	2K遠隔外	打製石斧	10.7	5.8	2.3	161.1	砂岩	完形	
51	2K遠隔外	打製石斧	(8.5)	8.6	2.9	276	玄武岩成岩	半圓以上	
52	4K遠隔外	打製石斧	10.2	4.8	1.2	69.9	玄武岩成岩	輪郭形	
53	4K遠隔外	打製石斧	(10.6)	4.9	1.5	71.2	千枚岩	半圓	瀬川流域から?
54	4K遠隔外	打製石斧	9.1	3.8	2.0	79.1	千枚岩	輪郭形	
55	4K遠隔外	打製石斧	11.0	4.5	1.3	66.7	千枚岩	一部欠損	
56	4K遠隔外	打製石斧	(12.3)	6.0	2.4	121.1	千枚岩	一部欠損	
57	4K遠隔外	打製石斧	12.6	4.5	2.0	109.7	千枚岩	一部欠損	
58	4K遠隔外	打製石斧	14.0	5.1	2.5	246	砂岩砂砾岩	完形	
59	4K遠隔外	打製石斧	14.1	7.3	1.7	159.6	砂岩砂砾岩	完形	
60	4K遠隔外	打製石斧	14.0	6.1	2.0	160.6	砂岩砂砾岩	完形	
61	4K遠隔外	打製石斧	(10.4)	5.7	3.4	358	ミクイ質	一部欠損	
62	4K遠隔外	打製石斧	10.5	5.2	2.0	264	縦溝夏	完形	
63	SB-05	打製石斧	(14.2)	6.6	3.0	444	ミクイ質	輪郭形	
64	SB-06	打製石斧	10.4	8.2	4.5	585	ミクイ質	完形	
65	SB-04	打製石斧	21.6	5.4	4.6	695	砂岩	完形	
66	SK-007	磨盤	(11.3)	6.2	3.5	330	砂岩	半圓	
67	SB-15	磨盤	9.3	8.3	5.1	468	砂岩	完形	
68	SK-007	磨盤	6.5	5.3	4.3	189.8	千枚岩	完形	
69	SP-215	磨盤	7.3	6.0	3.3	362	千枚岩	完形	
70	4K遠隔外	磨盤	8.7	7.1	3.9	365	砂岩	完形	
71	2K遠隔外	磨石	10.5	7.7	5.3	590	玄武岩	一部欠損	
72	SK-029	磨石	14.0	5.2	2.6	306	砂岩	完形	
73	3K遠隔外	磨石	14.1	6.2	2.9	386	砂岩	完形	
74	SK-031	小形磨製石斧	4.6	2.1	0.7	13.3	緑色或灰岩	完形	
75	4K遠隔外	小形磨製石斧	(3.1)	(3.2)	1.1	18.9	青苔綠色或灰岩	半圓	
76	SP-067	磨盤	6.7	7.4	0.9	42.4	高純質頁岩(風化)	完形	
77	4K遠隔外	片状	3.8	3.4	1.5	22.8	ミクイ質	定期時刻の剥片か	
78	SK-034	石製荷物品	8.8	3.0	2.0	99.8	ミクイ質	完形	磨跡
79	SK-049	石製荷物品	5.2	2.8	1.2	25.2	ミクイ質	完形	磨跡
80	SK-049	石製荷物品	3.5	1.9	0.8	16.3	ミクイ質	完形	磨跡
81	SK-069	石製荷物品	3.0	1.2	0.7	3.5	ミクイ質	一部欠損	磨跡
82	SK-050	石製荷物品	3.1	2.2	0.5	3.2	砂岩	磨跡不明	

( )付数値は残存数

#### ι 中期10段階

SB-08・10・14、SK-060・082、SP-086等がこの段階に該当する。SB-10埋甕である第25図10は、頸部までつながる1対の大型把手とその間に1対の小型把手を有し、口縁部の小型把手につながる箇所には、垂下隆帯によって区画された中に綾杉文が見られるが、それ以外の箇所は無文である。頸部には細い隆帯による波状文が3段施される頸部文様帶を有し、胸部は地文に細い条線を施し、口縁部の把手からつながる垂下腕骨文と太めの沈線による縱位区画文と垂下波状文を施す。SK-123出土の第29図56は、地文が条線文で、人体を抽象化した様な文様を隆帯で施文している。頸部の破片は接合復元できなかったが、細い粘土紐による格子目文が見られた。第33図71は頸部に格子状の隆帯が貼付され、口縁部側には大柄な重弧文が施されている。同60の頸部には2段の波状隆帯がめぐり、胸部側には集合沈線が施されており、この期若しくは前段階に位置付けられると思われる。この期からはいわゆる唐花草文系土器が見られる段階で、鋸齒文が見られる第32図38、縱に垂下する腕骨文が見られる同47や第31図11、地文に綾杉文が施される第33図57等はこの期に属すると思われる。

#### κ 中期11段階

SB-02・03・06、SK-034・044・050・089等がこの期に該当するが、SB-06出土品がまとまっている。第24図1・2・6は樽形を呈する深鉢で、口縁部は無文、頸部に文様帶を有さず、胸部には綾杉文を地文として腕骨状の縱位隆帯や垂下隆帯、太めの垂下沈線文を施文する。同4は胸部の地文に条線を施し、太めの沈線によって大柄渦巻文、垂下沈線文、垂下蛇行沈線文を施文している。同3・5は地文に繩文を施文する加曾利E式系の土器である。3は胸部が上下に分帶されていて、地文である繩文が口縁部と胸部で方向が違う。5は胸部に磨消済垂文を施して、同様な土器として第29図51がある。口縁部の隆帯による横位文様帶が見られる第37図141、第38図175・176等もあり、加曾利E II式に併行すると見て良いのだろうか。また逆構外出土ではあるが、第40図233も同じ口縁部文様帶の資料であるが、隆帯に圧痕がみられ様相を異にする。

#### λ 中期12段階

SB-15、SK-028・030・075・120、SP-229等が該当する。SK-120出土の第29図53は、胸部に2本1組の垂下する隆帯とその間を蛇行垂下する隆帯間に、乱れ気味の綾杉文を施文している。SK-030出土の第37図144も垂下隆帯と乱れ気味の細い短線文を施しているが、この隆帯には圧痕が認められる。SP-229出土の第30図59は、口縁部に横に流れた隆帯による横位文様帶を有し、胸部には横に垂下沈線を伴うU字状・逆U字状の区画が上下に向かい、地文に荒めの垂下短線文を施している。口縁部に横位文様帶があるのでこの期に位置付けた。

#### μ 中期13段階

SB-13、SK-024・031・064・086等がこの段階に該当するが、器形の全容を伺える資料は出土しなかつた。唐花草文系土器の地文である綾杉状短線文は乱れ荒くなる様で、間隔をあけて（第32図53等）いる。また第32図51・54や第36図116、第37図166等の様に、もはや綾杉状ではなく単なる短線文になったり、雨垂状短線文（第32図49・54、第40図238・239）と呼ばれるものになってくる。頸部文様帶は完全に消失し、口縁部無文帶下に隆帯を1条ないしは2条巡らせ、その直下に勾玉文を横に並べ、胸部に短線文を施すもの（第32図52、第37図161）や、逆U字状（隆帯も沈線もある）に区画した内部に勾玉文や短線文を施すもの（第28図45、第32図44、第37図160）がある。加えてにぶい沈線による逆U字状区画だけの資料（第

32図50)もあるが、後出的なものと位置付けられるのかもしれない。地文に縄文が施文される加曾利E式系の土器も多々あり、細身の逆U字状文が間隔空けて施される第27図40、垂下する沈線が見られる第33図58、先端繖手状の垂下沈線文の第39図215等はこの期に属すると思われる。なお地文が無く器面が丁寧に磨かれており、隆帯による大柄な満巻文が描かれたSP-124出土の第33図73、SK-026から出土した1対の把手を有す壺である第27図41もこの期に位置付けた。

#### ν 中期14段階

この期に該当する遺構は多くあるが、特にSK-001-007からまとまって中期最終末とも後期初頭とも判断つけ難い土器が多く出土した。唐草文系土器は前段階の傾向が更に進み、沈線が弱々しく粗雑なもの(第34図75、第35図105等)になる。器形は樽形状で、口縁部無文帯下を巡る1条の隆帯から、隆帯を垂下させ縦に分割する土器として、第26図27、第28図44が出土した。この様相の土器は縦に垂下する隆帯の間隔が狭く、垂下降帯間に施文される縄文部の広いものが古相で、隆帯の間隔が開き縄文部より無文部が広くなるにしたがい新相になるとされる。この傾向から言うと器形が同じ樽形状で縄文を施文していない第26図26(破片資料なので施文しているかもしれないが縄文部は狭いと推測される)、垂下する隆帯がなく縄文も施文していない同25(上述の可能性あり)の順に新しい様相を示すことになる。拓影での提示であるが、第34図77・82、第35図101、第36図121等も同じ様相を示す土器である。また器形は同じ樽形状で、垂下する隆帯が逆U字状である第27図32、第36図112や、垂下降帯区画内に短線文が充填されている第28図42、横に巡る隆帯下に指頭によるであろう勾玉文と先端繖手状の垂下沈線文区画内に短線文が見られる第35図104等もある。これらはいずれも中期最終末の様相を示すが、新相と考えられるものの一部は、後期にまで残存した中期の様相を示す土器と言えるのだろうか。また器形は樽形であるが、隆帯ではなく沈線によるもの(第34図79・95、第39図216等)も存在する。これら以外に加曾利EIV式に併行すると思われる土器がある。体部全体に細い沈線によりW字状・U字状、逆V字状を組み合わせた区画の磨消縄文となる第30図58・60、第34図83、第35図106等、隆帯により文様構成した第27図33、第29図54等、注口土器である第27図34、把手のみであるが第25図17、第26図24等、以上が該当すると思われる。上記以外にも縄文のみが器面に広がる第30図57、多系統の様相が混ざり合ったと考えられる第26図29が存在する。様々な様相の土器が存在していると言えよう。

#### C 後期の土器

中期末と後期初頭の境界を判断するのは難しいと既述したが、J字状の構図をとっている第25図21の釣手小型鉢形土器、無節の縄文を充填している第26図22を称名寺式と位置付けた。拓影図での掲示ではあるが第35図97、第37図139・140、第40図240～243も称名寺式になると思われる。また第34図89は、小片であるが称名寺式でも古い様相を示す窓枠状区画であるかもしれない。その他第25図20は堀之内I式、櫛齒状工具による蛇行櫛描文が垂下している第28図46も堀之内I式に位置付けられると思われる。

##### ② 石 器 (第41～44図、第5表)

今回の発掘調査で出土した石器群のうち、定型的な石器である76点を図化掲示した。その個々については石器観察表を参照いただきたい。その中で千枚岩で製作された打製石斧(第42図38・43・53、第43図56)は、新潟県姫川流域に産するものに材質が酷似するとのことで、後述のひすい製品等と共に持ち込まれた可能性がある。

##### ③ 土 製 品 (第30図 土1～3)

3点のみの出土である。土1・2は共にSK-024出土で土偶脚と思われるが、文様等なく土器の把手部とも考えられなくてはない。土3はSB-13出土の不明土製品で、土鈴もしくはミニチュア土器と考えられる。

#### ④ 石製品（第44図78～82 第5表）

ひすい製垂飾がSK-034から1点(78)、SK-049から2点(79・80)出土した。いずれも1孔が穿たれているが、孔に段差が認められる。片側から反対側へ向かって穿たれはじめ、ある程度まで達した段階で反対側から迎えて貫通させたと思われる。ひすいという岩石が鱗片状に剥がれる性質を有すため、1方向からの穿孔では、穿孔具による押圧で貫通直前に反対側が大きく剥がれ取れる虞がある。これを考慮した結果と判断される。なおSK-034出土の78は、8.8cmと大珠と呼ぶにふさわしい大きさで、出土状況が明確な出土例としては県内で3番目（第6表参照）に大きい。またSK-049からは2点出土したが、同一遺構から複数点出土したのは、塩尻市上木戸遺跡29号土壙の5点、茅野市立石遺跡穴688の3点、駒ヶ根市の場門前遺跡土壙153の3点等、あまり例がない。この他SK-060からは、一部欠損している蛇紋岩製の垂飾1点、SK-050からは表面が磨かれ抉りが入っている使途不明な石製品（何らかの未製品か）が1点出土している。

#### ⑤ ひすい原石・剝片（第44図77 写真図版11 第7表）

垂飾以外にひすいの剝片が今回の調査において出土している。調査中に縁がかった石を見つけひすいではと思われたが、岩石のことは素人であり判断することはできなかつたので、鑑定を依頼したく思い色々調べていたところ、長野県埋蔵文化財センター刊行の『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書4 一長野市内 その2 松原遺跡』報告書中に、科学的分析を実施した内容の記述があった。さっそく記述のあった新潟県糸魚川市フォッサマグナミュージアムに問い合わせたところ、快く分析を引き受けさせていただいた。同館宮島宏氏に分析及び御教示いただいた。

分析は、同館所蔵の日本電子製走査型電子顕微鏡にオックスフォード社製エネルギー分散型X線スペクトロメーターを取り付けたX線マイクロアナライザーにより、岩石構成元素の定性分析（略称：EPMA）を行った。この方法により遺物表面の鉱物が何なのか分かり、なんと呼ぶ岩石なのか判断できる。科学的に詳細な部分に関しては、筆者自身とともに理解できていないので記述せず、結果のみを記述することにしたい。

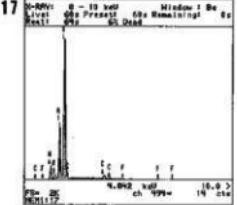
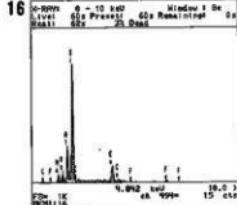
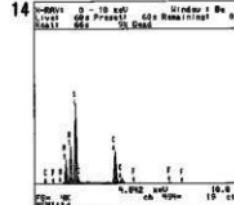
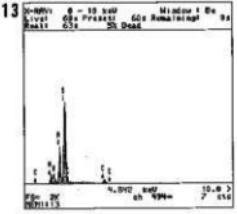
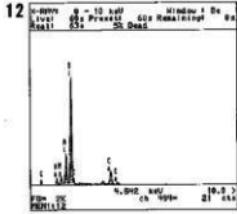
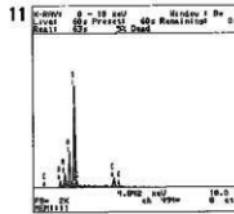
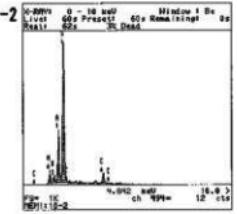
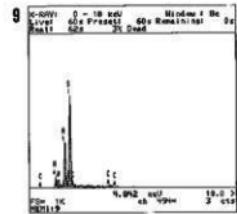
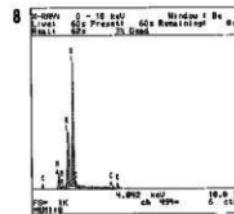
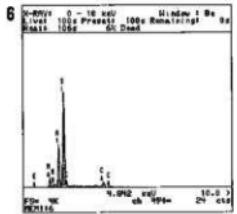
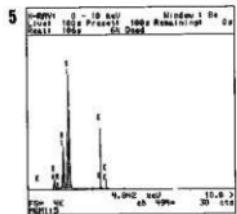
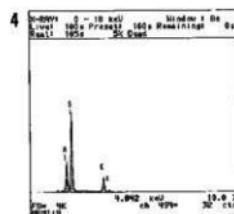
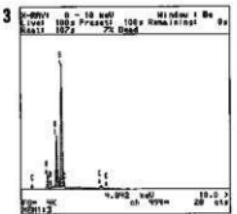
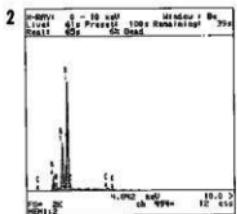
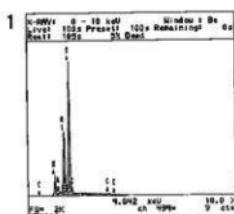
分析対象は、本調査で出土した垂飾及び剝片に加え、第1次調査報告書の出土石器一覧表中石材の欄に、「ヒスイ」と記述のある遺物も対象とした。第1次調査報告書作成の折には、諸般の事情から取り上げて記述及び考察ができなかつたので、ここで今一度取り上げることにした。

分析により得られたEPMA分析チャートを第45・46図、得られた結果から確定された岩石名および遺物の属性等を第7表に記載した。結果、第1次調査報告文中で「ヒスイ」と記述ある原石・剝片20点中16点が、本調査でひすいと思われた剝片1点がひすいと確認された。

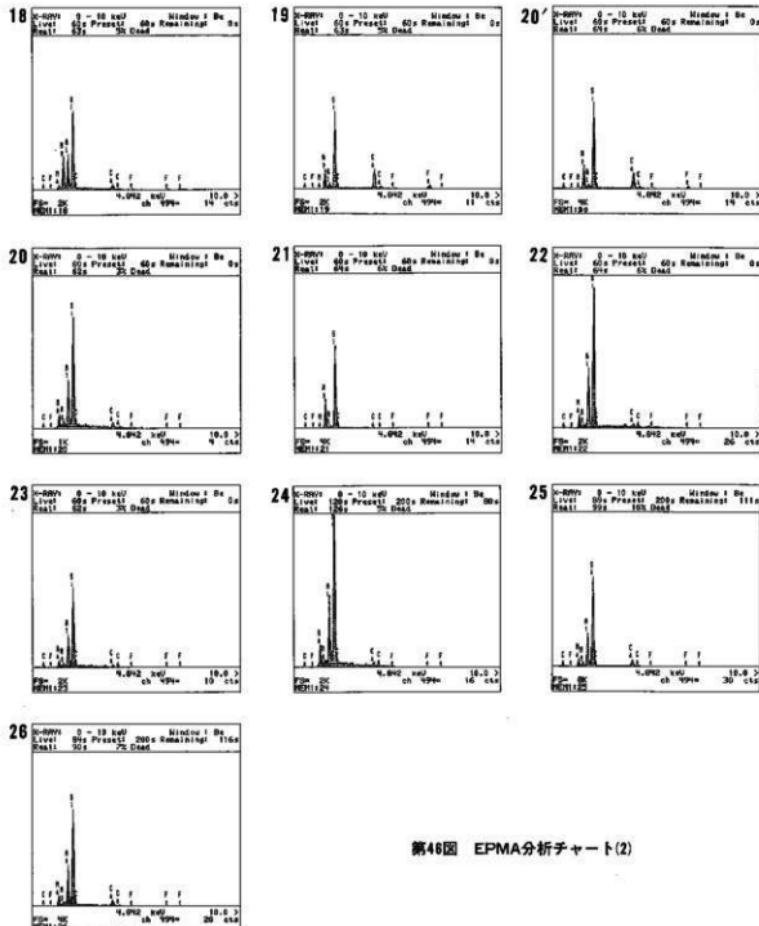
ひすいの原石・剝片が多く出土した長野県内の遺跡は管見のところ、ひすい攻玉遺跡とされた大町市一津遺跡、攻玉遺跡の可能性ありと報告書に記述されている中条村宮遺跡、戸倉町円光房遺跡等がある。いずれも後・晩期の遺跡で、後・晩期になるとひすい攻玉遺跡が散見される。また原石が1点ないし数点出土した遺跡は、中期段階でも散見されるが、中期段階でこれだけ多くのひすいが出土した遺跡は当遺跡が初めてと思われる。ひすいの攻玉は、原石を近場で入手可能な新潟県西部・富山県東部で中期初頭ないしは前期末に始まったとされ、この地域に攻玉遺跡は集中する。中期段階ではこの地域に限られ

第8表 県内ひすい出土土壙一覧表

地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名
御代田町 滝沢	D-58土壤	不明	不明	不明	3.5×2.3×1.2	越之内I式
SK-130	89×95×42	不整方形	不整形状	3.3×3.2×1.8 原石	後期	町教委 1997 「鬼沢遺跡」
小城市 石神	SK-183	159×171×56	不整南北形	不整形状	2.5×1.4×1.1 原石	後期
	SK-421	74×86×34	不整	不整形状	6.0×2.7×0.4 原石	市教委 1990 「石神」
			圓丸長方形		2.5×3.0×2.0 原石	不明
鬼尻市 上木戸	29号土壤	140×90×60	圓丸長方形	椭状	3.0×1.9×1.2 3.7×2.2×1.1 4.6×2.5×1.1 5.1×1.6×1.3 5.2×2.7×1.3	中期後半 (III~IV)
鬼尻市 柿沢東	S3	95×90×40	円形		5.5×2.5×2.0	中期後半
柿高町 摩山	第1号 配石遺構 P37	80×65×110	橢円形	円錐状	4.65×2.26×1.00	中期後半III
明利町 北村	SH824	125×70×15	圓丸長方形	皿状	2.1×1.6×0.7	椭之内II
山那村 淀の内	SK-034 (140)×105×80	椭円形	椭状	8.8×3.0×2.0	中期後葉III	
	SK-049 (115)×90×75	椭丸方形	椭状	6.2×2.8×1.2 3.5×1.9×0.8	中期後葉IV	
岡谷市 栗久保	257号小窓火 331号小窓火 451号小窓火 481号小窓火	137×100×66 162×90×83 (小窓火) 80×80×73	長椭円形 長椭円形 椭状 椭円形	タライ状 (小窓火) (小窓火)	6.1×2.1×1.5 5.6×2.2×1.1 5.4×2.8×2.1 原石	中期中~後葉 中期中~後葉 中期中~後葉 中期中~後葉
(窓火中より)	140×110×78	小判形			(小窓火点及びコハク1点)	後期
辰野町 櫛口内城	土壤17	100×100×	円形	椭錐上	5.0×2.3×0.7 磨片	未報告
茅野市 酒内中原	2号土壤		椭円形		5.3×2.1×0.9	県教委 1979 「長野県中央造垣文 報告書 -辰野町セ の2」
茅野市 櫛烟	第5号土壤 第500号土壤 第585号土壤	230×200×92 (他遺構に大半切られ)	円形	タライ状	4.0×2.2×1.0 5.3×2.7×1.2	中期後葉 中期後葉 中期後葉
		94×60×50	椭円形	椭状	5.0×2.4×0.9	不明
茅野市 立石	六688	115×71×43	椭円形	タライ状	6.1×2.1×1.6	市教委 1994 「立石遺跡」
	六782 六836	90×60×10 130×80×28	椭円形 椭円形	皿状 タライ状	5.5×2.6×1.5 3.1×2.3×0.6 4.4×2.6×1.2	不明 不明
茅野市 聖石	SK-885 SK-111 SK-587				5.4×2.9×1.8 6.1×2.1×1.6 5.5×2.6×1.5	未報告
					5.3×3.3×1.6 6.7×3.0×1.5 4.5×3.3×2.1	
茅野市 中ヶ原	第614号土壤	130×110×37			5.2×2.4×1.2 5.3×3.3×1.6 6.7×3.0×1.5 4.5×3.3×2.1	未報告
	第207号土壤				9.85×2.68×1.69 1.47×1.12×	
					1.47×1.15×	
茅野市 長峯	SK-2618 SK-2370 SK-2025 SK-1481	100×70×25 100×70×25 50×50×20 50×50×20	椭円形 椭円形 椭円形 椭円形	タライ状 タライ状 皿状 タライ状	9.9×3.6×1.7 6.5×2.7×1.7 5.6×3.4×2.0 3.0×2.0×0.9	中期後半 中期後半 中期後半 中期後半
茅野市 勝山	239土	計測不可	不整形	皿状	3.0×1.6×0.8	不明
茅野市 上の平	第253号土壤				(1点出土)	市教委 1994 「勝山遺跡」
茅野市 大桜					(3基の土塁から3点出土)	未報告
富士見町 周平					(4基の裏穴から5点 (最大のものが8.6cm))	未報告
駒ヶ根市 高見原	62号土壤	170×85×48	長椭円形	鉢状	7.0×3.2×2.2	中期後半 曾利I式
駒ヶ根市 の場門前	土壤153	180×130×63	椭円形	椭状	5.3×3.9×1.2 3.7×1.7×1.1 3.0×1.8×1.8	市教委 1995 「の場門前遺跡」
松川町 黒見V	5号土壤	150×150×105	不整円形	円錐状	6.8×4.5×3.3 原石	市教委 1973 「長野県中央造垣文 報告書 -下伊那郡松川 町地内」



第45図 EPMA分析チャート(1)



第46図 EPMA分析チャート(2)

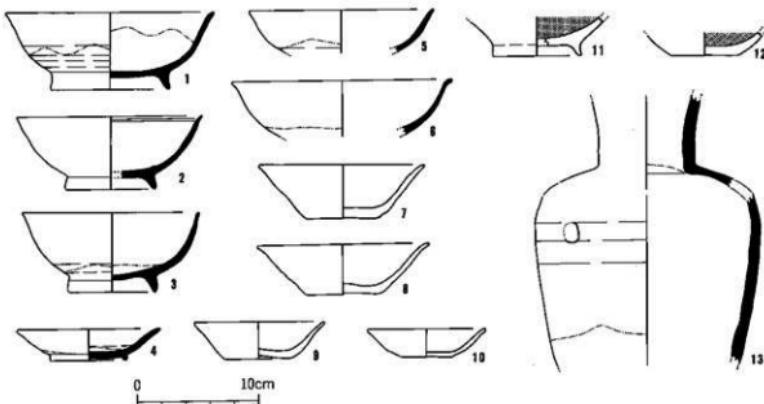
るが、後期になるとこの地域から離れた場所でも攻玉遺跡が見つかっている。となると当遺跡発見のひすい原石・剝片はどう解釈したらよいのか。攻玉遺跡であれば加工道具である敲石・筋砥石、そして工作過程で生じる屑や未製品が數多く存在するはずであるが、当遺跡からは今まで出土例がない。また加工された垂飾でなくとも、ひすいという岩石が持つその緑色に魅せられ所有する意義を有し、原石・剝片を持ち込んだ可能性も考えられる。垂飾同様に土壙内からひすい原石が出土した例は、松川町里見V遺跡5号土壙、岡谷市梨久保遺跡481号小豊穴等にあり、この様な思考の現れと思われる。その他にも解釈の仕方はあると思うが、現段階での判断は難しい。ここでは可能性の提示にとどめたい。

第7表 分析遺物一覧表

分類 番号	大きさ 表中古器	土器 表中古器	時期	高さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	重さ (g)	式名	付手の 名前	付手の状況 (付手)
1 270	西5住	中期II段階	43	28.5	13	22.3	ひすい縫石器	刺片		
2 69	東6住	中期I段階	59	37	9	20.8	ひすい縫石器	刺片		
3 70	東6住	中期I段階	42	41.5	17.5	53.0	ひすい縫石器	丸割鋸歯か		
4 71	東6住	中期I段階	43	29	12.5	20.0	賣長石			
5 66	東6住	中期I段階	25.5	21	20	18.6	ひすい縫石器	丸割鋸歯か		
6 118	西6住	中期I段階	61	30	12	48.1	ひすい縫石器	刺片		
8 140	西8住	中期I段階	26	14	6	2.8	ひすい縫石器	刺片		
9 139	西8住	中期I段階	33	22	19	8.2	ひすい縫石器	刺片		
10-2 138	西8住	中期I段階	36	20	6	7.9	ひすい縫石器	刺片		
11 64	東6住	中期I段階	33	23	5	10.2	ひすい縫石器	刺片		
12 73	東6住	中期I段階	51	47.5	31.5	114.4	ひすい縫石器	研石		
13 136	西8住	中期I段階	45	35	28	45.5	ひすい縫石器	丸割鋸歯か		
14 74	東6住	中期I段階	47	37	25	66.8	ロジン器	分析番号ハンコ		
16 (4 3)	遺構外	不規	38	34	15	22.8	ひすい縫石器	刺片		
17 141	西8住P10	中期I段階	63	33	13	33.5	ひすい縫石器	刺片		
18 137	西8住	中期I段階	38	19	13	14.2	ひすい縫石器	刺片		
19 67	東6住	中期I段階	69	34	20	51.1	ロジン器			
20 234	P607住	中期I段階	73	37	15	56.5	ロジン器	分析番号ハンコ		
20 (4 3)	SK-049	中期I2～I3段階	35	19	8	10.3	ひすい縫石器	研磨		
21 (4 3)	SK-060	中期I0段階	39	12	7	3.5	蛇紋岩	鑿跡		
22 72	東6住	中期I段階	54.5	48	19.5	73.3	ひすい縫石器			
23 (4 3)	SK-049	中期I2～I3段階	52	28	12	28.2	ひすい縫石器	鑿跡		
24 (4 3)	SK-054	中期I0段階	88	30	20	99.8	ひすい縫石器	研磨		
25 68	東6住	中期I段階	33	30	25	36.8	ひすい縫石器	丸割鋸歯か		
26 65	東6住	中期I段階	86	50	36	246.6	ひすい縫石器	原石を3分割削した状態		

## (2) 平安時代の遺物 (第46図)

SB-07から出土の土器13点を図化提示した。灰釉陶器碗(第47図1～3、5・6)は、体部の腰の部分が張る深碗の形状をなし、漬掛け施釉で底部には回転糸切り痕が認められる。灰釉の段皿(4)は、体部から口縁部へ直線的で、口縁部はあまり外反していない。土器器杯(7～10)は、クロロ調整で底部に回転糸切り痕が認められる。黒色土器A(11・12)は底部付近のみの破片で、灰釉陶器瓶(13)も復元図化した破片資料である。土器の様相から、中央道長野線発掘調査報告書の時期区分で13期に位置付けられる。



第47図 平安時代の土器

## IV まとめ

平成4年の第1次調査で環状集落跡を発見して以来、この度の調査は第4次調査となった。今調査最大の成果はなんと言ってもひすい製垂飾3点の発見で、新聞の1面に掲載された事もあり一躍注目を浴びた。幅4m弱の細長い調査区であって、範囲が南へ1m寄っていればこの発見はなかった事になり、幸運であったとしか言い様がない。それ以外にも縄文前期中葉～後期前葉、平安時代の遺構・遺物を発見することができた。今迄の発掘調査成果を加え淀の内遺跡の様子について記しまとめとしたい。

この地に人間が暮らし始めたのは縄文時代前期初頭まさかのばかり、第1次調査で発見された中越式期の堅穴式住居址3軒が注目される。今回の調査ではそれに次ぐ前期中葉関山式期の堅穴式住居址を1軒検出した。住居址の範囲すべてを調査できなかったが、この期の資料を得ることができたのは成果の一つである。前期末については、第2次調査で数点の土器片を得ている。中期初頭では、第2次調査で土壌30基程を検出しており、あまり多くはないが梨久保式の土器も発見された。なお本調査でもSK-098の1基がこの時期の遺構として発見されている。中期中葉になると遺構・遺物共に発見例が増え、第1次調査東側調査区を中心として住居址が検出されている。その中でも猪沢式～藤内式の、中葉前半に該当する住居址は多いが、中葉後半の井戸尻式期は住居址が少な目で、集落規模が縮小傾向であったと考えられる。しかし中期後半になるとまた住居址の検出例が増え、集落はピーク期を迎える。この期の集落はいわゆる環状集落の形態を呈し、今回は東西に細長い調査区であったため、これを横断する形となつた。4区でその西部分を、そして3区西半が広場に該当する区域、3区東側から2区が環状集落の東部分である。この時期の環状集落は住居址が巡っていた部分の長さで東西80～90mと言え、遺跡範囲の中で南北に寄つて存在する事になる。中期になると集落は衰退へと向かうが、今調査ではこの期から後期初頭の遺物を比較的多く発見することができた。後期初頭稱名寺式の土器は松本平でもあまり見られず、資料が蓄積できたのは成果であった。これに続く後期前葉堀之内式期の土器も本調査で発見されたが、集落全体から見るとその量はごく僅かで、後期になると細々といった状況になる。またこれ以降生活の痕跡は、弥生後期箱清水式期の壺胴部下半破片資料1点が第2次調査で発見されているのみで、平安時代までほぼ人間が住んでいない。平安時代の堅穴式住居址は第1次調査で1軒、本調査で1軒が発見されているのみで、縄文中期後半に比べれば寂しいものである。こうした変遷を遂げた後、長い期間林野や畠であったと思われるが、最近はまた人々が多く暮らす住宅団地ができた。いまなお遺跡周辺での宅地開発は盛んで、遺跡の保護には良い傾向ではないが、この地は縄文時代中期後半以来、4000年余の時を経て再び賑やかな状況になったということになろう。

調査以来、ひすい製垂飾や縄文時代の暮らしぶりについて話をさせていただく機会を多く持った。この調査が、はるか昔の縄文時代について興味をもっていただける良い契機になったと思う。それこそが本調査最大の成果であったと感じる。

最後になりましたが、調査実施にあたり御理解と御協力いただいた関係者の皆様、炎天下で汗を流し、小雪ちらつく寒空のもと身を震わせ現場作業に携わっていただいた作業員の皆様、調査から整理作業まで様々な御教示を賜った皆様に感謝申し上げ、本書を締めくくりたい。



1区調査前全景



2区調査前全景



3・4区調査前全景

図版 2



左上：1区全景 右上：2区全景 左下：3区全景 右下：4区全景



上：SB-05 下：SB-06

図版 4



上：SB-07 下：SB-08



SK-001 遺物出土状況



SK-005



SK-007 遺物出土状況



SK-007 土層断面



SK-010 土層断面



SK-045 遺物出土状況



SK-055



SK-060 垂飾出土状況

圖版 6



SB-06 遺物出土狀況



SB-07 遺物出土狀況



SK-123



SP-229



SB-06 埋甕



SB-10 埋甕



SB-06 爐



SB-08 爐



3区遺構検出状況



4区遺構検出状況



表土除去作業風景



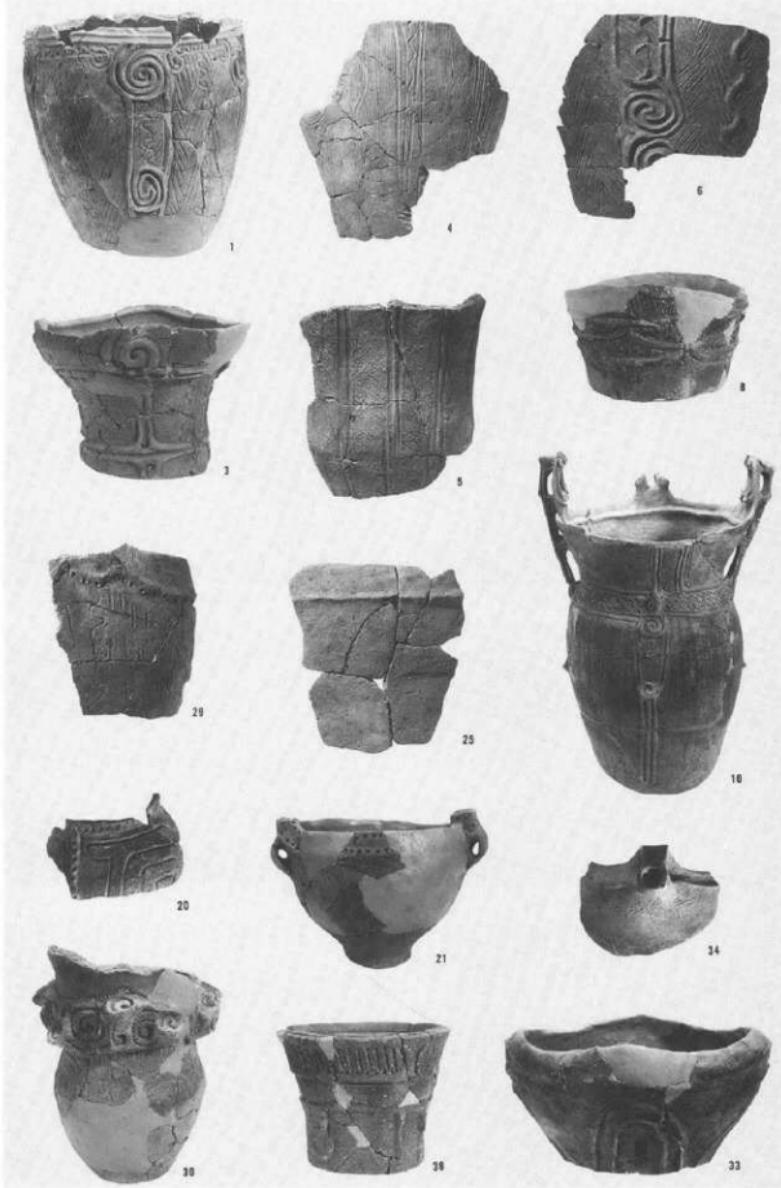
表土除去作業風景



作業風景



作業風景

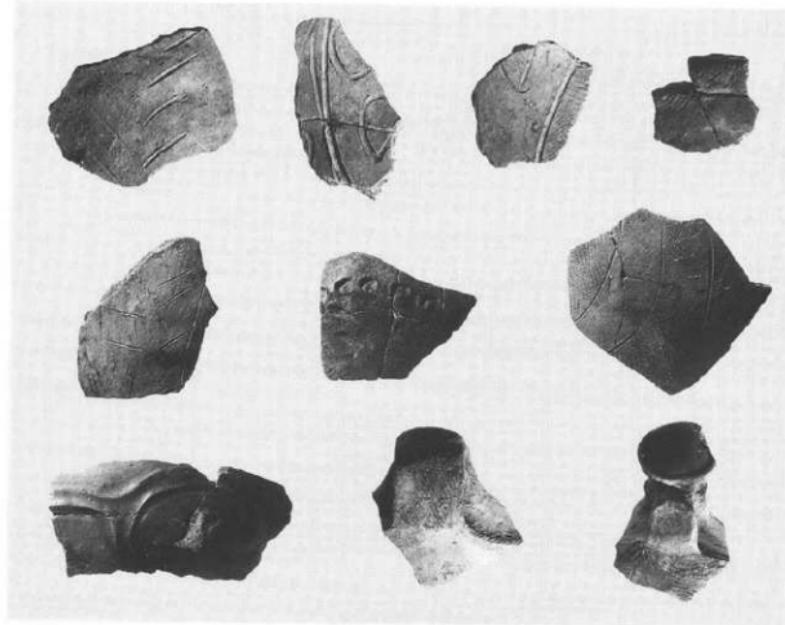


縹文土器(I)

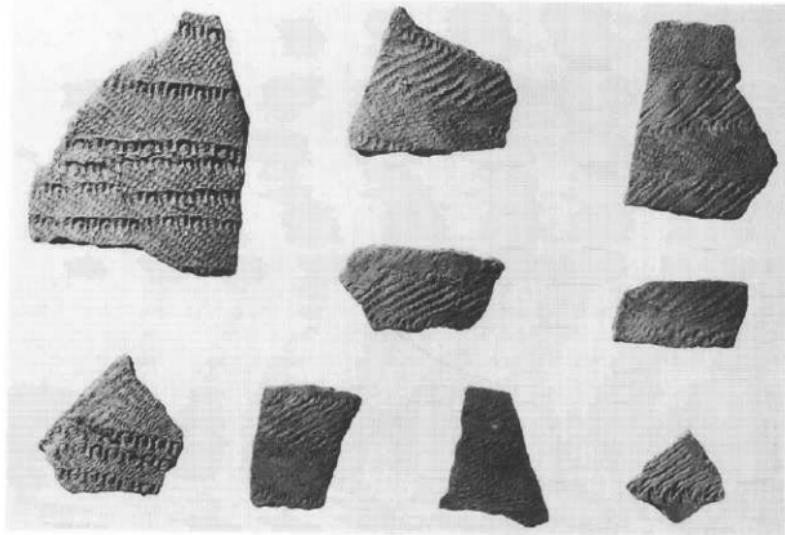


繩文土器(2)

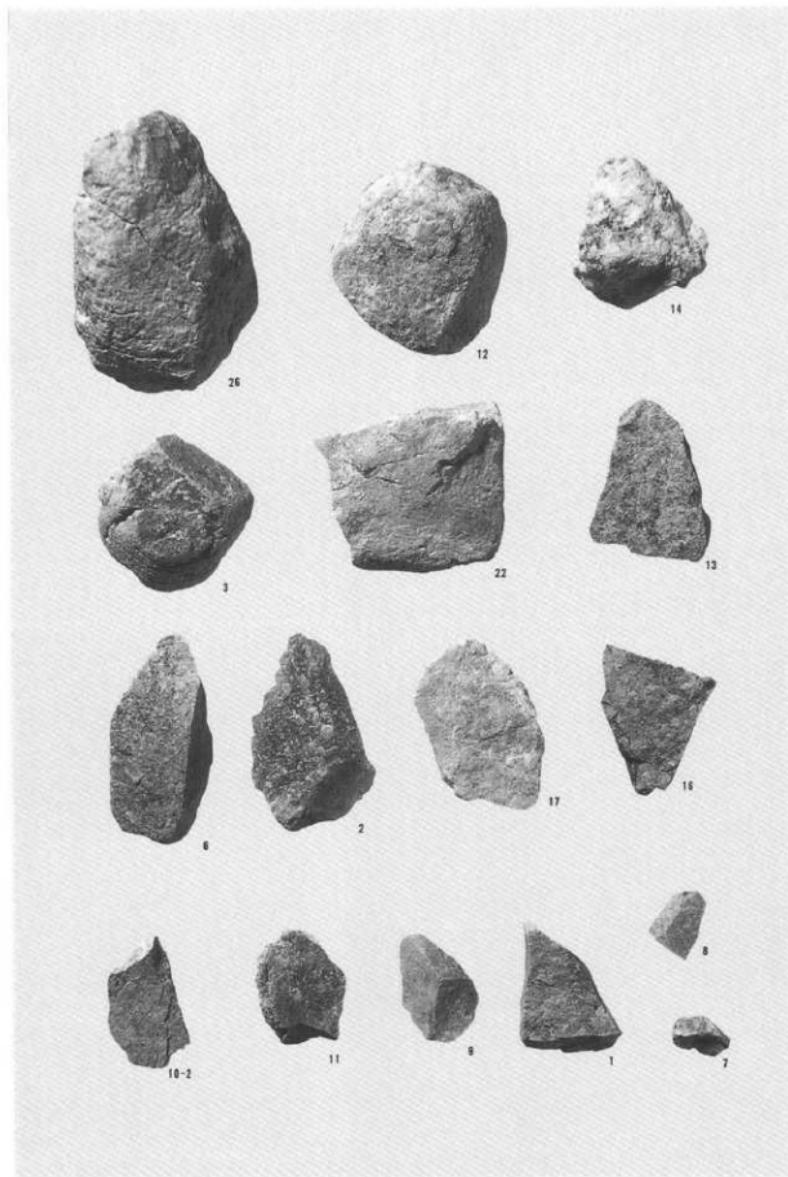
図版10



縄文中期末土器

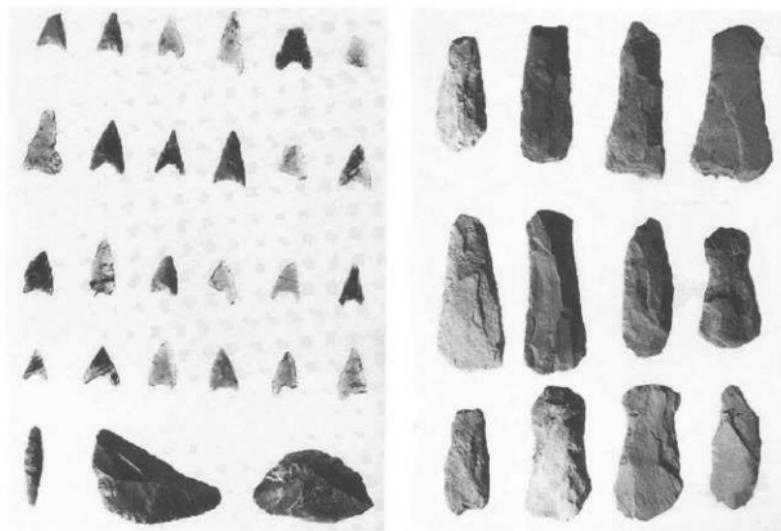


SB-05 出土土器

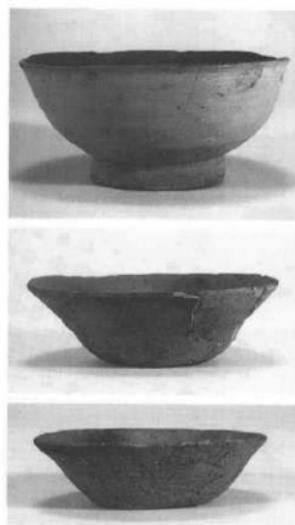
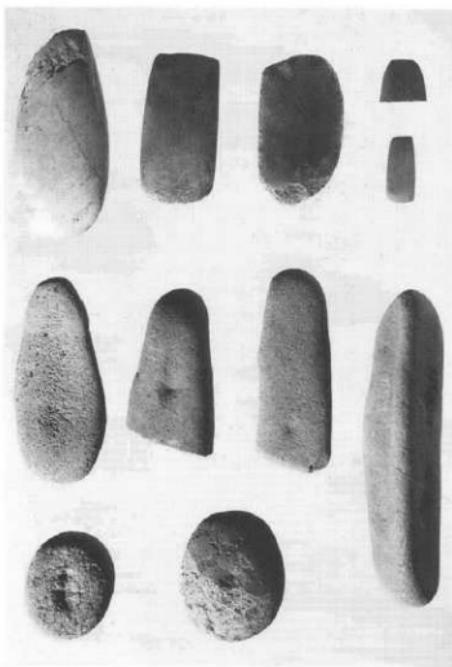


淀の内遺跡出土ひすい原石・剣片等

図版12



縄文時代の石器



平安時代の土器 (SB-07)

報告書抄録

ふりがな	よどのうちいせき 4						
書名	淀の内遺跡IV						
副書名	村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	山形村遺跡発掘調査報告書						
シリーズ番号	第11集						
編著者名	和田和哉						
編集機関	山形村教育委員会						
所在地	〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL 0263-98-3155 FAX 0263-98-4256						
発行年月日	2001年3月30日						
所収遺跡名	所在地	コード 市町村・遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
淀の内	長野県 東筑摩郡 山形村 216-5他	204501 3	36° 9' 0"	137° 52' 47"	1998.11.10 ～11.27 1999.5.6 ～6.23 1999.11.15 ～11.30	550m <sup>2</sup>	村道2級1号線 拡幅工事に伴う 緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
淀の内	集落跡	縄文	竪穴式住居址 14 土壙 122 ピット 382	縄文前期関山式土器 縄文中期末 ～後期初頭土器 ひすい製垂飾 3	縄文前期関山式期の竪穴式 住居址 1基の検出。後期初 頭称名寺式の土器出土。2 つの土壙内から 2 点と 1 点 のひすい製垂飾が出土。		
		平安	竪穴式住居址 1	土師器 灰釉陶器			

---

## 淀の内遺跡 IV

—村道2級1号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書—

平成13年3月23日 印刷

平成13年3月30日 発行

発行 山形村教育委員会

印刷 藤原印刷株式会社

---

